

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

新年度が始まりました。入学・進級おめでとうございます。

沼中生一人一人が、心身ともに健康に成長し、人とのつながりや社会との関わりを自覚しながら、自己を確立し、それぞれが使命と役割をもって社会で役に立つ人間に成長していくことを願い、沼中の生徒指導委員会では、今年度も生徒指導通信「少年の夢」とめらの希望」を発行していきます。夢や希望の実現に向かって、自ら力強く動き出せるよう応援しています。年間25号の予定ですが、どうぞよろしくお願いします。

大海への船出に際して

4月1日付の上毛新聞の「三山山「春秋」というコラム記事に、新生活を迎える若者に対するメッセージが掲載されていました。



全くの苦労知らずであった私にとって新しい生活を始めること(略)無限ともいへば大海に船出することは、決して小さな企てではなかった

これは先月出版された『新島襄自伝手記・紀行文・日記』(岩波文庫)の中の「私の若き日々」からの引用です。幕末、国禁を犯して密出国しアメリカに渡った22歳の新島襄の、命がけの行動からは、自由を求める青年の熱い思

いを感じます。

未来のことを思うと、新たな勇気が湧いてきた。ふり向いて故郷を見る代わりに、前方の中国(上海)の目を向けた。

情熱的な青年をつき動かしたのは、

国のことを思い、自らの未来を切り拓こうという志だったように思います。ちなみに、上毛カルタ「平和の使い新島襄」で知られる新島は、NHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公・八重の夫であり、もう少し先になります。がドラマにも登場するようです。

8日の始業式・入学式を緊張の面持ちで未知の環境に飛び込んだ沼中生は、「無限ともいへば大海に船出」した新島の姿と重なって見えます。たくさんの困難・苦勞の向こうに、喜びがあることを期待しています。

沼中ノート

昨年度同様、今年度も「沼中ノート」を作成しました。毎日の日記、家庭学習の計画と反省、翌日の教科連絡など書き込めます。また、月別行事予定、学びの約束、家庭学習のヒントも収録されています。そのうえ、新しい試みとして、家庭学習のきっかけを作るために、1週間1教科程度のペースで取り組める問題も掲載しました。中学1年生レベルの内容で、国・数・英の3教科です。よりよい生活習慣の確立の向けにも有効に活用しましょう。

内容は、国・数・英の3教科です。よりよい生活習慣の確立の向けにも有効に活用しましょう。



人生の主人公

この人生は、だれのものでもなく、私自身のものだから、自分の力で、立ち、自分の力で、歩いていきたい

一度しかないから、だれにも任せられない、私が描く、自分自身の物語、今はまだ、わからないこともたくさんある、できること、できないこと、夢と希望、不安と恐れ、まわりに流されそうになったり、だれかにふりまわされたり、投げやりになったり

そんなときは、心の声に耳をすますと聞かせてくるんだ、私は、どう在りたいのか？、これは、在るべき自分の姿なのか？、簡単に答えは出ないけど、いつも問いかけながら、歩いていくよ、他のだれでもなく、私自身であるために、これが自分だと、胸を張って言えるように、この人生の主人公は、私なのだから、自分自身で描きたい、私の中の一番輝いている自分を、『心のノート』より

思春期を迎え、時々自分のことがわからなくなるときがあるかもしれませんが、素直な気持ちで自分を見つめましょう。

待望の新校舎完成

新しい校舎は、全国的にも珍しい平屋の建物です。教職員を含めると450名近くが北校舎に収まっていた昨年度に比べ、ゆったりとした感じがします。横幅が1m広がり天井の高い教室、広くて長い廊下、大きなガラス越しに見える広場、自動で点灯するトイレなど、充実した設備を整えていただきました。感謝の思いをもって大切に使用しましょう。



生活向上オリエンテーション

4月10日(水)の5・6校時、体育館にて「生活向上オリエンテーション」を行います。昨年度は1時間の取組でしたが、新校舎での新しい生活に伴い1時間拡大しました。主な内容は、次の通りです。

- 生活のルール(新校舎の生活を含む)
 - 掲示板の利用
 - 保健室の利用
 - 相談室の利用
 - 情報モラル
 - 図書室の利用
 - 体育館の利用(昼休みの使い方を含む)
- 生活のルールやマナーを守り、充実した学校生活を送りましょう。



次号は、4月17日発行予定です。10日に行う「生活向上オリエンテーション」の様子を紹介します。

少年の夢をとめらの希望

8日から始まった平成25年度も、10日間が過ぎようとしています。身体計測や新入生歓迎会なども終わり、授業も本格的に始まりました。そこで、今回は本(教科書)の扱い方を紹介します。

真新しい教科書をどう使い始めたらよいと思いますか。

本はページを繰って読んでいくので、最初に、本に対して、繰られることになじませる作業をします。どのページを開いても、開いたままの状態に安定し、元へ戻らないようになじませるようにはしたいのです。厚い教科書は、この作業を怠ってしまうと、読みにくだけでなく、本にゆがみが生じ、傷みやすくなります。手順は次の通りです。

1. 表紙を上にして教科書を机の上に置く。
2. 表紙を、平面になるまで開く。
3. 開いた折り目(「のど」という)に、右手中指を少し強くあて、たなこところで全体を押さえながら、上から下へ滑らせる。手を離しても、表紙が跳ねて閉じなくなるまで押しなじませる。
4. 元へ戻して、裏表紙を開いた後3と同じことをする。
5. 元へ戻し、今度は本の真ん中あたりを開く。先と同じようにしなじませる。
6. 元へ戻し、次は全体の四分の一、四分の三、以下、八分の一、



八分の三、八分の五、八分の七ページくらいのところを開いては、先と同じようになじませていく。

7. どのページを開いても、跳ね返って閉じることなく、開いたままの状態に安定するまでなじませる。

以上が、「イラストでみる楽しい「授業」入門」(家本孝郎 高文研)に紹介されていた、「新しい本の下ろし方・使い始め方」です。ぜひ、各教科の教科書を使いやすくなじませてみてください。

生活向上 オリエンテーショニング 報告

10日(水)の午後、全校生徒が体育館に集まり、生活のルールなどを確認しました。新校舎での生活が始まり、清掃のしかた、掲示物の貼り方、教室や廊下、保健室などの利用法を確認しました。ガラスや木材など、美しい反面、壊れやすい点も併せもつ校舎を、機能的かつ美しく使おうと考えています。スクリーンや話し手である先生方の顔を見る目がとても真剣でした。また、相談活動や情報モラル、体育館や図書室などの使用についても説明がありました。さらに、最後に、学級・学年を中心としたよりよい人間関係を築いたり、一人一人が自己肯定感を高めたりすることを目的に、PA(プロジェクト・アドベンチャー)を体験しました。PAという活動では、「居心地のよい環境」づくりを目指しており、人の話を聴くことで、多くの気付きを得たり、互いに支え合ったりする力も向上するようです。

「気持ちい」にあふれ、「美しい心」が表れる 美しい所作・振る舞い

輝く沼中生



☆廊下で荷物を運んでいると、「何かお手伝いすることはありますか」と申し出る男の子がいました。

☆居いたばかりの教材を段ボールから出していると、ハサミを持った女の子が現れました。「先生、よかったら使ってください」優しい声かけでした。

☆休み時間、可動式黒板の前で、ある男の子がつぶやきながら、高さを調整していました。「〇〇先生は、このくらいの高さでいいかな」

制服について考える①

学校という場への制服の導入は、学習院が発祥と言われています。制服は、華やか結婚式でも着用され、服飾文化においては「フォーマルウェア」になっています。

フォーマルウェアの着こなしにおける最大のルールは、「ドレスダウンは存在しない」という点です。燕尾服の袖をまくって結婚式やノーベル賞授賞式に参列する人はいません。つまり、制服を「着崩す」という概念は存在しないのです。よって、制服を着崩している人は、格好つけているようですが、むしろ「フマッションを知らない」ということです。これは、全世界共通の服飾ルールです。

ニッケ(日本毛織株式会社)が発行している学校情報誌「compass」に、制服に関する次のような記述がありました。

「中学校は赤いリボンのセーラー服で、高校はブレザーでした。どちらかひとつではなくて、両方染めたので良かったですね。私の世代はルーズソックスが流行った最後の方だったので、足がきれいに見えるかもしれないけど、なんとなくだらしのないと思っていました。制服を着るときは「清楚に賢く見えたらいいな」「体型がきれいに見えたらいいな」と着こなしには特に気を遣っていました。

一方で、個性を出したいからと着崩す気持ちもよく分かります。ですが、あまり着崩し過ぎるにはだらしなく見えるのでよくないと思います。また、皆がやっているから同じように(着崩し)するのは何か違うなと思います。個性の発揮なんかじゃなくて自分の殻に閉じこもっているだけのような。」

加藤夏希さん(女優・モデル)

「制服は社会性を守るツールでもあり、きちんとした身だしなみを心掛けることで、社会で自立できる人材の育成にも一役買っています。生徒たちは今の制服を誇りを持って着用しているため、目立った着崩しはありません。」

岡田聡校長(北海道斜里高校)

※次回、「制服について考える」の続きを掲載します。



次号は、4月26日発行予定です。大型連休の過ごし方について紹介します。

少年の夢をとめらの希望

今週末から大型連休です。

4月27～29日、5月3～6日の合計7日間が休日となります。

この間、各部の市春季大会なども計画されていますが、家庭や友だちと過ごす時間も増えることが予想されます。

そこで、より充実した時間にするため、「保護者の皆様へ」というプリントを配付し、学級で注意点を確認しています。主な内容は次の通りです。

1 事故防止対策

- 交通規則を守る。
- 危険な遊びをしない。
- 遠方に出かける際、保護者同伴を原則とする。
- 雪解け水で増水した川に、魚釣りに行かない。
- 外出する際は複数で行動し不審者等に注意する。



2 非行防止対策

- 「生活指針」をしっかり守る。
- ゲームセンターへ出入りしない。
- 商店などで、万引きを疑われるような行為をしない。
- 外出時は、帰宅時間(目安は18時)を守り、服装に注意する。

- 夜間は遊びに行かない。
- 飲酒・喫煙・シンナー吸引など、法律に反する行為をしない。

非行防止教室

23日の3校時、全校生徒を対象に、非行防止教室を実施しました。講師は、毎年お世話になっている、沼田警察署のスクールサポーター、高橋正行先生でした。30分という短い時間の中で、いじめや万引き、携帯電話などについて、実例を紹介しながら安全に生活するヒントを教えてくださいました。具体的なアドバイスは、次の通りです。

- ☆ 携帯電話は持たない。
- ☆ 携帯電話を内緒で持っている子は、成績が低下している。
- ☆ 携帯電話や自宅のパソコンからのトラブルが増えている。
- ☆ 万引きをしない。多くのケースが、捕まるまで続けてしまう。商品を作った人、運んだ人、売った人、親など、多くの人に迷惑を掛ける。
- ☆ トラブルに巻き込まれないよう、ゲームセンターに行かない。
- ☆ 学校生活をしっかりと送ることが大切だ。
- ☆ 親に迷惑を掛けない。



4月の生活目標 新しい生活に慣れ、心も体も元気でいよう

頑張れ 市春季大会

対局中は、もちろん相手とも戦っています。同時に、迷いや恐れといった自分自身の中にある弱い気持ちとも戦っています。



この「弱い」部分というのは、自然な気持ちであると思います。だれしもリスキは避けたいと思うし、それゆえに迷いが生じることがあるでしょう。しかし、自分の弱さに負けていては決して進歩は望めない。決してよい決断を下すことはできません。

また、最近「キレる」という言葉がよく使われますが、私も対局中に、「キレる」感覚に陥ることがあります。ずっと集中していると、どこかでブツンとキレてしまったり、そこから根気よく考えることができなくなってしまうことがあるのです。

ただ、一度「キレる」経験をすると、どういう状態になったら「キレる」のかということもわかってきます。そこで、どうしてそういう状況になってしまったのか、ということ振り返り、改善する方法を考え、次は同じ失敗を繰り返さないよう心がけています。

「キレる」ことを防ぐ一番の方法は、平常心を保つことだと思います。私も、自分の思いどおりに対局が進んでいる場合は、やはり気分がいいです。反対に、調子の悪いときは苦しい、早くそこから逃れたいと思います。

しかし、よい場面が続くと、油断につながりかねません。悪い局面から逃げ出しても決してよい結果にはつながりません。ですから、対局中は常にできるだけ感情の波を小さくおさえるように努力しています。

羽生善治『挑戦する勇氣』(朝日新聞社)

制服について考える

4月17日に発行した生徒指導通信の続編です。



「制服には大きく2つの側面があります。ひとつは帰属意識です。同じ制服を着ることで『横浜翠陵の生徒である』という仲間意識や連帯感が生まれます。もうひとつは、ルールを学ぶ機会になるということです。制服もルールのひとつです。『ルールが何のためにあって何故守らないといけないのか』を生徒たちが学ぶことができる分かります。例が制服だと思えます。ルールは集団の中で秩序を保つために必要なものですが、秩序を守ることは自分のプライドを守ることにも繋がると考えています。また、制服が愛校心を育み、ルールを学ぶ機会となってくれることを願っています。」

佐久間健一校長(横浜翠陵中学・高校)

「全員揃って同じ方向を向いて、例えば今から勉強するとかクラスで何か取り組みをする際に、『ムード作り』や『生徒の意識付け』に役立っていると思えます。皆が同じ制服で、教室で揃って前を向いて授業を受けていると一つの方向性を感じます。」

田中英世校長(吹田市立第二中学校)

帰属意識や一体感、安全性など、改めてその価値を見直し、制服を通して豊かな人間性を身に付けてもらいたいと願っています。

次号は、5月1日に発行する予定です。主な内容は「5月の生活目標」「新校舎の生活ルール」などです。



職員から学び、考えるヒントにしましょう

少年の夢をとめらの希望

夢と希望を胸に抱きながら、意欲的な1カ月を過ごせました。校舎が新しくなったばかりではなく、沼中全体が新しく生まれ変わった印象を受けます。

そこで、初心(今年度のスタート)を思い出し、ゴールデンウィーク明けの生活がより安定し、充実していくよう、喜多川泰さんが著した『スタートライン』(ティスカヴァー・トゥエンティワン)を紹介いたします。まず、表紙カバーの裏に次のような文章がありました。期待と勇気が湧いてくる内容です。

「自分のやりたいことに挑戦する勇気を持った人にとっては、未来には、今君らが考えている以上に、楽しいことであふれた毎日が待っている。将来の君らは、今の君らが想像もできないほど大きなことをやって、多くの人の幸せを左右する存在になっているはずや。」

ちなみに、以下は、昨年度の群馬県公立高校入学試験の後期選抜において、国語の問題に出題されていた文章です。席替えをして四日目の四時間目、三年生になつてはじめて日本史の授業があった。

「宮下先生はどんな話をしてくれるんやろう」
「ぼくは、最初の授業に期待していた。もちろんこの日のためにノートを新調してある。」

ぼくは、チャラッと隣を見た。彼女は机の上に見たこともない日本史の教科書を置いて、授業を待っていた。転校してきたばかりなのに、教科書が間に合わなかったのかもしれないが、それだけが理由でもなさそうだった。

5月の生活目標

あいさつで笑顔の輪を広げ、潤いのある人間関係を築こう

日本史の教科書には色とりどりの付箋が貼つてあり、いろんな資料やメモを挟んでいるように、もとの二倍ほどの厚さになっている。ぼくは思わず、声をかけた。

「日本史、好きなん？」
彼女は、こちらを向いて微笑んだ。振り返ったときに揺れた髪の毛の香りが、優しくぼくに伝わってくる。思わずドキッとしたり、「わたしっ、こう見えて隣女だよ。オタク的なほど」

彼女はそう言つて笑つた。
ぼくは、嬉しくなった。この学校の日本史の先生はすごいぞ。きつと君が出会つたどの先生よりも日本史を好きにしてくれる。そう思つて、ひとりニヤニヤしてしまつた。

家族や親戚の自慢をする子どもみたいな気分だつた。
「日本史の先生どう？ 好き？」
ニヤニヤしているぼくに、

彼女のほうから声をかけてきた。
「えっ、ああ、ちよつと変わつて、熱いやけど、俺は好きじゃ」
彼女は、嬉しそうに微笑んだ。

「変わつてる人か。ふふふ。楽しみだわ。早く授業、始まらないかな」
それで、ぼくらの会話は終わった。
チャイムが鳴り、宮下先生が入つてきた。

同時に、学級委員が号令をかける。
「起立、気を付け。礼。着席」
みんなが座り終わつて、イスと床がぶつかる教室独特の音がやむのを待つてから、十分に間をとつて宮下先生は話しはじめた。

「人間、生まれてきたからには役割がある。ぼくはそう思つてる」
いつもながら唐突な入りだ。
ふつうの先生にありがちな、「えい、今日から新学期ですが……」とか「さて、今日から

江戸時代をやります」なんて言葉で授業を始めるのが宮下流だ。
チャラッと長森のほうを見ると、彼女はちょっと吹き出したように笑い、ぼくに向かつて目を丸くして見せた。でも、すぐに前を向き、食い入るように宮下先生の話を聞いている。

「君が生きてるといふことは、その役割を果たすといふことや。これからいっしょに、この国に生まれ、役割を果たして去つていった数々の偉人たちの人生を見つめていこう。歴史を学ぶひとつの良さは、人間は自分の役割を果たすために生まれてきたといふことを信じるに値する事例がたくさんあることなんや」
宮下先生はひとりひとり目を合わせるように、満足げに微笑んだ。

全員が顔を上げてひとつになる。
水を打つたような静けさ。
この雰囲気は、ぼくが知っている限り宮下先生にしかつくり出せない。

「ここまで、ええか？」
宮下先生が、緊張を解くためにそう言葉を繋いだ瞬間、長森が手を挙げた。
宮下先生は一瞬意外そうな顔をして、すぐに微笑んだ。先生にとっては言葉で繋いだだけだったので、転校生が手を挙げたことに面食らつたのたろう。

ぼくも驚いた。
彼女が授業で手を挙げたのは、ぼくが知る限りこれが最初だつた。
「どうした、長森？」
「先生の役割は何ですか？」
「おお」

クラス全体からどよめきが起こつた。そのどよめきにはぼくも参加している。
いきなりにして大胆な質問。転校生でなければなし得ない、いつもとは違う展開。いい緊張感だつた。

「人間は本気になれば、とてつもなく大きなことを成し遂げられる存在だ。じゃけど、ほとんどの人は『どうせ自分には無理だ』



と思つてる。自分の心にブレーキをかけているのは自分自身だつてことに気づいてない。俺の役割は、俺が出会ふすべての生徒の心のブレーキを外すことや。おまえたちは何だつてできる」
「おお」
さるなるどよめきが起こつた。

新校舎での生活も1ヵ月経ちました。より一層充実した生活を送るため、ルールを守り、マナーを向上させましょう。

□ あいさつ運動推進月間にちなみ、授業の始めと終わりのあいさつは、起立し、椅子を入れてあいさつする。

□ 登下校の際、校舎の軒先を歩いたり、東小や沼中の校庭、市保健福祉センターの駐車場などを横断したりしないようにする。

□ トイレや流しは、各学年のものを使用する。

□ 歯磨きをした後から廊下を歩き回らない。

□ 廊下には丁字路もあります(やがては十字路ができます)。広がらず、走らず、右側を通行する。

□ 学校指定のトレーナーは、5月末日まで使用できる。

次号は、5月20日に発行します。主な内容は「テスト」「教育実習」などです。

少年の夢をとめらの希望

23日(木)の中間テストを目前に控え、授業や家庭学習に力が入る時期です。沼田中学校の定期テストでは、1・2学期は中間テストと期末テスト、3学期は期末テストのみ行う予定です。その他にも、4月の学力テスト、長期休業明けの実力テスト、英単語を身に付けるスペリングテストなど、さまざまなテストが計画されています。

そこで、「学ぶ」ことについて考えていきましょう。

勉強がわからない、授業が面白くないと感じている人がいる

かもしれません。学ぼうという気持ちのない者にとっては、5・6時間に及ぶ毎日の授業は、苦行でしかありません。そのうえ、予習も復習もせず、寝不足な顔をして座っているだけでは、簡単な質問の答えにも苦労し、理解したり身に付けたりできるはずがありません。

学ぶ意欲を起させる言葉

★勉強は、しなさいと言われてするものではなく、したくなるとき初めて意味を持つものだ。

落合恵子(文筆業)

★学ぶ、とは新しい自分に出会うことだ。

一ノ瀬綾(作家)

★体験のある知識はひらめきを生む。

日下公人(経済学者)

作家の橋本治氏は『「わからない」という方法』という著書の中で、次のように書いています。

「わからない」をスタート地点とすれば、「わかった」はゴールである。両者をつなぐ「道筋」が見えてくる。「わかる」とはその道筋を地図に書くことである。「わかる」ことばかり求める人は地図を見ないで、ただゴールに着くことだけを命令する人である。そういう人は自分の通った道筋がまったくわからない。だから、「何もわからない」ままでいるのだ。

「わからない」から「やる」のは思考の始まりで、「わからないからやらない」のでは無知であり、無恥のままです。

本日、自らの夢を追いつつも、皆さんを応援してくださる5人の教育実習生を迎えました。共に学び、共に成長する大きなチャンスです。まずは中間テストに向けた準備を頑張ります。

高校入試

などを意識して、不正行為のない取り組みを呼びかけています。ケアレスミスに注意し、一分一秒も無駄にしない、高い集中力で、学習の成果を発揮しましょう。

定期テスト等の受け方

沼田中学校

1. 机の中を空にする。
2. 筆箱を机の上に出さない。
3. カバンはしっかり閉め、ロッカーにしまう。
4. 下敷きは使わない。使いたい場合は、試験監督の先生に許可を得る。
5. テスト用紙を配付したら、話をしない。
6. 物を落とした時や質問がある場合は、静かに手を挙げる。

あいつ運動

新しい1年間のスタートとなる4月と5月は「あいつ運動」に力を入れています。新校舎の建築に伴い、全校生徒が同じ玄関を使うようになりました。以前にも増して、あいつ運動がさわやかに展開されています。

いじめ防止活動

群馬県内すべての小・中学校、高校で、児童生徒主体のいじめ防止活動(沼田)は5月13日から6月14日が強化月間に取り組んでいます。いじめについて本気で考えるアンケート、のぼり旗を用いた啓発など、さまざまな活動を展開中です。詳細は次号で紹介します。

夏服

5月も後半になり、「衣替え」の季節が近づいてきました。今年度は6月3日(月)です。男子はYシャツ、女子は白いセーラー服と、さわやかな装いになります。そこで、5月27日(月)からの1週間を移行期間としますので、夏服の準備をお願いします。ただし、6月に入ってから、肌寒く感じる日は、男女ともに通学服(冬服)を着用してください。

学校指定トレーナー

2・3年生が着ている紺色のトレーナーは、10月から5月までが着用期間です。したがって、5月31日(金)までとなります。トレーナーの移行期間はありませんので注意してください。



あいつ運動推進月間

☆あいつに関するエピソード☆

近くに兄弟がいた。兄は勉強ができる。「あいつ」という漢字を書かせたら「挨拶」と書けるが、近所の人には挨拶したことはない。弟は勉強が苦手、で、「挨拶」という漢字は書けないが、隣近所の人にはきちんと挨拶する。両方できればいいことはないが、現在の学校の成績でいえば、兄のほうが上になる。しかし、弟のように実際に挨拶できることも学力であることは理解しておきたい。

家本芳郎「イラストでみる楽しい「授業」入門」(高文研)より

☆あいつに関するエピソード☆

4・5月は「あいつ」運動推進月間です。玄関前で毎朝行う生活委員のあいつ運動に加え、毎週水曜日はバスケットボール部員が参加しています。また、2学年は掲示物を作ったり、表彰制度を設けたりして、あいつを誇りに思える学校が築かれています。

お詫びと訂正

前号(5月1日発行)の「お知らせ」欄に誤りがありました。ご迷惑をおかけしました。訂正をお願いします。(誤)

トイレや流しは、各学年のものを使用しない。

(正) トイレや流しは、各学年のものを使用する。

次号は、6月3日に発行します。主な内容は「いじめ対策」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

連日、全国でいじめによる教育問題が報じられています。とても残念なことです。また、今年になってからは、警察庁や教育委員会から通知が発出されたり、教育再生実行会議からも提言が発表されたりするなど、全国的にいじめ問題への対応が強化されています。

今年度は、群馬県教育委員会の「いじめ問題対策推進事業」に伴い、県内すべての学校において、児童生徒による自主的ないじめ防止活動が展開されています。「オールぐんま」を合い言葉に展開される主な活動は、以下の通りです。

●群馬県教育委員会 主催

いじめ防止サミット 8月18日

各地区代表の小・中・高校生による情報交換、「いじめ防止宣言」の採択

いじめ防止ポスター・標語 9月

いじめについて考え、いじめを許さない気持ちや態度をまとめるポスター・標語づくり

●沼田市教育委員会 主催

いじめ防止子ども会議 12月2月

小・中学生の代表による各校の実践発表・話し合い

6月の生活目標

マラソン大会に全力で取り組みよう

「学びの約束」を大切にし、読書に親しみ、授業や家庭学習を充実させよう

（7日）
（30日）

●利根沼田地区中高生徒指導 対策協議会 主催

いじめ防止フォーラム 7月11日

小・中・高校生による実践発表や情報交換、ピアサポート体験

いじめ防止啓発資料配布 10月

8月18日の「いじめ防止サミット」を受けて作成される啓発資料の配布

いじめ防止活動計画の作成 4月

生徒会活動(専門委員会を含む)の一端として取り組む一年間の活動計画の作成

春のいじめ防止強化月間 5月

いじめが発生しやすい5月に、アンケート結果を基にして、生徒自身がいじめを防ぐための活動を考え、行動目標を掲げて実践し、望ましい人間関係を形成

☆23万人アンケート①の実施

対象は生徒・保護者・教員・学校評議員



☆あざつ運動生活委員会や「いじめ防止活動力」を掲げて、毎朝、玄関前で活動中

いじめ防止強化月間

冬のいじめ防止強化月間 12月

8月18日の「いじめ防止サミット」で採択された「いじめ防止宣言」を受け、創意工夫した取組を実施



生徒会による振り返り 3月

自分たちの取組を振り返り、今後もしない楽しい学級、学校をつくっていかこうとする意欲や態度の育成

いじめ調査 毎月第三火曜日

いじめ調査用紙を持ち帰り、自宅で記入して提出。読み物資料も添付し、未然防止を促進

教育相談日 毎月第三木曜日

いじめ調査を受け、担任をはじめとする相談体制の準備

沼田中学校では、個別の問題を迅速かつ適切に対処すること、生徒主体のいじめ防止活動、人・生命・人権を大切にすることを実践していきます。特に、今年度は全県一斉に行われる「いじめ防止活動」を通して、生徒自身が生活の中で、いじめについて本気で考え、具体的に問い、意識を変え、行動力へとつながる粘り強い取組を展開していきたいと考えています。

生物は戦っている

最近、全国各地の動物園で、ソウとペリカン、キリンとホロホロチョウなど、異種の動物を同居させる「共生展示」の手法が取り入れられています。入園者数が日本一の旭川動物園(北海道)の前園長である小菅正夫さんの話に、次のようなエピソードがありました。



自然界では、動物園のように、一種類の動物だけで生きているものはいない。何かしらほかの動物と共存している。一種類だけで固まって生きるといふような、変わったことをしているのは、人間くらいだ。だからいろんなひずみが出る。

生物は、戦って戦って



居場所を決めるのではなく、自ずからあるようにある。これこそが自然なのだ。

「緊張のなかの調和」とでも言うんですかね。いろんな種が混じり合って生きている。そのなかで動物たちはお互いに何らかの刺激を受けている。

私たち人間も生物です。いじめたり、戦ったりする必要はありません。

**いじめをしない
いじめをさせない
いじめを見て見ぬふりをしない**

保護者や地域の方々とも連携し、生徒会や生活委員会、学級活動委員会など、生徒を主体とした取組で、いじめを許さない学級・学年・学校づくりを目指します。

次号は、6月17日に発行します。主な内容は「聞く・聴く」旅行」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

今年「空梅雨」で、水不足が心配されています。しかし、明日から旅立つ3年生や、19日(水)に東京へ出かける1・2年生にとっては、雨が降ることを嫌っているかもしれない。そこで、元高崎女子高校校長の大木隆明先生の『白鳥のうた』校長の答案より、修学旅行と雨にちなんでお話を紹介します。



花を咲かせる雨

修学旅行中、班別行動の日、夕方五時になっても帰ってこない班があった。先生方がホテルの前で心配顔で待っていると、息を弾ませ、額に汗した生徒の一回が走ってきた。ロビーで学年主任・担任が厳しく事情を聴取しているのを、私は生徒の後ろで聞いていた。洪滞に巻き込まれ、思うように行動ができなかったという。

「そういうときは、どこかをカットするんだ! したのか!」
「はい」恥ずかしそうに小さな声で答えた。

「どこをカットしたんだ!」私はびっくり、計画した見学箇所のひとつひとつをカットしたのだと思った。ところが、意外な言葉が返ってきた。

「昼食をカットしました」私は、とっさに学年主任に指を丸めて○のサインを出し、許してやるように目で合図をした。

今回の修学旅行は、始めの二日間は雨にたたられ、みんな雨を恨んでいたようだった。しかし、雨だったからこ

そ発見できなかったともあった。

二年生の諸君は、奈良のTホテルに泊まった翌日、びしょ濡れだった靴や傘が見事に乾いていたのに気づいたのだろうか。あれは、朝までに自然に乾いたのではない。従業員の方々が諸君の濡れた靴や傘を、ひとつひとつ丁寧にタオルで拭いてくれたのである。先生方が夜、打合せのためロビーに降りたとき、偶然目撃したのだそう。諸君のお母さんかおばあちゃんくらいの方々が、一本ずつ、一足ずつ、心を込めて拭いてくれたのだ。私たちの学校が、毎年、このTホテルを利用させていただいている理由のひとつがわかった気がした。

私にもあった。昨年、「どうしても大和柿が食べたいんですが、近くに売っている店はありませんか」とホテルの人に尋ね、百メートルも下の店で買いに行った。



今年、私が部屋に入ると、テーブルの上に柿とナイフが揃えて置いてあるではないか。それこそ毎日、全国から修学旅行生が入れ代わり立ち代わり来るホテルである。一年前の私が柿が好きだなんてことを、普通なら覚えておいてはならない。この心づかいの細やかさに、Tホテルの経営の原点を見た。諸君はTホテルという、「義経鍋がおいしかった」というかも知れない。確かに義経鍋はおいしかった。でも、私は生徒諸君には、鍋よりももっともっと心の中まで温かくしてくれて、従業員の皆さんの心づかいをいつまでも忘れないでほしいと願っている。

「雨には、花を散らす雨と花を咲かせる雨がある」
今度の修学旅行で私は、「花を咲かせる雨」に出会えたと思っている。

聞く・聴く

相手に自分の思いがうまく伝わらずに苦労したという経験は、誰もがあろう。一方、私たちは相手の話をどのように聞き、相手の気持ちや意図をどのくらい汲み取っているだろうか。今号では、「ニューモラル」第52号(モラル研究所)を参考に、相手の話を「聴く」ということについて考えます。

自分から一方的に話したことに対して、相手が表示して反発しなかったとしても、心の中で納得していないこともあります。その会話の目的が、互いの思いを理解し合ったり、情報を共有することにあるならば、私たちはもっと「聴く」ということに注目する必要があるのではないのでしょうか。

「耳は二つ、口は一つ。だから、自分が話す二倍は相手の話を聴きなさい」ともいわれています。これは、よい人間関係を築くためには、話すことよりも聴くことが大切であることを示したものです。それでは、私たちは相手の話を聴く際に、どのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。例えば、次のようなことが挙げられます。

相手としっかり向き合う
相手の目をじっと見て聴く
うなずきながら聴く
相づちを打ちながら聴く

「傾聴」という言葉があるように、相手の話を熱心に聞こうとするときは、相手のほうに目や体を傾けるものでしょう。また、「うなずき」や「相づち」は、話し手に対する「あなたの話をしっかりと聞いていますよ」というメッセージになります。相手が自分のほうに体を向けて、

じっと目を見て聴いてくれるれば、「ああ、この人は私の話を一所懸命に聴いてくれている」と思うことでしょう。反対に、何か特別なことをしながら、体をよそに向けて、キョロキョロしながら聞いていけば、話している人に「この人は私の話を聞く気がない」という印象を与えるでしょう。

「聞く」とは、耳で音や声を感じ取ることで、聞こえるという意味です。一方、「聴く」は、注意して耳を傾けることで、「受け入れる」「ゆるす」「したがう」という意味もあります。相手が何を言おうとしているのか、その心に寄り添って聴くことは、相手を許し、受け入れることにつながるでしょう。

相手を受け入れるためには、まずこちらの心が開かれていなければなりません。(中略)こちらが心を開いて「何を話しても大丈夫ですよ」という態度を相手に示すことができたとき、初めて相手の言うことを受け入れる準備が整ったといえるのではないのでしょうか。また、心にゆとりを持って聴くことは、相手に対する寛容さや優しさの表れであるといえます。

時を守り 礼を正す



今年の上半期が終わろうとしています。また、1学期もまどめの時期を迎えました。そこで、もう一度襟を正して気を引き締め、「時を守り」「心を込めて掃除に取り組む」「あいさつ・礼儀を大切にすること」など、当たり前のことを見直してみましよう。

次号は、7月1日に発行します。主な内容は「あきらめない強さ」などです。

少年の夢 をとめらの希望

あきらめない強さ

「行列のできる法律相談所」や「情報ライブ ミヤネ屋」などのテレビ番組に出演している弁護士住田裕子さんのインタビュー記事が、『ブレジデントファミリー(特別版)』に掲載されていました。住田さんは東京大学を卒業し、司法試験に合格して長く検事を務め、40代で弁護士に転身するなど、華々しく活躍されています。しかし、決して順風満帆の人生ではなく、「私の今は、たくさん挫折と失敗の上にある」とおっしゃっています。そこで、「挫折を克服できたのは真摯に自分と向き合ったからだ」と語る住田弁護士の言葉を紹介します。

★壁に突き当たっても「あきらめない強さ」が大切。
★自分はこのなりたて、こうでありたいと一途に思っても、それが必ずしも叶うとは限りません。
しかし、あきらめてしまえば、道が拓ける余地はゼロ。今はうまくできなかったとしても、あきらめなければ可能性は残ります。

「あきらめない強さ」が、今の若い世代に欠けている、加えて恥をかくのを嫌がる若い人が多いのが気になる」と言います。
「失敗をしたくない。みっともない姿は他人に見せられない。若い世代の人には、何でもそつなくスマートにこなすことが大事だ」という意識が強い

すね、特に高学歴の優等生タイプに、その傾向が強く見られます」

この「そつなくスマート派」の人たちは、社会性がなく、対人関係能力、つまり他人と折り合いをつけながら物事を進めていく力が低く、ストレスに弱い、その理由は人に揉まれる経験が少ないからではないかと、住田さんは分析しています。

さらに、「対人関係能力の低い人は、共感性が低いと言われます。共感性とは、他者の心の痛みや喜びを、わがことのように思える感性、相手の気持ちを感じてやる力です。私は、この共感性が生きるうえでとても大切だと思っています」と述べています。

挫折を味わったことがなく、順風満帆で生きてきた人は、他者の心の痛みがわかりません。
★例えば同じようなネガティブな体験をした人同士は、互いの心の痛みを理解できます。それは、自分の弱さを知っているからわかるんです。

自分の弱さを認められない人は、他者の弱さ、心の痛みに対しても鈍感です。しかし、自分が挫折しているとき、気持ちが落ち込んだ状態にあるときは、他者の痛みはわかりません。自分のことで精一杯で、人の気持ちにまで思いが及ばないからです。

自分の弱さを自覚して、それを何とか乗り越えようと一歩を踏み出したときには、心にゆとりができ、他者の痛みと共に共感を寄せられるようになるのです。住田さんは、続けてこう語ります。

★苦しいのは私だけじゃない。皆で支え合ってこれを克服しよう。「二人で」ではなく「一緒に」考えよう、助け合おうとする前向きな姿勢が社会性です。つまり、失敗や挫折は、社会性を育む糧なんです。

7月の生活目標
お互いを磨き合ひ、高め合ひ、沼中力を発揮しよう

若い頃の失敗は財産です。住田さん自身も若いころに味わった挫折感を振り返り、「あの経験があったから、今の自分がある」と思えた瞬間があったそうです。だから「失敗を恐れないで」と訴えるのかもしれない。

★自分の弱さを知る人のほうが、他人に対して優しくなれます。それは社会で生きていくうえで大きな力になります。

また、詩人であり書家でもある相田みつをさんは、『にんげんだもの』(文化出版局)の中で、次のように述べています。
★現代っ子にとって一番弱いところはどこか？ 負けに耐える心、恥に堪える心、カッコ悪さに堪える心です。

さらに、次のような考えもまとめています。
★ラクしてカッコいいこと、つまり、勝つことばかり考えて、過保護に育てられた子供は、その分だけ「いのちの根」が浅く、親亡き後の本人の負担が大きいことを知るべきです。

中体連総体が近づいてきました。勝負の夏です。苦しいのは自分だけではありません。失敗を恐れず、あきらめずに、みんなを支え合い、助け合って困難を乗り越えましょう。今こそ「沼中力」を集結するときだと考えます。
人生におけるどんな波風、どんな屈辱にも堪えて、真っ直ぐに自分の道を歩いていけるような、しっかりした心を磨きましよう。そして、たくましく、粘り強く、人生を生き抜いていく力と知恵を育てていってください。

元氣と希望がわいてくる 魂のこゝろは

市中体連総体を目前に控えるみなさんに、『心に響く100の言葉』(PHPスペシャル2013年5月号)より、一流アスリートの考えを紹介します。強い身体づくりと同時に、熱く燃える心も鍛えましよう。

泳心 一路 古橋慶之進

戦争が終わって、再び水泳ができるようになった時、「魚になるまで泳ごう」と思った。私の目標は世界一になることだった。だから人の何倍もの練習を苦しいとも思わなかった。

人間というものは、大きな目標をもって一筋に努力し、工夫し、苦しみにも耐えてこそ、大きく成長していきけるものだと思う。私は水泳から多くのことを学んだ。

洗心 長嶋茂雄(野球)

多くの青春時代はユニホームを着て「勝った、負けた」の明け暮れだった。「自分のバットで勝ちたい」という思いを込めるためにはがむしゃらに練習するしかない。

しかし勝負だからわかる結果もある。よく「長嶋は気分転換がうまい」といわれたが、こんなときは夢中でバットを振り、悔しさを吹き飛ばしていたのだ。

勝負に限らず、事に臨むときはフレッシュな気持ちが必要である。
次号は、7月18日に発行します。主な内容は「評価」「夏休みの過ごし方」です。

少年の夢をとめらの希望

桜咲く4月に始まった1学期も、いよいよ明日が最終日です。7日間の学校生活は充実していましたが、「評価」や「反省」という観点から1学期を振り返ってみましょう。

1学期を振り返って①

評価

他人から評価されたり認められたりすると、それが励みとなり、期待に応えようと、よりいっそう懸命に取り組むようになる。人間とはそのようなものである。

だが、時にその評価や期待が大きすぎて、「自分にそんな力はないのに」「買いかぶられても困る」と、負担になることもあるし、自分の思っている以上に低く見られて、不満を感じ、やる気がそがれてしまうこともある。

このようにとかく他人の評価に左右されるのも、お互い人間の一面といえよう。しかし、常に正当な評価が得られるとは限らない。それによって自身の取り組みに躊躇が生じたり、努力をやめてしまったりは結局、自分の損である。

だから、過大な期待を受けても重圧に押しつぶされず、それに添うべく全身全霊を傾ける。また、低い評価を受けても投げやりになるのではなく、やるべきことに真摯に取り組み続ける。そうしてこそ真の実力がつき、周囲の目も変わってくるのである。

過大評価も過小評価も前向きに受けとめ、自らの成長の資としたい。

【P.H.P.】2013年7月号より



1学期を振り返って②

反省が生み出す明日へのエネルギー

反省とは、後悔のような後ろ向きな心づかいとは異なります。それは私たちの心を明るく希望で満たし、強くて活力のあるものにする、前向きなエネルギーを生み出すものです。

また、反省は、悪いことが起きたときだけにするものではありません。順風満帆なときに自分自身の心づかいを振り返ることも、大切な反省といえるでしょう。

私たちは日々、もっと深く自分の心を見つめる習慣を持ち、一日一日の反省を心に刻んで、明日へのエネルギーを培っていききたいものです。

【ニューモラル】第52号(平成25年5月号)

中絶 あいさつ運動

よりよい人間関係づくり、いじめ防止、中1ギャップの解消などを目的に、6月末から沼中学校区内の小中学校が

連携し、朝のあいさつ運動に取り組んでいます。

毎週月曜日には東小、水曜日には北小へと、生活委員や部活動の有志が出かけて、小学生と明るく、爽やかにあいさつを交わしています。美しい朝の光景です。



夏休みの生活

「保護者の皆様へ ~夏休みの生活~」を用いて、夏休み中の生活について確認しました。目標をもって過ごし、きまりやマナーを守って、規則正しく、充実した生活を送りましょう。

●生活習慣の確立

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣化し、健康的な生活を送る。
- ・家庭や地域において、積極的なあいさつを行う。
- ・家庭内での役割について自覚を深め、自己有用感を高めたり、家族とのふれあいを多くとったりする。

●計画的な学習

- ・毎日、時間を決めて勉強する。 ※なるべく涼しい時間が望ましい。
- ・課題は早い時期に仕上げ、不得意教科の復習など自主学習に取り組めるようにする。

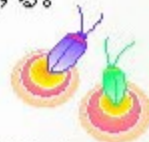
●安全な生活

- ・交通ルールを守る(道路の横断、自転車の乗り方に注意する)。
- ・小中学校などの敷地内における花火は禁止する。
- ・外出するときは、《行き先》《目的》《誰と》《帰宅時間》などを、家族に知らせておく。
- ・友人宅への外泊は禁止する。
- ・午後7時には帰宅するよう心がける。沼田祭り期間中は午後9時を原則とする。
※群馬県青少年保護育成条例により、午後10時以降の外泊は補導の対象になる。

●保健衛生

- ・暴飲暴食を避け、寝冷えに注意する。睡眠や水分を適切にとり、暑さに負けない体をつくる。

次号は、7月26日に発行します。主な内容は「熱中症対策」「情報モラル」です。



少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

19日は、利根教育事務所の先生方を講師に迎えて、情報モラル講座を開催しました。パソコンやゲーム機を紹介したネットトラブルをはじめ、便利さの影に潜むたくさん危険性についてもお話を伺うことができました。

ところで、あるテレビ番組で、全米で話題になっている「スマホ18の約束」というエピソードが紹介されていました。スマホ(Phone)を欲しがると少年に対し、母親がクリスマスプレゼントとして買いつける際の約束だったそうです。以下に全文を紹介いたします。

親子で考える

情報モラル



グレゴリーへ

メリークリスマス！ あなたは今日からPhoneの所有権を持つことができます。やったね！ 責任感のあるお利口な13歳なので、このプレゼントはあなたに相応しい。しかし、このプレゼントを受領すると同時にルールや規則が付いてきます。以下の使用契約をゆくり読んでください。私の親としての仕事もわかってほしい。あなたを健康で豊かな人間性をもった、現代のテクノロジをうまく活用していただける大人に育てなければならぬということ。以下の規則を守ることができなかった場合、あなたのPhone所有権もなくなります。

あなたが大好きでたまりません。あなたと何百万個ものメッセージ交換をするのが楽しみです。



1 これはママのスマートフォンです。ママが買って、あなたに貸しているのよ。だからママの言うことをよく聞きなさいね。

2 パスワードは必ずママに教えてね。電話が鳴ったら必ず出ること。画面に「ママ」や「パパ」と出ても、絶対に無視しないで、きちんと「ハロー」と応えてね。

3 電源を入れるのは朝7時半から。夜は学校がある日は7時半に、週末は9時になったら、週末は9時になったら、電源を切って電話を返してね。学校に持っていくのは禁止。

4 友達とは面と向かって会話をしな。トイレや地面に落ちて壊したり、電気をなくしてしまったり、責任をもって自分のお金で修理・弁償すること。お金が必要になるから、草むしりや赤ちゃんのおもちゃをして、お小遣いを貯めておくのよ。

5 これで人をだましたり、ばかにしたりするのは禁止。常にいい子で、誰かを傷つけるような会話には入らないこと。面と向かって言えないことは、これでメールをしてもダメ。

6 相手の親に言えないようなことは、メールをしてはダメ。自分自身で厳しくチェックすること。

7 ボルノは禁止。インターネットではママと一緒に見られるようなものを見てね。何か知りたいことがあったら、人に聞くこと。できればママかパパに聞いてね。

8 公共の場では電源を切るか、マナーモードに。特に、レストランや映画館では。あなたは礼儀正しい子よ。Phoneを持つことで変わらないでね。

9 体の大事なところの写真を送ったり、受け取ったりしてはダメ。笑わないで、もしかしらそうしたくなる時が来るかもしれないわ。でもそれは、あなたのこれからの生活を台無しにしてしまう行為なの。ネットの世界は、とても巨大であなたよりも強力な力をもっている。噂や風評でさえ、簡単に消すことができないわ。

10 写真やビデオはたくさん撮らないこと。すべてを記録する必要はないの。それよりも経験を大切に。それはあなたの記憶に永遠に残るものなのよ。ときどき電話は家に置いていきなさい。その選択は正しいと自分を信じていいのよ。電話は生き物でもないし、あなたの一部でもない。携帯なしで生活することが大事。なくなるのを恐れないで。最新曲やクラシックなど、たくさん音楽をダウンロードして、同じものをずっと聴くより、さまざまな音楽を聴いて。あなたの代は歴史上で最も音楽にふれることができる世代。その恩恵を受けて、世界を広げてね。

11 ゲームは言葉遊びやパズル、脳トレをやりなさい。常に上を向いていること。周りの出来事を目を向けること。窓の外を見ること。鳥の声を聞くこと。外を歩くこと。知らない人とも話をする。Googleで検索しないで感動できることを探しなさい。約束を破ったら携帯電話を取り上げます。そしてそれについて話し合い、一からやり直しましょう。ママはあなたのチームの一員。一緒に学んでいきましょう。



この条件を合意してくれることを願っているよ。ここにリストしてあるほとんどの条件は、人生をうまく生きるための条件にもあてはまるものだから。あなたは常に激変していく世の中で成長しています。とてもエキサイティングで気を引く体験だと思っただけでいい。どんな機械やガジェットよりも自分のパワフルな考え方と大きな心を信じてください。あなたが大好きなのよ。あなたのすばらしいPhoneを楽しんでね。

母より
1学期の最終日に「ネット社会の光と陰」「私の宣言書」という資料を配付し、家庭におけるネット環境のルールづくりを呼びかけています。生徒の健全育成大切に考え、ご協力よろしくお願ひします。

厳しい暑さ、総体前の強化練習などを考慮し、7月上旬から2学期にかけて、次のような対策を行っています。

★体育着下校

期間 7月2日(火)～9月14日(土)

※登校は通学服。

※学校指定のTシャツか、県総体出場者に配付されるTシャツのみ可。

★水筒持参

期間 7月3日(水)～9月30日(月)

※形状は水筒(ペットボトル不可)。

※中身は、「水・お茶・スポーツドリンク」。詰め替え用の粉末は不可。

次号は、8月26日に発行します。主な内容は「いじめ問題対策」などです。

少年の夢をとめらの希望

くんまの学校から 沼中から



今年度、群馬県では、児童生徒の自主的ないじめ防止活動を支援し、いじめのない学校づくりが進められています。一年間の活動の主な流れは、次の通りです。

4月 学校ごとに「いじめ防止活動計画」を作成

5月 春の「いじめ防止強化月間」

7月

8月 「いじめサミット」

9月

12月 冬の「いじめ防止強化月間」

3月

一年間の活動の振り返り



8月18日(日)、県内の小学生、中学生、高校生の代表12名が、前橋市の群馬会館や群馬県庁に集まって、いじめ根絶に向けた子ども主体の協議(話し合い)を行いました。

沼中からも生活委員長の佐藤愛さん(3年)が出席し、7月に開かれた「いじめ防止フォーラム」や沼中の取組を紹介したり、「いじめをなくすために、わたしたちができることを考えよう」というテーマに基づく話し合いに参加したりしました(利根沼田地区からは、沼中の他に、沼北小、片品小、昭和南小、川場中、水上中、利根商業高校から代表1名が参加)。

なお、39名が集う中学生分科会は、6班に分かれて意見を出し合い、勇気、環境、協力、コミュニケーション、自主、尊重などのキーワードで考えをまとめ、発表し合いました。



この活動は、群馬テレビや複数の新聞でも紹介され、翌日の上毛新聞には、実行委員長(前橋商業高校2年生)による「子どもと大人では視点が違い、いじめについては子どもにしか分からないこともある。それを宣言として示せたのは大きな成果だと思う」といったコメントが掲載されています。下段に全文を紹介いたします。



8月の生活目標 クラス一丸となり、運動会に向けて頑張ろう

群馬県人権擁護委員連合会より

【前文】

私たちは、いじめは必ずなくすことができる信じ、いじめの問題から目を背けずに、私たち自身の問題として考えます。

そして、笑顔にあふれた学校生活のために、自分から行動を起こすことを約束し、ここにいじめ防止を宣言します。

【宣言文】

勇気

わたしたちは、困っている人がいたら、自分のこととして考え、進んで行動します。

思いやり

わたしたちは、相手のことを思い、お互いを大切にします。

協力

わたしたちは、周りの人とよい関係をづくり、何事にも全員で取り組めます。



グループの代表として意見を発表する佐藤愛さん

すべての人が幸せな人生を送りたいと望んでいます。ですから、幸せな人生を送るための様々な努力を続けるのです。幸せに生きるための「条件」を積み上げていくのもいいでしょう。

いじめは、幸せに生きるための条件でしょうか? 間違いない「不幸を作る条件」です。いじめられた人はもちろん、実は、いじめた人も不幸な人生を送ることになるということを知ってください。

生徒・保護者の皆さん、「いじめがある」事実はいまでもなく、「いじめがあるかもしれない」という情報を、先生にはもちろん、私たち人権擁護委員にも伝えてください。見て見ぬふりはしないで、迷ったら先ず「子どもの人権110番」に電話してほしいのです。私たちは、いじめを無くすためなら出来る限りのことをする決意をもって活動しています。

生徒の皆さん、いじめは不幸の原因です。絶対にやめましょう。保護者の皆さん、他人事と思わず、子どもたちを幸せにするためにいじめのない社会づくりにご協力頂きたい、お願い申し上げます。

次号は、9月22日に発行します。主な内容は「運動会の取組」などです。

少年の夢をとめらの希望

運動会を前に：

団結とは何か

夏休み明けから、本格的に運動会の練習が始まりました。今年は14日(土)に開催されるため、当日まで約2週間となりました。

既に、クラスや学年で協力的に練習する姿が見られますが、より一層団結して取り組むために、洪川市立洪川中学校の学校文集「大石」(2000年 第35号)より、生徒が書いた作文の一部を紹介いたします。過去の体育大会で優勝したクラスに所属していた生徒の作文から学びましょう。そして、運動会への参加意欲を高め、沼中力を結集して運動会を成功させましょう。



チームワークは勝利のもと

今日はとても寒い日でした。でも心は熱く燃えています。午前の部は個人の競技でした。一人ひとりを力を発揮しましたが最下位でした。午後の部に入りましたが、全員リレーになりました。わたしたちのクラスは、こまのお戦法でした。こまのお戦法とは、男女交互に走り、前後に足の速い人を入れるという戦法です。そしてリレーが始まりました。しかし、こまのお戦法は通用せず、最初の方はずっとビリでした。ところが、中間になると他のクラスは女子が集まっていたので、問の男子が



次々と抜かしていき、気が付くと一位になっていました。「あーすごい三組一位だ」とみんな大喜びして、跳びはねていました。そしてそのまま後半の速い人たちになり、余裕でゴールしました。ゴールしたときはすごく感動しました。次の四百メートルと八百メートルも、その調子で男女とも断トツで一位でした。そして、結果発表となりました。午後の部でふんばりを見せ、堂々の一位に輝きました。三組ほどのクラスよりもチームワークがあると、体育大会を通して実感できました。最後に全員で、(中略)苦勞して作った旗をバックに、写真をとりました。中学校生活最後の体育大会は、思いに残る結果となりました。

WE ARE WINNERS

僕たち三年五組は体育大会で成績を問わず、とにかくがんばりぬこうと思っていました。でも内心「やっぱり優勝は無理だ」と思っていました。しかし、「今からあきらめてはいけない」とも思っていたので、種目練習の際は、みんなががんばり、励まし合いました。そして、本番へ向けて自分たちの実力に関係なくとにかくがんばりぬくこと、本番の結果がどうであれ、満足できるように練習をすることを第一に考えてがんばってきました。そして、当日各種目みんな一杯がんばっていました。それに付られてか、応援にも熱が入っていました。みんながんばりぬいてから数時間、いよいよ発表の時間が来ました。みんな静まりかえり、「優勝三年五組！」と聞いたとき、僕はすこく嬉しかったことを今もよく覚えています。

9月の生活目標

● クラス一丸となり、運動会に向けて頑張ろう
● 「学びの約束」を大切に、読書に親しみ、授業や家庭学習を充実させよう

僕はその後トロフィーをもち、先頭から三番目を歩きました。後ろを振り返ればみんなが笑っていました。それを見て僕はとても嬉しかったです。僕たちが優勝できたのは、最後までみんなであきらめないで、自分の種目に、そして応援に一生懸命がんばれたからだと思います。体育大会の日、僕たち三年五組は、いまままで以上に団結していました。

体育大会を終えて

僕たち三年二組にとって絶対に負けられない体育大会でした。なぜならば体育大会、合唱祭をすべて優勝して二冠をとることがクラスの目標だったからです。そして、いよいよ。午前の部は、みんな一人ひとりの持っている力を十分に発揮し一位でした。午後の部は、三種目とも全てリレーということもあって、今まで以上に応援が盛り上がってきました。その中で全員リレーは、担任の先生が陸上専門ということもあって、順番としてバトンを重点に練習したので自信があります。そして、三種目とも一位をとることができました。全種目が終わったとき、だれもがとても満足した顔をしていました。そして閉会式。一年生：二年生：みんな緊張が高まります。三年生、優勝「三年二組」。みんなのうれしさが爆発しました。中学校生活最後の体育大会を優勝で飾れてとても嬉しかったです。次は合唱祭で優勝して二冠を達成したいです。

「絆」を深める言葉

「1月間生徒指導」(2013年9月号)に掲載されていた記事(昭山秀一敬論・北海道千歳市立青葉中学校)によると、絆を深めるためには、「7つの言葉」が有効だそうです。

- ①感謝の気持ち (ありがとう、うれしい)
- ②お詫びの気持ち (すみません、失礼しました)
- ③信頼を伝える言葉 (信じているよ、任せよう)
- ④成長を実感させる言葉 (伸びたね、上進しているよ)
- ⑤貢献を伝える言葉 (助かっているよ、おかげさま)
- ⑥期待を寄せる言葉 (楽しみだね、応援しています)
- ⑦励ましの言葉 (今度頑張ろう、元気を出して)

「絆」が深まり、メンバーにとってグループやチームが安心できる場になっていくと、お互いの意見に対して真剣に耳を傾け、自由で建設的な意見交換ができるようになっていきます。そうになると、回結力も高まり、さまざまなプラス効果が生まれます。運動会を通して深まる絆を実感してください。

次号は、9月20日に発行します。主な内容は「情報モラル」「規範意識」などです。

少年の夢をとめらの希望

8月27日付の上毛新聞に、次のような記事が掲載されていました。規範意識や情報モラルについて考えられる、よき資料です。学級や家庭で話題に取り上げてみてください。

皆がやっているから

『ことわざの知恵』(岩波書店辞典編集部編)に、ことわざと呼ぶには少々違和感のある言葉が一つ収録されている。「赤信号皆で渡れば怖くない」。ご存じ、ビートたけしさんの創作である▼疑問に思う読者を予想したので前向きして(ある種の共感やインパクトをもって短い期間にわたって広がるのも、ことわざの一つの在り方)と説明している▼皆がやっているから怖くない!と思ったのかどうか。若者らによる短文投稿サイト「ツイッター」への悪ふざけ画像投稿が止まらない。コンビニや飲食店などで冷凍庫に入ったり、店の食材で遊んだり:▼先日は前橋でも客の専門学科生がスパーのアイスクリーム用冷凍庫に入り、その画像を投稿。店はアイス類を新しい商品と入れ替えた。一連の投稿騒ぎでは閉店、休業した店もあり、冗談では済まされない▼地下鉄駅で線路に下りたり、パトカーの上で遊ぶ画像も投稿された。騒動になっているのに、悪行が繰り返されるのはどういふことだ。パトカーの件は逮捕者も出ている▼投稿者

は皆、分別ある年齢であるように、仲間の遊びとして社会的な影響を考えなかったとしたら、あまりに想像力に欠けていないか。社会規範などという難しい言葉は使えない。赤信号を渡ってはいけないことは、園児でも分かる。

夏休み中も、全国各地でツイッターやLINEなどによるトラブルについて、毎日のように報道されています。技術科や道徳の時間の学び、1学期末の情報モラル講習会、生徒指導通信第10号(7月26日発行)などを参考に、もう一度ネットとの関わり方を考えていきましょう。

●下校時の服装

7月2日から9月14日まで、体育着下校を許可していただきました。おかげさまで運動会も大成功に終わり、秋風を感じる季節になりましたので、予定通り、18日(水)より制服での下校に戻りました。

●水筒持参

熱中症対策としての水筒持参は9月30日(月)まで継続します。
※形状は水筒(ペットボトル不可)。
※中身は、「水・お茶・スポーツドリンク」。詰め替え用の粉末は不可。

●冬に備えて

★夏服着用期間 9月30日まで
※移行期間 9月24日(火)から10月4日(金)まで
★トレーナー着用期間 10月1日(火)から

※1年生の購入希望者は準備を!

凡事徹底

ほんじつに

今夏の甲子園で優勝した前橋育英高校の横断幕には、「凡事徹底」という言葉が掲げられていました。その後、様々な場面で話題に取り上げられているようです。



「凡事徹底」。夏の甲子園に初出場し、全国制覇した前橋育英の荒井直樹監督の信条だ。実戦でのあらゆる場面を想定し、中身の濃い基本練習を繰り返す。ナインは大舞台で「攻撃的な守備」に象徴される体に染み込んだプレーを随所で発揮、栄冠をつかんだ▼毎朝の野球部寮周辺のごみ拾いも、その精神につながる。「ごみを拾う子は捨てる大人にはならない」。野球に打ち込める期間には短く、その後の長い人生で気配り、目配りのできる社会人に成長できるように人間形成にも重きを置く▼朝のごみ拾いは大阪城に近い宿舍周辺でも実践。吸い殻などが多くて驚いたという。決勝戦の翌日も最後の清掃活動を終えて帰郷した。
上毛新聞「三山春秋」2013.9.5

他にも、上毛新聞では前橋育英高校の「凡事徹底」を紹介しています。

毎朝、野球部寮生はビニール袋を片手に学校周辺に散らばっていく。もちろん、荒井監督も一緒だ。私語は厳禁。黙々と15分間歩く。ごみ拾いは荒井監督が就任した2002年からずっと続けている。

ごみが落ちていくことに気づくことと、投手の投球が微妙に変化している

ことに気づくことは似ていると荒井監督は言う。少しの変化も見逃さない、選手の洞察力はこうしたごみ拾いで養われている。 2013.9.4

1年生は入寮すると、まず基本的な生活習慣の指導を受ける。掃除や洗濯は自分で行う。甲子園の大会期間中も選手は練習着を自分で洗濯していた。投手の喜多川省吾は「寮でいつもやっている事なので、全然大変じゃないです」と笑っていた。

また、スポーツ報知(2013.9.4)では、次のような記事が掲載されていました。

地元可愛される前橋育英を目指してきた。地元の自治会と協力し、ボランティア活動に参加。利根川沿いの花壇作りを手伝ったこともあった。毎週月曜日には、清掃活動にも参加。「そういう中で多くの人に応援にも来ていただくことができた。さまざまな力になった」と荒井監督は、群馬・前橋から届く声援を実感している。

前橋育英高校の活動から多くを学び、心を磨く集団に成長していきましょう。

次号は、10月1日に発行します。主な内容は「働くこと」などです。



少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

「働く」ってどういふこと?



同世代の友人・知人の子どもさんが社会人になる年頃になった。

「仕事が忙し過ぎて休みがない」「職場の人間関係が嫌で」「仕事がつくようになってきて」など、いろいろ理由はあるようだ。

「しもやん」の愛称で、5000人以上の人たちに「一筆入魂」というメルマガを発信している下川浩二さんは、生活の糧を得るために働くことを「ライスワーク」と呼んでいる。

かつて、ほとんどの日本人の働き方は「ライスワーク」だった。しかし、21世紀になってもまだ「ライスワーク」の考え方で働いていると、前述したような理由で簡単に退職してしまう。

2・3日に2年生が職場体験学習を行います。地元の事業所で働く人々とふれあうことで、働くことや学ぶことの意義を理解し、生きることの尊さを実感することとされています。また、夢や将来について考え、進路を選択決定する意欲も高まることとされています。豊かな体験を重ね、社会の中で人の役に立つ人間へと成長していただくための。

もしかしたら、今の学校教育の中で「働く」とはどういうことなのかという考え方が抜け落ちていないだろうか。多摩大学教授、田坂広志さんの『仕事の思想』に、こんなエピソードがある。



田坂さんには、ジャズをこよなく愛する友人がいた。学生時代は、「ジャズの道で生きていきたい」とまで思っていた。

しかし、卒業と同時に彼は商社に就職した。卒業式の後、彼は田坂さんこう話した。「これからは、会社で働く俺がジャズを愛するもう一人の俺を食わせていくんだ。食うための仕事と、やりがいのある趣味を区別し、仕事は趣味を支えるためがあると、彼は考えていた。

3年後、田坂さんは彼と再会した。ジャズの話と酒の肴に語り合った。別れ際に「仕事の調子はどうか？」と聞いた。彼は言った。「困ったことに仕事が目白になってきてしまった」
それから7年後、2人は再会した。彼は10年選手の商社マンになっていた。彼の口からこんな言葉が出てきた。「最近になってようやく仕事が見えてきた。やりたい仕事ができるようになった。」

あいさつを 見直しましょう

- よさ
 - ・登校時のあいさつの声が大きくなった。
 - ・生活委員会によるあいさつ運動が活発になった。
 - ・小中連携のあいさつ運動が始まった。

- 課題
 - ・職員室の入退室において、あいさつ(「失礼します」など)が形骸化してきた。
 - ・先輩にはあいさつをするが、来客や教職員にあいさつできない生徒がいる。
 - ・相手を敬う心が薄れた虚礼(形だけの儀や作法)になっている。

☆意識
「TPO」を考えた言動
T(Time とぎ)
P(Place とこ)
O(Occasion 場合)
「とき」「ところ」「場」を考えた言動をしっかりと身に付けていきましょう。

「ジャズの話は出てこなかった。中堅のビジネスマンになっていて彼が何気なくこう言った。「仕事って心を込めてやれば何でも面白いよ」
それからさらに10年が過ぎた。50の声を聞く年齢になっていた。田坂さんの目には、商社マンという仕事を天職のように思っている、脂の乗り切った旧友の姿が映った。
仕事をすれば必ず「報酬」がある。最初は給料だ。それを生活の糧にしていく。
しかし、「ライスワーク」が目的になっていたら、本当の仕事の喜びは見えない。
田坂さんの友人は「仕事が面白くなってきた」と話していた。下川さんはその段階を「ライクワーク」と呼んでいる。即ち、好きなことを仕事にできればいいが、それができなければ今の仕事を好きになることである。好きなことをやっているとほとんどん力が付いてくる。その時、仕事の報酬は「能力の向上」になる。
さらに心を込めていけば、好きな仕事は人生を掛けてもいいと思える仕事、即ち「ライフワーク」になる。



「仕事がつくようになってきて」「仕事が忙し過ぎて休みがない」「職場の人間関係が嫌で」「仕事がつくようになってきて」など、いろいろ理由はあるようだ。

今、若い子たちが親や祖父母世代とは違う働き方をしようとしている。なのに、「ライスワーク」から脱却する考え方がうまく伝えられていないように思う。
問題は仕事そのものではなく、仕事に対する考え方の問題である。

水谷謹人「みやさき中央新聞」
13年8月19日 219号

お知らせ

衣替え・水筒持参
10月1日(火)から衣替えです。トレーナーの着用と合わせ、身だしなみを意識して整えましょう。熱中症対策の水筒持参は9月末日までです。

次号は、10月16日に発行します。主な内容は「情報モラル」などです。



少年の夢 をとめらの希望

LINEの危険を認識し 情報モラルを向上させよう



情報モラルを向上させよう

若者たちの間で、LINE(ライン)のトラブルが増加しているそうです。各種メディアでも大きく取り上げられるようになり、9月24日(火)の上毛新聞には次のような記事が掲載されました。ちなみに、LINEとは、無料通信アプリのことです。電話一回線につき一つのIDが登録でき、国内で4500万人以上、世界で2億人以上が利用しています。個別にメッセージ交換や通話ができるほか、最大100人が参加できるグループ機能があるそうです。



無料通信アプリ「LINE(ライン)」が広まる中、中学生の間でLINEを使ったトラブルやいじめが目立っている。県総合教育センターのいじめ対策室にも「悪口を書き込まれた」などの相談が増加。7月には、広島県で高等専修学校の女子生徒がLINEのやりとりをきっかけに殺害される事件が発覚した。県教委や県警は講習を通して、児童生徒や教職員に携帯電話やインターネットの危険性を訴えるなどの対策に乗り出している。「クラスメートからLINEに悪口を書き込まれた」「参加を強く求められた」。同センターの窓口には、中学生の保護者から相談が寄せられている。



仲が良かった友人とのトラブルが目立ち、突然中傷を受けるなど、はつきりしたきっかけが不明な場合も多い。その後に関係が修復できず、一時的に学校を休むケースもあるという。こうした相談は昨年度1件だったが、本年度は6件と増加。昨年度に過去5年で最多だったいじめ全体の相談が本年度は減少する中、LINEによるトラブルの占める割合が高まっている。

広島県では少女らがLINEでつながり、ささいな悪口や言い合いから集団暴行に発展、女子生徒が殺害、山中に遺棄される事件が発生した。児童買春のきっかけに悪用される問題も起きており、運営会社は18歳未満の利用者のIDを検索できないようにするなど対策を検討している。

県警は学校に出向き、教職員や児童生徒にインターネットのトラブルやサイバー犯罪に関する事例を紹介し、対策について助言している。ネット上では面識のない人が連絡を取り合い、実際に会って犯罪に巻き込まれるケースが多いが、「LINEは顔見知り同士でトラブルが起きている。仲間だから安心とはいえない」と指摘。使い方に気をつけるよう強調している。

県教委も教職員を対象に携帯電話やネットのモラル講習を実施。各教職員が、携帯電話を子どもに持たせる保護者に安全な使い方を促すよう指導している。



県内の小中学校で啓発活動をしている「ぐんま子どもセーフネット活動委員会」の飯塚秀伯さんは、LINEはメッセージを読むと「既読」と相手に表示されたり、グループで行うことも多いため、返信せざるを得ない状況に追い込まれていると指摘。

①時間で特定のアプリを利用できない設定にする②食事中はメールや電話をしないなど親子でルールを決める③などを心掛け、「振り回されない力を子ども自身が持つことが必要だ」とアドバイスしている。

沼田中学校では、技術科の時間の学習に加え、道徳や学級活動での学び、講習会の開催などを通して、ネット世界に潜む危険性や情報モラルの向上を呼びかけています。

つきましては、今月の学年保護者会(1年:16日、2年:17日、3年:18日)、11月の三者面接でも話題に挙げながら、家庭でのルールづくりをお願いしてまいります。詳細は1学期末に配付した資料をご覧ください。

10月の生活目標
●文化発表会・合唱コンクールを
一丸とこたえて成功させよう

次号は、11月1日に発行します。主な内容は「いじめ防止活動」などです。

少年の夢 をとめらの希望

生徒指導委員会発行

6月21日に「いじめ防止対策推進法」が国会で制定され、公布は6月28日、その3カ月後から施行されました。

いじめについては、この法律の中で「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」と、第2条第1項で定められました。

そこで、沼田中学校としての基本方針づくり、道徳教育や体験的活動、啓発活動の充実、いじめ対策の組織づくり等については今後検討していきます。いじめは昔からあったと言われており、事実、昨年度の道徳通信第2号(4月27日発行)でも紹介しましたが、会津藩校の「仕の掟」の中にも、「人をいじめてはなりません」とあります。そこで、70年代の後半からは、6〜8年ごとにいじめが社会問題化し、その都度さまざまな取組が行われてきました。しかし、悲劇は繰り返されてきました。だからこそ、生徒が安心して過ごせる学校を目指し、学校、家庭、地域、国などが一体となって、いじめゼロを実現させていきたいと思います。

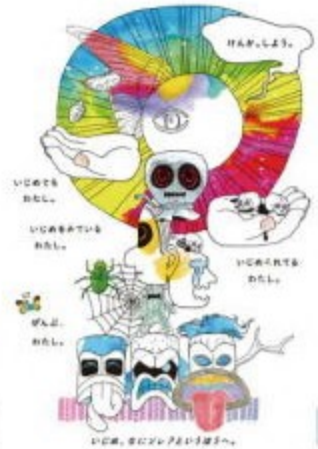
本校では、「いじめをしない、させない」意識と行動力を培うことを目標に、いじめ防止力の育成に力を注いでいます。その一環として、先月は「いじめ防止標語」を作りました。

左に紹介する「いじめ標語」は、道徳や学級活動の時間に作成したものを、生活委員会で審査し、各学級から優秀作品を1点ずつ、学校代表となる最優秀作品を1点選出しました。

いじめという大地に 勇氣という名の花を咲かせよう	1-1 小林 桃花
勇氣という種をまき 思いやりと、う水をあず協力という肥料をあげれば いじめがなくなる花が咲く	1-2 松井 美優
未来に届くその言葉 いじめをなくすその気持ち 勇氣はきっと届くはず	1-3 金子 慶登
「やめようよ」その一言で 未来は変わる	1-4 平林 史
雨みたい 止まないいじめ いつももある	2-1 星野 瑞樹
見えますか 笑顔の裏の 心の涙	2-2 富樫 季実
聞き出そう その子がしまった 心の声	2-3 林 佳祐
考えて いじめのシステム シャットダウン	2-4 角田 俊樹
いじめなし 笑顔あふれる 毎日へ	3-1 吉野 聖清
考えて 今してること いじめだよ	3-2 荒木 有冨
いじめの時 家族の顔を思い出せ そしたら きっとやめられる	3-3 角田 博昭
いじめなし あふれる笑顔 見たいから	3-4 小林美緒奈

また、校舎内の掲示板には、下記に紹介するポスターを貼り出しました。NHKからいただいたもので、いじめについて真剣に考え、いじめ防止を訴えるメッセージが込められています。「オール群馬」を合い言葉に盛り上げる活動、本校の取組は、「ぐんま広報」でも紹介される予定です。

11月の生活目標
●「学びの約束」を大切にし、読書に親しみ、授業や家庭学習をより充実させよう



いじめ、なにソレ?というほうへ。

NHKでは、この夏から「いじめを考えるキャンペーン」を推進していました。そこで、秋の特別番組の放映に合わせて、若手に人気のデザイナー・森本千絵さんが作成した大きなポスターが配付されました(特別教室等前の廊下に掲示しています)。

斬新なデザインですが、「子どもたちの目を引き、いじめについて立ち止まって考えてもらう」意図があるそうです。さらに、右図の大きな字には、いじめを止めようとする心=「羽」と、誰かをいじめたいと思う心=「どくろ」がのっています。ひとりの心には両方の気持ちが同居しているということを伝えています。左図には袋や仮面をかぶった子どもが描かれ、多くの中高生が教室では「キャラを演じている」「仮面をかぶっている」ことを表しています。

沼中の文化

沼中三人行事のトリを飾る文化発表会が本日、体育館で行われます。2週間前くらいから、自主的に朝や昼休み、放課後に集まって、一生懸命合唱練習に取り組み、さまざまなおもしろいパフォーマンスが聞かれています。

また、運動会の練習に励んでいた9月のはじめ、沼田東小学校の学習支援ボランティアさんにお世話になって、国語の時間に書き取り組みました。慣れない太筆を持って行書で書いた作品は、いただいたアドバイスのおかげで、今までもりもだいに上達しました。全校生徒の学習の成果をお確かめください。

なお、14日から19日まで、沼田中央公民館において、沼田市小中学校工芸術・書写展が開催されます。多くの生徒の作品が展示されますので、ご覧ください。

書写の指導をお世話になった
大竹 秀子さん 高橋 由美子さん



次号は、11月18日に発行します。主な内容は「進路(キャリア教育)」などです。

少年の夢 をとめらの希望

全国学力・学習状況調査の結果が発表され、新聞やテレビのニュースなどで連日報道されていました。学力向上は永遠のテーマですが、沼田中学校では、11月を「読書・家庭学習推進月間」と位置付け、さまざまな取組を強化しています。



例えば、今月の特徴として、次のような予定が組まれています。

●三者面接

本人・保護者・担任が、授業や家庭学習に対する改善事項を話し合ったり、卒業後や将来の進路について相談したりしました。

●スベリングコンテスト(英語)

本日の1校時、市内の中学校では一斉に歴史と伝統のある沼田市スベリングコンテストを実施しています。

●期末テスト

月末の27日(水)、28日(木)の二日間、二学期の学習の成果を振り返る定期テストを予定しています。

●読書活動

各教科の学習に関連する図書の紹介、朝読書や学級文庫の充実などに焦点を当てて活発な読書活動を目指しています。

●読書(松下幸之助)

「本というのは人間の心を豊かにするわな。その本を読んで彼らが未来を夢見て、心を踊らせ、『ああ、僕も大きくなったぞ、こうなるぞ、ああなるぞ』と、そう考えさせてくれる」

生き方について考える(キャリア教育)

マナー・マツプ

職員室や保健室の入退室について、マナーマップを呼びかけてきたところ、「失礼します」という声や、さりげない会釈が目に見えて向上してきました。左記の資料のように、礼儀やマナーについて意識していると、日常のさまざまな場面で、美しい瞬間に出会えます。社会性を成長させていきましょう。

●でも礼節

サッカーのテレビ中継を観ていると、試合中に交替する選手が、ピッチ(試合場の芝生の部分)にむかって一礼して退場するのに気がつく。

それまで走り回らせてくれた「場」と、ともに闘っていた敵・味方の選手たちに、お礼と敬意を表するためだろう(外国の選手は、芝生に手をふれてから胸で十字を切ったりする)。

デパートの店員さんも、売り場から従業員室に引きこむとき、ていねいにお辞儀をしてドアの中に消える。

そういえば、新鮮線などの列車の車掌さんも、社内販売の人もそうだ。そんな姿を目にするにつけ、いっどこでも礼節をもって行動したいと思う。

「PHP」平成25年11月号より

進路について考える(キャリア教育)

もうひとつの朝日

社会の一員として芽生える時期の中学生が、働くことや職業について考える、体験したりすることはとても価値があります。そこで、次に紹介する文章から、どのように働いているのかを知り、働くことの意義や重要性について考えましょう。

顔
相田みつを

仕事は
なんでもいい
一生けんめいに
生きている人の
顔は
みんな美しい
美しい顔に
なりたいたい



まだ早朝で、駐車場も余裕があった。どこにもあるファミリーストランのチェーン店のひとつで、外観も中々の様子も変わったところはなかった。が、一歩店に足を踏み入れると、すくになにかしら特別な雰囲気があることに気づいた。

明るく、清潔で、楽しそうであり、新しい朝の輝かしい活気が感じられ、それでいて不思議に気持ちよく落ちついている。

「おはようございます！」

私の前に一人の女性店員がやってきた。決して若くはないし、それに美人というわけではなかった。

だが明るくて素敵な笑顔と声を持っていた。彼女につられて、私も思わず笑顔で挨拶を返していた。

私は席に案内された。禁煙席の広いエリアは彼女の担当らしく、注文伺いから料理のあげさげまで、たった一人でテキパキと仕事をこなしていた。

私は彼女の仕事振りに目をうばわれてしまった。礼儀正しくきはきはとした物言い、笑顔を忘れず、テーブルからテーブルへと、働きびびと動き回り、働く喜びが全身に輝いているようにみえた。

無表情にやってきた客たちが彼女に接したとたんに、幸せそうな笑顔をこぼし始める。明るく会話を交わし、楽しそうに注文のやりとりを始める。

そうさせることが彼女の仕事の大事なひとつには違いない。だがそれは演技として作りだされたものとは思えなかった。

仕事に誇りを持ち、店にきた客に気持ちよく朝食をとってもらうのが楽しくて仕方がないという思いが、自然にそうさせているようだった。客たちはそんな彼女に、くつろいで、気持ちよさそうに朝食をとり始める。

食べおわると、入ってきた時とは別人の明るい表情になって帰っていく。長野県茅野市の夢科へと向かう道にその店はある。彼女の胸の名札を見た。

「高畑」とあった。
店の中にもうひとつの朝日が輝いていた。



『相田みつを×川上操一 日めくり物語
三十の人生の二十の朝日』(小学館)

次号は、12月2日に発行します。主な内容は「人権」「掃除」などです。

少年の夢をとめらの希望

「人権の世紀」といわれる21世紀に入って既に10年以上が経過しました。法務省の人権擁護機関が掲げる今年度の重点目標は、次の通りです。

「みんなで築こう人権の世紀
考えよう 相手の気持ち
育てよう 思いやりの心」

一人一人が人権を尊重することの重要性を正しく認識し、他人の人権にも十分配慮した行動をとることが大切です。相手の気持ちを考え、思いやることを心掛け、すべての人々が個人として尊重され、相互に共存し得る平和で豊かな社会を実現させましょう。

今年度の沼田中学校では、群馬県のいじめ防止活動と連動し、いじめ防止をテーマにした人権学習を展開していきます。

いじめ防止標語の作成

※11月1日号で優秀作品を紹介

いじめ防止ポスターの制作

※美術部が仕上げた

作品を下段に紹介。

あいさつ運動の推進

※よりよい人間関係の構築
明るい学校づくり

また、4日の午後は集中的に学習を行い、下記のような学習活動を計画しています。



- 人権作文の発表
- 人権映画の視聴
- いじめ防止活動の紹介
- いじめ防止宣言の唱和
- 感想のまとめ



チューリップのうた

こんのとしひこ

咲いた 咲いた
チューリップの花が
ならんだ ならんだ
あかしろ きいろ
どの花みても きれいだな



大声で うたってみませんか
「どの花みても きれいだな」の一節に
このうたの作者の思いが
こめられています

赤 白 黄色 それぞれの美しさに
作者は 気づいています
考えてみてください
にんげんも ひふや目 髪の毛の色
いろいろですが

みかけのちがいを
のりこえて

同じにんげんとして

みとめあわねばなりません

チューリップのうたは

わたしたちに
こんなことを教えてくれています



『人権読本 じんげんの詩Ⅲ』(明石書店)

たんけん・はっけん・ほっとけん

―探検・発見・放置

こんのとしひこ

わたしたちのみじかに

人をばかにしたり

人を仲間はずれにしたり

人をいじめたりしていることはないか

「たんけん」してみませんか

ありますね

ばかにされ 仲間はずれにされ

いじめられている仲間はい

ないですかね

くるしんでいますね

そういうことを「はっけん」しましたね

いいのですか そういう仲間を

ほっといて・・・

いいえ「ほっとけん」ですよ

さあ さべつについて

「たんけん」しましょう

「はっけん」しましょう

きつと みなさんは

さべつを「ほっとけん」ことに

気づきます



『人権読本 じんげんの詩Ⅲ』より、
编者であるこんのとしひこさんの詩を
二編掲載しました。

幼い頃に歌った「チューリップのう
た」も改めて読み直してみると、違い
を認め、個性を尊重することの大切さ
を説いているように感じます。また、
「たんけん・はっけん・ほっとけん」
という詩は、いじめや差別、仲間はず
れについて考え、改善を図るヒントを
与えてくれています。人権意識を高め
る心構えとして活用してみてください。



美術部員の共同制作によるポスターは、校内はもちろん、沼田東小や沼田北小にも掲示されています。また、今朝からは保護者も参加するあいさつ運動が始まりました。



次号は、12月24日に発行します。主な内容は「冬休みの過ごし方」などです。

12月の生活目標
● 掃除の意義を考え、
効率よくきれいに清掃活動に取り組みよう

少年の夢をとめらの希望

本日、2学期の終業式を終え、明日から1月7日(火)までが冬休みです。冬休みはクリスマスやお正月などで生活のリズムが乱れ、さまざまなきっかけが崩れがちです。そこで、目標や計画を立て、しっかりと心構えで生活を充実させましょう。

頑張れ 受験生!

塩崎 均
近畿大学学長

何のために勉強するのか?

高校までの私は何事にも消極的。当てられるのが嫌で教室では目立つようなことはしません。先生は「アイツは何を考えているのか分からない」と思っていたことでしょう。

そんな私でしたが、大学に入っていろいろ経験をするうちに前向きな人間に変わりました。

特に、合気道部への入部が大きな転換。それまで剣道を続けていましたが、経験者が多くて、対戦してもなかなか勝てません。そこで競技人口が少ない誰もやったことのないことをしようと思合気道部に入ったのです。向いていたのでしよう。一生懸命に取り組み練習を積み重ねるうちに実力が身に付き、二年生のときには主将を務めました。スポーツは苦手と勝手に決めつけていましたが、こんな可能性があったのかと自分自身驚きました。

「チャンスが無い」と嘆いている人に「人は必ず必要なときに必要なことや必要な人に出会う。出会ったら、必死に取り組み。そうすれば結果が出る。結果が出れば自信が生まれる」と励ましています。人は持って生まれた素質を変えることはできません。しかし、知識を身に付け、経験を積むことで自分を変えることはできるのです。これは勉強にも当てはまります。人は勉強することで、知識を身に付け、その知識によって正解を見つけ出す。正解の積み重ねが自信につながります。また、知識は人の発想、思考を豊富にしてくれます。世の中には簡単に正解を出せないことも多くあります。しかし、そんなときでも様々な知識を持っていけば、それらを総動員して何が正解かを自分なりに導き出すことができるのです。判断するための情報は多ければ多いほどいい。だから、人は勉強し続けなければいけません。

でも、残念なことに勉強を好きな人はそうはいません。どちらかと言えば、勉強には忍耐が必要。ある作家は「学ぶことは勇氣」と話されました。学校へ行きたくないとき、勉強したくないとき、その思いに反して学校へ行くこと、勉強を続けることは「勇氣」のいること。勉強という面白くないことを取って「勇氣」を出してやるのだ、と。

また、勉強はテストで高得点を取るためだけにやるものではありません。人として必要なものを身に付けるためにやるのです。だから、一冊の本、一つの夢を大切に、そこから学びましょう。

勉強には終わりがありません。人は一生学び続けなければならぬのです。特に勉強は若ければ若いほど身に付きます。だから、皆さんは「今」を大切に

「チャンスを無い」と嘆いている人に「人は必ず必要なときに必要なことや必要な人に出会う。出会ったら、必死に取り組み。そうすれば結果が出る。結果が出れば自信が生まれる」と励ましています。

冬休みのせいかつ

- ◆事故や非行から自他を守るよう、節度ある生活をしましょう。
- ◆進級や進路への自覚を深め、学習のまとめをしましょう。
- ◆余暇を利用し、家族とのふれあいの機会を多くもちましょう。

にして、しっかり学んでください。「今が一番若い」、この真理から目を逸らさず悔いを残さないために懸命に取り組みしましょう。
「PHP」14年1月号 通巻788号

- 冬休みの生活について、次のことに注意しましょう。
- 家庭や社会生活においても、「時を守り、場を淨め、礼を正す」行動を心掛け、「美しい心」を磨く。
- 計画に基づいて学習し、「高い知性」を磨く。
- 就寝、起床、食事等、規則正しい生活を送り、「強い身体」をつくる。
- 未処置の疾病を治療する。
- 常に安全を考え、正しい歩行、自転車の利用に努める。
- 外出する際は、保護者に「行き先」「用件」「誰と」「帰宅時間」を話し、許可を得る。
- インターネットのゲームサイト及び携帯型ゲーム機、コミュニケーションサイト、ライン等を通じた人間関係に気を付ける。
- 家庭や社会の一員として、人の役に立つ。
- 学校閉鎖期間(12・29〜1・3)

朝のあいさつ運動

「冬のいじめ防止強化月間」の取組として、よりよい人間関係の構築、明るくさわやかな学校づくりを目指して、「朝のあいさつ運動」に力を入れてきました。

12月の第1・2週は、生活委員に加えて、PTA本部役員のみなさんを中心とした保護者(延べ人数12名)に参加していただきました。また、専門委員長選挙の立候補者、環境ボランティア委員、美術部員、各学年の職員らも参加し、毎日20人から30人近くの参加者が、玄関前で「おはようございます」とあいさつを交わし、すがすがしい朝になりました。2学年通信によると、新しい生徒会本部役員も「進んであいさつができる学校」「あいさつを充実させ、明るい学校」「はつきりとしたあいさつ」「元気にだれにでもあいさつする」といった考えをもち、朝の風物詩、新しい伝統になる気配を感じます。



寒さ厳しい冬がやってきます。あいさつの声で学校を活性化させたり、お互いに心をあたためたりしましょう。

保護者の皆様、ありがとうございます。

次号は、1月8日に発行します。主な内容は「二年の始まり」「書き初め」等です。

少年の夢 をとめらの希望

新しい一年の幕開けです。そこで、我が国最古の歌集『万葉集』の中から、おめでたい一首を紹介いたします。

新しき年の始めの初春の

初春 今日降る雪のいや重け吉事



この和歌は、『万葉集』の编者とされる大伴家持が、大雪の降った元旦に詠んだと言われています。「新しい年の始めの今日降る雪のように、よいことも次々に積もるとよい」という意味があります。昔、新年に降る雪は縁起がいいとされてきました。そう考えると、今年もなんだかよい一年になりそうな予感がします。



書き初め大会

新校舎での生活により、さまざまな変化が起っています。一校内書き初め大会もその一つです。今年も学年ごとに時間をずらしながら、体育館を会場に学年単位で、新春の書をしたためます。きつと雅楽のBGMに包まれながら、雅な雰囲気の中で一体感のある取組になることでしょう。また一つ、沼中の風物詩、伝統が築かれていく瞬間が目に見えそうです。

1月の生活目標

うがい・手洗いを徹底して、
風邪・インフルエンザの予防をしよう

そこで、書写の教科書である「中学書写 一・二・三年」(光村図書)から、詩人の谷川俊太郎さんが書いた「手書きの力」というエッセーを紹介いたします。

自分の書く文字が好きではないので、僕はキーを打って書くほうが多い。でも大事な手紙は手で書く。たとえ下手な字でも、手で書くほうが気持ちが良いと思うから。うちには良寛の書の複製が掛かっているが、見るたびに気持ちが良いかになる。字には書いた人の人となりや自然に表れるものがある。でも例えば詩などの場合、手書き文字で読むと、詩が味付けされてしまったと感じることがある。活字やフォントにもいろいろあるから、純粋に中身だけ読むためには、目で読むだけでなく、心の中でそれを声にしてみるのもいいかもしれない。

パソコンでも携帯電話でもキーを打つだけで、できあがった文字が出てくるが、字はもともと手を使って書いたものだから、出来合いの文字ではない自分の字を使っている。書いていくと、文字の形に潜んでいる歴史や、文字の意味の深さに気づくようになるし、一つ一つの文字の美しさも味わえるようになると思う。

各学年の課題は次の通りです。
1年：清新の気、不言実行
2年：信念を貫く、いつも笑顔
3年：感動を大切に、創造する喜び
金賞の作品を廊下や玄関に掲示します。保護者のみなさんもご覧ください。



学校における 対人関係

文部科学省が平成15年度に実施した「学校教育に関する意識調査」によれば、小学2年生や5年生だけではなく、中学2年生においても、学校生活で楽しいこと、不満なことのどちらの問いにも「友達との関係」が上位を占めていました。このことから、子どもたちの学校生活における「対人関係」の重要性がよくわかります。

そこで、冬休みに行われたある研修会で、文部科学省初等中等教育局視学官の杉田洋先生から、「学校における対人関係」について、すてきなお話を教わりましたので紹介します。

六年生のある教室で、子どもたちの発表による「私の宝物紹介」という学級活動が行われた。輪になって座った子どもたちが、順番に自分が一番大切にしている宝物を手にとり、エピソードを交えて紹介をしていく。六年間使った野球のグローブ、亡くなった祖母から貰ったアクセサリーなど、その子の家庭生活の一端が垣間見え、フライベイトでリアリティーのある話題に子どもたちは興味津々と聞き入っていた。そんな中で、ある女の子が何も持たずに立ち上がり、次のように言った。

「私の宝物は、となりに座っているA子さんです。私には、今までなかなか友達ができませんでした。でも、Aさんが友達になってくれました。私の話をよく聞いてくれたり、一緒に遊んでくれたりします。それ以来、友達が増え、勉強も頑張れるようになったんです。だから私の宝物は、A子さんです」

メッセージ

2学期終業式の後、冬休みの生活について注意点を確認し、大リーグで活躍するイチロー選手のコメントを紹介しました。故郷の愛知県豊山町で行われたイチロー杯争奪学童軟式野球大会の閉会式で語られた一節です。野球に限らず、人生の支えになるメッセージです。

「途中で手を抜くと自分自身で可能性をつぶしてしまう。だから小さなことを重ねていってほしい」

「いい結果ばかりに目が行きがちだが、倍以上の失敗がある。相手に負けて抱いた悔しい思いが今の僕を支えている」

「強くて、人の心の痛みが分かる優しい大人になってほしい」

防犯者について



銀世界になった翌日の12月17日より、学校指定のウインドブレカールを使用する登下校を許可しました。安全かつ健康に留意した登下校を！

お知らせ Information

次号は、1月20日に発行します。主な内容は「冬の生活」です。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

私立高校の入学試験や合格発表が始まり、3年生のみならず、学校全体が、さらなる学力向上や風邪・インフルエンザ対策、礼儀やマナーの向上に力を入れている時期です。沼中生としての磨きをかけるため、今号では礼儀やマナーについて考えていきたいと思います。



冬季オリンピックの開幕が近づいてきました。日本代表選手の活躍はもちろん、一流選手たちがしのぎを削る熱い戦い、工夫を凝らした開会式、選手を支える感動的なエピソードなどは大きな楽しみみです。



ところで、4年前のバンクーバー五輪直前、選手の服装や態度が話題になったことがあります。スノーボード男子ハーフパイプ代表の選手が、選手村の入村式において、公式服のネクタイを緩め、すそ出しのシャツ、ズボンをすり下げてだぶつかせた腰パン、大きめの黒いサングラス、耳と鼻にピアス、ドレッドヘア、鼻の下とあごにひげ、手には複数個の指輪といった服装で現れました。そのうえ、インタビュに答える際も、「別に」「特にない」といったぶっきらぼうな応対で、態度も悪かったのです。すると、現地入り報道を見た人から、スキー連盟やその選手が所属する大学に非難の声が多数寄せられ、一時は出場辞退まで検討されるほどの騒ぎになりました。

一方、サッカーの日本代表は、英国ブランド「ダンヒル」と契約し、移動時にはスーツを着ています。日本サッカー協会は「社会人としての常識を保持しよう」と指示しているそうです。

もちろん、日本オリンピック委員会(JOC)には「国際大会における日本代表選手団公式服装着用規定」があり、その第2条に、「日本選手団に認定されたものは、その自覚と誇りを持って選手団公式服装を着用しなければならぬ」とあります。しかし、この条項に違反しているかどうかは、自覚と誇りがキーワードになります。

群馬県内のある工業高校の先生が、高校生に対する服装指導の考え方として、「相手が不快に感じる服装をしない」と伝えていくと聞いたことがあります。自分の価値観や基準で物事をはかるのではなく、「相手が何を求めているか」を考えていく力を高めていきたいものです。



哲学者の内田樹氏が著した『下流思考』(講談社文庫)という本があります。その中で、「労働の本質は言かきである」という考え方が、次のように説明されていました。

「言かきをする人は、言かきをしていくところをたくさんの人から目撃されることはない。人々が仕事に行くときにはもう既に言かきは終わっている。」



きれいになった道を、みんなが当たり前のように歩いて、通勤・通学する。「誰かが言かきをしてくれたんだ」と思いながら急いで歩く人もいるかもしれないが、誰かが言かいたのかもわからないので、感謝の気持ちが言葉になることは少ないでしょう。しかし、誰かが言かきをしなかったら、凍った地面に足を滑らせて転んだり、怪我をしたりするでしょう。

そう考えると、言かきは誰かを喜ばす行為というより、その道を通る人たちが普通に歩いて行けるように事前によく行動のよう感じます。



そして、何事もなく、平常通りに人々が仕事に行ってしまったのを見届けたときに、言かきをした人はものすごく充実感を感じ、「言かき」という作業にやりがいを感じるのである。

誰も見ていないし、誰からも賞賛されない地味な作業を、誰かがやらなければならぬし、そういうことをする人がいることで社会はうまく回っているのかもしれない。

しかし、これは仕事に限りません。大人社会で言えば、消防団や民生委員、地区役員、防犯パトロール、家事、育児など、何十年もやっている人たちがたくさんいます。もちろん、学校でも、掃除や係活動、生徒会活動や委員会活動、ゴミ拾い、給食当番などです。

だからこそ、無言の賞賛を感じる感性をもっていないと、「どうして自分がやらなくてはいけないのか」「こんなことやっていると誰か褒めてくれるか」などといった気持ちにもなるでしょう。「言かき」を意識しながら行動を考えましょう。

インフルエンザ対策

今月は「風邪・インフルエンザ予防月間」です。そこで、群馬県のHPから予防のヒントを得ました。基本は「手洗い・咳エチケット」だそうです。以下の注意事項も合わせて紹介します。

- ◇ 外出から帰宅したときには、手洗いを行いましょう
- ◇ 咳などの症状がある人は、咳エチケットを守りましょう。
- ◇ 十分な睡眠と栄養をとり、できるだけ人ごみを避けましょう。
- ◇ 感染を避けたいために、かかったあとは完全に治るまで外出を自粛しましょう。
- ◇ 咳や発熱などの症状のある方は、医療機関に電話をしてから受診をするようにしてください。
- ◇ その際には、必ずマスクを着用しましょう。
- ◇ マスクをせずに咳やくしゃみをする時、ウイルスが2〜3メートル飛ばすといわれています。そこで必要なのが「咳エチケット」です。
- ◇ 咳・くしゃみをするときには、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◇ 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。
- ◇ 症状のある人は、マスクを正しく着用し感染防止に努めましょう。



次号は、2月3日に発行します。主な内容は「立憲式」「生き方」「個性」などです。

少年の夢をとめらの希望

いじめ防止子ども会議

いじめをなくし笑顔の輪を広げよう

2月12日、沼田中学校区いじめ防止子ども会議を行いました。今年度は群馬県全体でいじめ防止活動が活発化し、そのまとめとして各市町村ごとに会議が開かれることになりました。そこで、学区内の沼田東小、沼田北小の5・6年生が8名ずつ集まり、本校からは生徒会本部役員と生活委員長、1年生の学級委員長が参加して、リーダー研修を兼ねたブレ会議を実施しました。



沼田中学校区いじめ防止子ども会議

放課後のわずかな時間にも関わらず、各学校における取組を発表し合うことで、それぞれの工夫やよさに気づき、今後の活動に向けてたいへん参考になりました。具体的には、あいさつ運動の活性化、各種集会での啓発、交流活動の工夫、仲間同士が支え合うピア・サポート活動の導入などが紹介されました。2年生が堂々と発表したり、司会として進行したりする姿を、小学生は尊敬の眼差しでとらえていたようです。

その中から、生徒会長の内藤篤志くんが

生活委員長の戸丸愛梨さんが、21日に開催された沼田市いじめ防止子ども会議に参加し、100名を超える参加者の前で、開会行事や班別協議の司会、全体発表などを務め、沼中を含む市内の各小中学校の取組のよさを共有できました。

開会行事では宇敷重信教育長さんから「徳は強ならず、かならずとなりあり(正しい行いをしていれば強立することとはなく、必ず理解してくれる人に恵まれる)」という『論語』の一節を紹介していただいたり、沼田市教育委員会の後藤一将指導主事より、「自分たちでいじめをなくそうという目標をもつてほしい」、「仲間の絆を大切にしたい」、「いじめについて一緒に考えてくれる大人に相談する気持ち大切にしたい」といったメッセージが送られたりするなど、学びの多い活動となりました。

先週は記録的な豪雪の影響で、休校や部活動カットなどの措置が取られました。そんな中、除雪作業を通して、人の温かさを感じる場面が、17日の上毛新聞で報じられました。

▼16日から除雪作業が本格化。新興住宅地の自宅周辺でも、住民が協力して道路に積もった大量の雪かきに汗を流した。「みんなが使う道路」。あいさつ程度だった住民同士の間にも自然と連帯感が芽生えた。そんな光景が、あちこちで見受けられたのではないだろうか▼出勤途中の道路では片側1車線が中央付近しか通れず、互いに譲り合いながら倍以上の時間をかけてたどり着いた▼「共助」。今こそ、その精神で自然がもたらした困難を乗り越えたい。

オリンピックから学ぶ

文武両道 人間教育の場

次に紹介するのは、衆議院議員で、日本オリンピック委員会の選手強化本部長であり、ソチ五輪で選手団の団長を務めている橋本聖子さんが、宮崎県で行われた観光従事者研修会で講演したものです。



今、日本オリンピック委員会としても、私個人としても、すごく反省すべき点があります。それは何かと言いますと、「勉強ができないからスポーツをさせる」というイメージが、世間一般にあることです。これは、私たちスポーツ界の責任です。

しかし、アスリートを育て上げる際に確実に言えることは、勉強ができればメダリストには絶対になれない、ということ。そこで、1996年のアトランタオリンピックでの失敗を踏まえて、ゴールドプラン委員会というものを立ち上げました。金メダルを目指す委員会ですが、この本当の意味は、「人生をゴールドにする人づくり」です。こういう姿勢でアスリートを育てています。

私は、アトランタオリンピックのときは、選手であり、国会議員でした。オリンピック会場に向かう選手団に乗せた飛行機から降りる時、私は一番最後に降りたのですが、嘩然としました。スリッパや新聞や紙コップが散乱し、毛布も畳まれていなかったからです。

「これが本当に日本を代表する選手たちか」と目を疑いました。案の定、いい結果ではありませんでした。その反省を受けて、「人間力なくして、競技力向上なし」ということをテーマに掲げ、選手強化をやるようになりました。

日本を代表する選手というのは、血税を使つての代表選手です。いかに「公人」ということに耐えられるかということも、競技力の一つになります。実際、選手村を去る際、私はすべての選手の部屋をチェックしています。お世話になった物に対して、感謝の気持ちを込めて後始末ができていないかをチェックしているのです。

そうすると、物に感謝できるかどうか、競技力に結びついていることがわかります。競技成績のよい選手たちは、人の見ていないところでも物に感謝することができています。そのような心があってこそ、精神の鍛錬ができるのです。そして、その日々の感謝の積み重ねが、いざとなったときに、体格では劣る日本選手が勝つ、大きな要素になるのです。

このことを示していくためにも、私は今、オリンピックを教育の場にしたという思いで、人づくりに励んでいます。「みやまき中央新聞」平成第1月20日 2538号

日本選手団が活躍したソチ五輪でも、数々の競技でたくさんの感動秘話が聞かえてきました。「人間力なくして競技力向上なし」を実感します。

次号は、3月3日に発行します。主な内容は「卒業」「言葉の力」などです。

少年の夢をとめらの希望

卒業 あなたはこの学校にどんな伝説を残して卒業していきますか

13日の卒業証書授与式まであとわずかになりました。この時期は公立高校後期選抜や卒業式練習など、中学校生活3年間の集大成と言えます。

そんな時、教育関係のサイト(TOSSランド)で興味深い取組を見つけました。「利他」を言い続けてこれられた先生が、卒業式までの10日間を充実させた実話の概要を紹介します。

卒業式まで残り10日となったとき、鈴木恒太先生は次のように問いました。

・利他を掲げたこのクラスで、残り10日、何をやるか?
・この学校にどんな伝説を残して卒業していきますか?

「利他」とは、「他人の利益となるように回ること」「自分のことよりも他人の幸福を願うこと」といった意味をもっています。この質問を受け、子どもたちは次のように回答したそうです。

- ・畑の整備
- ・靴をそろえる
- ・あいさつをする
- ・ゴミを拾う
- ・笑顔で過ごす
- ・次の学年のため
- ・教室をきれいにする
- ・人の話を聞く
- ・人を助ける
- ・黒板を綺麗にする
- ・本をそろえる

卒業式までの姿

自分で設定した「10の利他」は、学級通信に名前入りで掲載し、全体で共有したそうです。また、各自チェックシートを用いて、机の中に常備し、取り組んだ日付を記入していきまし。実際にやったのは次のような活動です。

- 畑の整備
 - 玄関の靴や、パソコン教室のスリッパの整理
 - 図書室や学級文庫の整理
 - 東日本大震災の募金活動
- ※わずか2日間の活動で、4万円ほど集めたそうです。

日頃から「格好いいことをする必要はない。当たり前のことを、当たり前にしていくのが一番格好いいんだ」と言い続けられていたせいか、等身大の「利他」が多かったようです。

卒業式当日の姿

当時は、東日本大震災直後の卒業式だったこともあって、社会全体に自粛ムードが広がっていたためか、鈴木先生は「卒業式には、派手な演出も、偽善的な涙もいらない」と指導しました。子どもたちは期待に応え、「淡々とした中の美」「普段通りの姿を小学校生活最後に示す美」を立派にやり遂げたそうです。

しかし、その後、「今から、教室に戻りたい」と申し出る子どもがいました。理由を尋ねると、「教室に戻って、いつもの掃除をしてから下校したい」と話しました。

「立つ鳥跡を濁さず」の言葉通り、卒業式を終えても、教室をきれいにし去ろうと考えた子どもたちの心の成長は見事なものです。

自分が「誰か」になる 言葉(はなむけ)の言葉

職場でも家庭でも、掃除やゴミ出し等、必ず誰かがやらなければならないことがあります。それらは一見、面倒にも思われます。しかし、誰かがやらなければならないのなら、自分がその「誰か」になる……このように考えると、前向きに取り組むことができるのではないのでしょうか。

「自分が誰かになる」という思いは社会でも大切です。一人ひとりの思いは小さくても「助け合い」として行動に表れれば、社会は大きく変わっていくことでしょう。他人任せではなく、自分が「誰か」になる勇気が必要なのです。

「ニューモラル」第33号(平成26年1月1日発行)

言葉は力である

2学期の後半から、インターネット上のコミュニケーションにおいて、複数のトラブルがありました。そこで、学年ごとに生徒対象の講習会を実施したり、学年保護者会で家庭との連携を求めたりしてきました。ネットの扱い方を改善するだけではなく、言葉の使い方やコミュニケーション力を高めていきましょう。

「水点」「塩狩峠」など、多くの小説を著した三浦綾子さんは、次のように述べています。

「言葉は力である、と私は思う。一言がその命を奪うこともある。舌先三寸で人を殺す」という言葉を、幼い頃からよく聞いたものだ。言葉というものは理不尽なほどに人間を動揺させ墮落させ、非情に走らせるかと思ふと、奇跡のように甦らせ、向上させ、

意欲を与えるものである」(「小さな一歩から」講談社文庫)

私たちが発する言葉が大きな力を持つことは、古今東西で、多くの先人たちが述べてきました。道元禅師の「愛語、よく回天の力あり」(心のこもった温かい言葉には、世の中を変えるほどの大きな力がある)、「正法眼蔵」なども、その一つです。

近年は携帯電話やインターネットをはじめとする通信技術の発達により、多種多様なコミュニケーションの手段が生まれました。離れた場所にいる人に対して、手軽に言葉を伝えることができるようになり、格段に便利になっています。それだけに、一方では顔と顔を合わせて言葉を交わすときと同様に、「伝える言葉に真心を込めること」「発せられた言葉から相手の心情を推し量ろうとすること」の大切さは、変わらず心に留めておかなければなりません。

また、「言葉は身の丈」といいます。言葉とは、発する人の人間性を表すものであるということです。私たちは自分自身の心を磨き、日々、よりよい言葉を発していきたいものです。その言葉によって周りにいる人に喜びを与え、温かく親密な人間関係の輪が広がっていけば、その輪の中にいる自分自身にも大きな喜びがもたらされるでしょう。何気ないひと言が、人の心に火を灯すことがあります。また、何げないひと言が、人の心を傷つけることもあります。

「ニューモラル」第五三四号(平成26年2月1日発行)

次号(最終号)は、3月12日に発行します。主な内容は「鹽(はなむけ)の言葉」です。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

新年度が始まりました。入学・進級おめでとうございます。

沼中生一人一人が、心身ともに健康に成長し、人とのつながりや社会との関わりを自覚しながら、自己を確立し、それぞれが使命と役割をもって社会で役に立つ人間に成長していくことを願い、沼中の生徒指導委員会では、今年度も生徒指導通信「少年の夢」とめらの希望」を発行していきます。夢や希望の実現に向かって、自ら力強く動き出せるよう応援しています。年間25号の予定ですが、どうぞよろしくお願ひします。

大海への船出に際して

4月1日付の上毛新聞の「三山春秋」というコラム記事に、新生活を迎える若者に対するメッセージが掲載されていました。



全くの苦労知らずであった私にとって新しい生活を始めること(略無限ともいへべき大海に船出することは、決して小さな企てではなかった

これは先月出版された『新島襄自伝手記・紀行文・日記』(岩波文庫)の中の「私の若き日々」からの引用です。幕末、国禁を犯して密出国しアメリカに渡った22歳の新島襄の、命がけの行動からは、自由を求める青年の熱い思

いを感じます。

未来のことを思うと、新たな勇気が湧いてきた。ふり向いて故郷を見る代わりに、前方の中国(上海)の目を向けた。

情熱的な青年をつき動かしたのは、

国のことを思い、自らの未来を切り拓こうという志だったように思います。ちなみに、上毛カルタ「平和の使い新島襄」で知られる新島は、NHKの大河ドラマ「八重の桜」の主人公・八重の夫であり、もう少し先になります。がドラマにも登場するようです。

8日の始業式・入学式を緊張の面持ちで未知の環境に飛び込んだ沼中生は、「無限ともいへべき大海に船出」した新島の姿と重なって見えます。たくさんの困難・苦勞の向こうに、喜びがあることを期待しています。

沼中ノート

昨年度同様、今年度も「沼中ノート」を作成しました。毎日の日記、家庭学習の計画と反省、翌日の教科連絡など書き込めます。また、月別行事予定、学びの約束、家庭学習のヒントも収録されています。そのうえ、新しい試みとして、家庭学習のきっかけを作るために、1週間1教科程度のペースで取り組める問題も掲載しました。中学1年生レベルの内容で、国・数・英の3教科です。よりよい生活習慣の確立の向けにも有効に活用しましょう。



人生の主人公

この人生は だれのものでもなく 私自身のものだから

自分の力で 立ち 歩いていきたい

一度しかないから だれにも任せられない

私が描く 自分自身の物語

今はまだ わからないこともたくさんある できること できないこと

夢と希望 不安と恐れ

まわりに流されそうになったり だれかにふりまわされたり

投げやりになったり

そんなときは 心の声に耳をすますと 聞こえてくるんだ

私は どう在りたいのか?

これは 在るべき自分の姿なのか?

簡単に答えは出ないけど

いつも問いかけながら 歩いていくよ

他のだれでもなく 私自身であるために

これが自分だと 胸を張って言えるように

この人生の主人公は 私なのだから

自分自身で描きたい

私の中の 一番輝いている自分を 『心のノート』より

思春期を迎え、時々自分のことがわからなくなる時があるかもしれません。素直な気持ちで自分を見つめましょう。

待望の新校舎完成

新しい校舎は、全国的にも珍しい平屋の建物です。教職員を含めると450名近くが北校舎に収まっていた昨年度に比べ、ゆったりとした感じがします。横幅が1m広がり天井の高い教室、広くて長い廊下、大きなガラス越しに見える広場、自動で点灯するトイレなど、充実した設備を整えていただきました。感謝の思いをもって大切に使用しましょう。



生活向上オリエンテーション

4月10日(水)の5・6校時、体育館にて「生活向上オリエンテーション」を行います。昨年度は1時間の取組でしたが、新校舎での新しい生活に伴い1時間拡大しました。主な内容は、次の通りです。

- 生活のルール(新校舎の生活を含む)
 - 掲示板の利用
 - 保健室の利用
 - 相談室の利用
 - 情報モラル
 - 図書室の利用
 - 体育館の利用(昼休みの使い方を含む)
- 生活のルールやマナーを守り、充実した学校生活を送りましょう。



次号は、4月17日発行予定です。10日に行う「生活向上オリエンテーション」の様子を紹介します。

少年の夢をとめらの希望

8日から始まった平成25年度も、10日間が過ぎようとしています。身体計測や新入生歓迎会なども終わり、授業も本格的に始まりました。そこで、今回は本(教科書)の扱い方を紹介します。

教科書の開き方

真新しい教科書をどう使い始めたらよいと思いますか。

本はページを繰って読んでいくので、最初に、本に対して、繰られることになじませる作業をします。どのページを開いても、開いたままの状態に安定し、元へ戻らないようになじませるようにはしたいのです。厚い教科書は、この作業を怠ってしまうと、読みにくいだけでなく、本にゆがみが生じ、傷みやすくなります。手順は次の通りです。



1. 表紙を上にして教科書を机の上に置く。
2. 表紙を、平面になるまで開く。
3. 開いた折り目(「のど」という)に、右手中指を少し強くあて、たなこころで全体を押さえながら、上から下へ滑らせる。手を離しても、表紙が跳ねて閉じなくなるまで押してなじませる。
4. 元へ戻して、裏表紙を開いた後3と同じことをする。
5. 元へ戻し、今度は本の真ん中あたりを開く。先と同じようになじませる。
6. 元へ戻し、次は全体の四分の一、四分の三、以下、八分の一、



八分の三、八分の五、八分の七ページくらいのところを開いては、先と同じようになじませていく。

7. このページを開いても、跳ね返って閉じることなく、開いたままの状態に安定するまでなじませる。

生活向上 オリエンテーション

報告

10日(水)の午後、全校生徒が体育館に集まり、生活のルールなどを確認しました。新校舎での生活が始まり、清掃のしかた、掲示物の貼り方、教室や廊下、保健室などの利用法を確認しました。ガラスや木材など、美しい反面、壊れやすい点も併せもつ校舎を、機能的かつ美しく使おうと考えています。スクリーンや話し手である先生方の顔を見る目がとても真剣でした。また、相談活動や情報モラル、体育館や図書室などの使用についても説明がありました。さらに、最後に、学級・学年を中心としたよりよい人間関係を築いたり、一人一人が自己肯定感を高めたりすることを目的に、PA(プロジェクト・アドベンチャー)を体験しました。

PAという活動では、「居心地のよい環境」づくりを目指しており、人の話を聴くことで、多くの気付きを得たり、互いに支え合ったりする力も向上するようです。

「気遣い」にあふれ、「美しい心」が表れる 美しい所作・振る舞い

輝く沼中生

☆廊下で荷物を運んでいると、「何かお手伝いすることはありますか」と申し出る男の子がいました。

☆届いたばかりの教材を段ボールから出していると、ハサミを持った女の子が現れました。「先生、よかったら使ってください」優しい声かけでした。

☆休み時間、可動式黒板の前で、ある男の子がつぶやきながら、高さを調整していました。「〇〇先生は、このくらいの高さでいいかな」

制服について考える①

学校という場への制服の導入は、学習院が発祥と言われています。制服は、華やか結婚式でも着用され、服飾文化においては「フォーマルウェア」になっています。

フォーマルウェアの着こなしにおける最大のルールは、「ドレスダウンは存在しない」という点です。燕尾服の袖をまくって結婚式やノーベル賞授賞式に参列する人はいません。つまり、制服を「着崩す」という概念は存在しないのです。よって、制服を着崩している人は、格好つけているようですが、むしろ「ファッションを知らない」ということです。これは、全世界共通の服飾ルールです。

ニッケ(日本毛織株式会社)が発行している学校情報誌「compass」に、制服に関する次のような記述がありました。

「中学校は赤いリボンのセーラー服で、高校はブレザーでした。どちらかひとつではなくて、両方染めたので良かったですね。私の世代はルーズソックスが流行った最後の方だったので、足がきれいに見えるかもしれないけど、なんとなくだらしのないなと思っていました。制服を着るときは「清楚に賢く見えたらいいな」「体型がきれいに見えたらいいな」と着こなしには特に気を遣っていました。

一方で、個性を出したいからと着崩す気持ちもよく分かります。ですが、あまり着崩し過ぎるにはだらしなく見えるのでよくないなと思いますね。また、皆がやっているから同じように(着崩し)するのは何か違うなと思います。個性の発揮なんかじゃなくて自分の殻に閉じこもっているだけのようだな。」

加藤夏希さん(女優・モデル)

「制服は社会性を守るツールでもあり、きちんとした身だしなみを心掛けることで、社会で自立できる人材の育成にも一役買っています。生徒たちは今の制服を誇りを持って着用しているため、目立った着崩しはありません。」

岡田聡校長(北海道斜里高校)

※次回、「制服について考える」の続きを掲載します。



次号は、4月26日発行予定です。大型連休の過ごし方について紹介します。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

今週末から大型連休です。

4月27～29日、5月3～6日

の合計7日間が休日となります。この間、各部の市春季大会なども計画されていますが、家庭や友だちと過ごす時間も増えることが予想されます。

そこで、より充実した時間にするため、「保護者の皆様へ」というプリントを配付し、学級で注意点を確認しています。主な内容は次の通りです。

ゴールデンウィークの過ごし方

1 事故防止対策

- 交通規則を守る。
- 危険な遊びをしない。
- 遠方に出かける際、保護者同伴を原則とする。
- 雪解け水で増水した川に、魚釣りに行かない。
- 外出する際は複数で行動し不審者等に注意する。



2 非行防止対策

- 「生活指針」をしっかり守る。
- ゲームセンターへ出入りしない。
- 商店などで、万引きを疑われるような行為をしない。
- 外出時は、帰宅時間(目安は18時)を守り、服装に注意する。



- 夜間は遊びに行かない。
- 飲酒・喫煙・シンナー吸引など、法律に反する行為をしない。

非行防止教室

23日の3校時、全校生徒を対象に、非行防止教室を実施しました。講師は、毎年お世話になっている、沼田警察署のスクールサポーター、高橋正行先生でした。30分という短い時間の中で、いじめや万引き、携帯電話などについて、実例を紹介しながら安全に生活するヒントを教えてくださいました。具体的なアドバイスは、次の通りです。

- ☆ 携帯電話は持たない。
- ☆ 携帯電話を内緒で持っている子は、成績が低下している。
- ☆ 携帯電話や自宅のパソコンからのトラブルが増えている。
- ☆ 万引きをしない。多くのケースが、捕まるまで続けてしまう。商品を作った人、運んだ人、売った人、親など、多くの人に迷惑を掛ける。
- ☆ トラブルに巻き込まれないよう、ゲームセンターに行かない。
- ☆ 学校生活をしっかりと送ることが大切だ。
- ☆ 親に迷惑を掛けない。



4月の生活目標

新しい生活に慣れ、心も体も元気でいよう

頑張れ 市春季大会

対局中は、もちろん相手とも戦っています。同時に、迷いや恐れといった自分自身の中にある弱い気持ちとも戦っています。



この「弱い」部分というのは、自然な気持ちであると思います。だれしもリスキは避けたいと思うし、それゆえに迷いが生じることがあるでしょう。しかし、自分の弱さに負けていては決して進歩は望めない。決してよい決断を下すことはできません。

また、最近「キレる」という言葉がよく使われますが、私も対局中に、「キレる」感覚に陥ることがあります。ずっと集中していると、どこかでブツンとキレてしまったり、そこから根気よく考えることができなくなってしまうことがあるのです。

ただ、一度「キレる」経験をすると、どういう状態になったら「キレる」のかということもわかってきます。そこで、どうしてそういう状況になってしまったのか、ということ振り返り、改善する方法を考え、次は同じ失敗を繰り返さないよう心がけています。

「キレる」ことを防ぐ一番の方法は、平常心を保つことだと思います。私も、自分の思いどおりに対局が進んでいない場合は、やはり気分がいいです。反対に、調子の悪いときは苦しい、早くそこから逃れたいと思います。

しかし、よい場面が続くと、油断につながるものですね。悪い局面から逃げ出しても決してよい結果にはつながりません。ですから、対局中は常にできるだけ感情の波を小さくおさえるように努力しています。

羽生善治『挑戦する勇氣』(朝日新聞社)

制服について考える②

4月17日に発行した生徒指導通信の続編です。



「制服には大きく2つの側面があります。ひとつは帰属意識です。同じ制服を着ることで『横浜翠陵の生徒である』という仲間意識や連帯感が生まれます。もうひとつは、ルールを学ぶ機会になるということです。制服もルールのひとつです。『ルールが何のためにあって何故守らないといけないのか』を生徒たちが学ぶことができる分かります。例が制服だと思えます。ルールは集団の中で秩序を保つために必要なものですが、秩序を守ることは自分のプライドを守ることにも繋がると考えています。また、制服が愛校心を育み、ルールを学ぶ機会となってくれることを願っています。」

佐久間健一校長(横浜翠陵中学・高校)

「全員揃って同じ方向を向いて、例えば今から勉強するとかクラスで何か取り組みをする際に、『ムード作り』や『生徒の意識付け』に役立っていると思えます。皆が同じ制服で、教室で揃って前を向いて授業を受けていると一つの方向性を感じます。」

田中英世校長(吹田市立第二中学校)

帰属意識や一体感、安全性など、改めてその価値を見直し、制服を通して豊かな人間性を身に付けてもらいたいと願っています。

次号は、5月1日に発行する予定です。主な内容は「5月の生活目標」「新校舎の生活ルール」などです。



冊頁師から学び、考えるヒントにしましょう

少年の夢をとめらの希望

夢と希望を胸に抱きながら、意欲的な1ヵ月を過ごせました。校舎が新しくなったばかりではなく、沼中全体が新しく生まれ変わった印象を受けます。

そこで、初心(今年度のスタート)を思い出し、ゴールデンウィーク明けの生活がより安定し、充実していくよう、喜多川泰さんが著した『スタートライン』(デイスカヴァー・トゥエンティワン)を紹介します。まず、表紙カバーの裏に次のような文章がありました。期待と勇気が湧いてくる内容です。

「自分のやりたいことに挑戦する勇気を持った人にとっては、未来には、今君らが考えている以上に、楽しいことであふれた毎日が待っている。将来の君らは、今の君らが想像もできないほど大きなことをやって、多くの人の幸せを左右する存在になっているはずや。」

ちなみに、以下は、昨年度の群馬県公立高校入学試験の後期選抜において、国語の問題に出題されていた文章です。席替えをして四日目の四時間目、三年生になつてはじめて日本史の授業があった。

「宮下先生はどんな話をしてくれるんやろう」
「ぼくは、最初の授業に期待していた。もちろんこの日のためにノートを新調してある。」

ぼくは、チャラッと隣を見た。彼女は机の上に見たこともない日本史の教科書を置いて、授業を待っていた。転校してきたばかりなのに、教科書が間に合わなかったのかもしれないが、それだけが理由でもなさそうだった。

5月の生活目標

あいさつで笑顔の輪を広げ、潤いのある人間関係を築こう

日本史の教科書には色とりどりの付箋が貼つてあり、いろんな資料やメモを挟んでいるように、もとの二倍ほどの厚さになっている。

「日本史、好きなん？」
彼女は、こちらを向いて微笑んだ。

振り返ったときに指れた髪の毛の香りが、優しくぼくに伝わってくる。思わずドキッとした。「わたし？。こう見えて隣女だよ。オタク的なほど」

彼女はそう言つて笑つた。
ぼくは、嬉しくなった。この学校の日本史の先生はすごいぞ。きつと君が出会つたどの先生よりも日本史を好きにしてくれる。そう思つて、ひとりでニヤニヤしてしまつた。

家族や親戚の自慢をする子どもみたいな気分だつた。
「日本史の先生どう？ 好き？」
ニヤニヤしているぼくに、

彼女のほうから声をかけてきた。
「えっ。ああ、ちよつと変わつて、熱いやけど、俺は好きじゃ」
彼女は、嬉しそうに微笑んだ。

「変わつてる人か。ふふふ。楽しみだわ。早く授業、始まらないかな」
それで、ぼくらの会話は終わった。

チャイムが鳴り、宮下先生が入つてきた。同時に、学級委員が号令をかける。

「起立。気を付け。礼。着席」
みんなが座り終わつて、イスと床がぶつかる教室独特の音がやむのを待つてから、十分に間をとつて宮下先生は話しはじめた。

「人間、生まれてきたからには役割がある。ぼくはそう思つてる」
いつもながら唐突な入りだ。

ふつうの先生にありがちな、「ええ、今日から新学期ですが……」とか「さて、今日から

江戸時代をやります」なんて言葉で授業を始めないのが宮下流だ。

チャラッと長森のほうを見ると、彼女はちょっと吹き出したように笑い、ぼくに向かつて目を丸くして見せた。でも、すぐに前を向き、食い入るように宮下先生の話を聞いている。

「君らが生きるといふことは、その役割を果たすといふことや。これからいっしょに、この国に生まれ、役割を果たして去つていった数々の偉人たちの人生を見つめていこう。歴史を学ぶひとつの良さは、人間は自分の役割を果たすために生まれてきたといふことを信じるに値する事例がたくさんあることなんや」

宮下先生はひとりひとりと目を合わせるように、満足げに微笑んだ。
全員が顔を上げてひとつになる。水を打つたような静けさ。

この雰囲気は、ぼくが知っている限り宮下先生にしかつくり出せない。
「ここまで、ええか？」
宮下先生が、緊張を解くためにそう言葉を繋いだ瞬間、長森が手を挙げた。

宮下先生は一瞬意外そうな顔をして、すぐに微笑んだ。先生にとっては言葉を繋いだだけだったのに、転校生が手を挙げたことに面食らつたのだろう。

ぼくも驚いた。
彼女が授業で手を挙げたのは、ぼくが知る限りこれが最初だつた。

「どうした、長森？」
「先生の役割は何ですか？」
「おお」

クラス全体からどよめきが起つた。そのどよめきにはぼくも参加している。

いきなりにして大胆な質問。転校生でなければなし得ない、いつもとは違う展開。いい緊張感だつた。

「人間は本気になれば、とてつもなく大きなことを成し遂げられる存在だ。じゃけど、ほとんどの人は『どうせ自分には無理だ』



と思つてる。自分の心にブレーキをかけているのは自分自身だつてことに気づいてない。俺の役割は、俺が出会うすべての生徒の心のブレーキを外すことや。おまえたちは何だつてできる」
「おお」

さらなるどよめきが起つた。

新校舎での生活も1ヵ月経ちました。より一層充実した生活を送るため、ルールを守り、マナーを向上させましょう。

□ あいさつ運動推進月間にちなみ、授業の始めと終わりのあいさつは、起立し、椅子を入れてあいさつする。

□ 登下校の際、校舎の軒先を歩いたり、東小や沼中の校庭、市保健福祉センターの駐車場などを横断したりしないようにする。

□ トイレや流しは、各学年のものを使用する。

□ 歯磨きをしながら廊下を歩き回らない。

□ 廊下には丁字路もあります(やがては十字路ができます)。広がらず、走らず、右側を通行する。

□ 学校指定のトレーナーは、5月末日まで使用できる。

次号は、5月20日に発行します。主な内容は「テスト」「教育実習」などです。

少年の夢をとめらの希望

23日(木)の中間テストを目前に控え、授業や家庭学習に力が入る時期です。沼田中学校の定期テストでは、1・2学期は中間テストと期末テスト、3学期は期末テストのみ行う予定です。その他にも、4月の学力テスト、長期休業明けの実力テスト、英単語を身に付けるスペリングテストなど、さまざまなテストが計画されています。そこで、「学ぶ」ことについて考えていきましょう。

学ぶ

勉強がわからない、授業が面白くないと感じている人がいるかもしれません。学ぼうという気持ちのない者にとっては、5・6時間に及ぶ毎日の授業は、苦行でしかありません。そのうえ、予習も復習もせず、寝不足な顔をして座っているだけでは、簡単な質問の答えにも苦労し、理解したり身に付けたりできるはずがありません。

学ぶ意欲を起させる言葉

★勉強は、しなさいと言われてするものではなく、したくなるとき初めて意味を持つものだ。

落合恵子(文筆業)

★学ぶ、とは新しい自分に出会うことだ。

一ノ瀬綾(作家)

★体験のある知識はひらめきを生む。

日下公人(経済学者)

作家の橋本治氏は『「わからない」という方法』という著書の中で、次のように書いています。

「わからない」をスタート地点とすれば、「わかかった」はゴールである。両者をつなぐ「道筋」が見えてくる。「わかる」とはその道筋を地図に書くことである。「わかる」ことばかり求める人は地図を見ないで、ただゴールに着くことだけを命令する人である。そういう人は自分の通った道筋がまったくわからない。だから、「何もわからない」ままでいるのだ。

「わからない」から「やる」のは思考の始まりで、「わからないからやらない」のでは無知であり、無恥のままです。

本日、自らの夢を追いつつも、皆さんを応援してくださる5人の教育実習生を迎えました。共に学び、共に成長する大きなチャンスです。まずは中間テストに向けた準備を頑張ります。

高校入試

などを意識して、不正行為のない取り組みを呼びかけています。ケアレスミスに注意し、一分一秒も無駄にしない、高い集中力で、学習の成果を発揮しましょう。

定期テスト等の受け方

沼田中学校

1. 机の中を空にする。
2. 筆箱を机の上に出さない。
3. カバンはしっかり閉め、ロッカーにしまう。
4. 下敷きは使わない。使いたい場合は、試験監督の先生に許可を得る。
5. テスト用紙を配付したら、話をしない。
6. 物を落とした時や質問がある場合は、静かに手を挙げる。

2つの強化月間

◆あいつつ運動

新しい1年間のスタートとなる4月と5月は「あいつつ運動」に力を入れています。新校舎の建築に伴い、全校生徒が同じ玄関を使うようになりました。以前にも増して、あいつつ運動がさわやかに展開されています。

◆いじめ防止活動

群馬県内すべての小・中学校、高校で、児童生徒主体のいじめ防止活動(沼田)は5月13日から6月14日が強化月間(沼田)に取り組んでいます。いじめについて本気で考えるアンケート、のぼり旗を用いた啓発など、さまざまな活動を展開中です。詳細は次号で紹介します。

お知らせ

●夏服

5月後半になり、「衣替え」の季節が近づいてきました。今年度は6月3日(月)です。男子はYシャツ、女子は白いセーラー服と、さわやかな装いになります。そこで、5月27日(月)からの1週間を移行期間としますので、夏服の準備をお願いします。

●学校指定トレーナー

2・3年生が着ている紺色のトレーナーは、10月から5月までが着用期間です。したがって、5月31日(金)までとなります。トレーナーの移行期間はありませんので注意してください。



あいつつ運動推進月間

☆あいつつに関するエピソード①

近くに兄弟がいた。兄は勉強ができる。「あいつつ」という漢字を書かせたら「挨拶」と書けるが、近所の人には挨拶したことはない。弟は勉強が苦手、「挨拶」という漢字は書けないが、隣近所の人にはきちんと挨拶する。両方できればいいことはないが、現在の学校の成績でいえば、兄のほうが上になる。しかし、弟のように実際に挨拶できることも学力であることは理解しておきたい。

家本芳郎「イラストでみる楽しい「授業」入門」(高文研)より

☆あいつつに関するエピソード②

4・5月は「あいつつ運動推進月間」です。玄関前で毎朝行う生活委員のあいつつ運動に加え、毎週水曜日はバスケットボール部員が参加しています。また、2学年は掲示物を作ったり、表彰制度を設けたりして、あいつつを誇りに思える学校が築かれています。

お詫びと訂正

前号(5月1日発行)の「お知らせ」欄に誤りがありました。ご迷惑をおかけしました。訂正をお願いします。

(誤) トイレや流しは、各学年のものを使用しない。

(正) トイレや流しは、各学年のものを使用する。

次号は、6月3日に発行します。主な内容は「いじめ対策」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

連日、全国でいじめによる教育問題が報じられています。とても残念なことです。また、今年になってからは、警察庁や教育委員会から通知が発出されたり、教育再生実行会議からも提言が発表されたりするなど、全国的にいじめ問題への対応が強化されています。

いじめ防止活動

今年度は、群馬県教育委員会の「いじめ問題対策推進事業」に伴い、県内すべての学校において、児童生徒による自主的ないじめ防止活動が展開されています。「オールぐんま」を合い言葉に展開される主な活動は、以下の通りです。

●群馬県教育委員会 主催

いじめ防止サミット 8月18日

各地区代表の小・中・高校生による情報交換、「いじめ防止宣言」の採択

いじめ防止ポスター・標語 9月

いじめについて考え、いじめを許さない気持ちや態度をまとめるポスター・標語づくり

●沼田市教育委員会 主催

いじめ防止子ども会議 12月2月

小・中学生の代表による各校の実践発表・話し合い

6月の生活目標

マラソン大会に全力で取り組もう

「学びの約束」を大切にし、読書に親しみ、授業や家庭学習を充実させよう

7月 30日

●利根沼田地区中高生徒指導 対策協議会 主催

いじめ防止フォーラム 7月11日

小・中・高校生による実践発表や情報交換、ピアサポート体験

いじめ防止啓発資料配布 10月

8月18日の「いじめ防止サミット」を受けて作成される啓発資料の配布

沼田中学校の取組

いじめ防止活動計画の作成 4月

生徒会活動(専門委員会を含む)の一端として取り組む一年間の活動計画の作成

春のいじめ防止強化月間 5月

いじめが発生しやすい5月に、アンケート結果を基にして、生徒自身がいじめを防ぐための活動を考え、行動目標を掲げて実践し、望ましい人間関係を形成

☆23万人アンケート①の実施

対象は生徒・保護者・教員・学校評議員



☆あざつ運動生活委員会を中心に、「のぼり旗」や「いじめ防止活動カード」を用いて、毎朝、玄関前で活動中

いじめ防止強化月間

群馬県教育委員会・沼田地区中高生徒指導対策協議会主催

夏のいじめ防止強化月間 12月

8月18日の「いじめ防止サミット」で採択された「いじめ防止宣言」を受け、創意工夫した取組を実施



☆23万人アンケート②の実施

☆道徳や学級活動の授業

☆人権週間の取組

生徒会による振り返り 3月

自分たちの取組を振り返り、今後いじめのない楽しい学級、学校をつくっていかこうとする意欲や態度の育成

いじめ調査 毎月第三火曜日

いじめ調査用紙を持ち帰り、自宅で記入して提出。読み物資料も添付し、未然防止を促進

教育相談日 毎月第三木曜日

いじめ調査を受け、担任をはじめとする相談体制の準備

沼田中学校では、個別の問題を迅速かつ適切に対処すること、生徒主体のいじめ防止活動、人・生命・人権を大切にすることを実践していきます。特に、今年度は全県一斉に行われる「いじめ防止活動」を通して、生徒自身が生活の中で、いじめについて本気で考え、具体的に問い、意識を変え、行動力へとつながる粘り強い取組を展開していきたいと考えています。

生物は戦って「居場所」を決めない

最近、全国各地の動物園で、ソウとペリカン、キリンとホロホロチョウなど、異種の動物を同居させる「共生展示」の手法が取り入れられています。入園者数が日本一の旭川動物園(北海道)の前園長である小菅正夫さんの話に、次のようなエピソードがありました。



自然界では、動物園のように、一種類の動物だけで生きているものはいない。何かしらほかの動物と共存している。一種類だけで固まって生きるといふような、変わったことをしているのは、人間くらいだ。だからいろんなひずみが出る。

生物は、戦って戦って居場所を決めるのではなく、自ずからあるようにある。これこそが自然なのだ。



「緊張のなかの調和」とでも言うんですかね。いろんな種が混じり合って生きている。そのなかで動物たちはお互いに何らかの刺激を受けている。

私たち人間も生物です。いじめたり、戦ったりする必要はありません。

いじめをしない
いじめをさせない
いじめを見て見ぬふりをしない

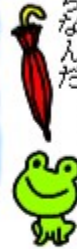
保護者や地域の方々とも連携し、生徒会や生活委員会、学級活動委員会など、生徒を主体とした取組で、いじめを許さない学級・学年・学校づくりを目指します。

次号は、6月17日に発行します。主な内容は「聞く・聴く」二旅行」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

今年「空梅雨」で、水不足が心配されています。しかし、明日から旅立つ3年生や、19日(水)に東京へ出かける1・2年生にとっては、雨が降ることを嫌っているかもしれない。そこで、元高崎女子高校校長の大木隆明先生の『白鳥のうた』校長の答案より、修学旅行と雨にちなんで、お話を紹介します。



花を咲かせる雨

修学旅行中、班別行動の日、夕方五時になっても帰ってこない班があった。先生方がホテルの前で心配顔で待っていると、息を弾ませ、額に汗した生徒の一回が走ってきた。ロビーで学年主任・担任が厳しく事情を聴取しているのを、私は生徒の後ろで聞いていた。洪滞に巻き込まれ、思うように行動ができなかったという。

「そういうときは、どこかをカットするんだ! したのか!」
「はい」恥ずかしそうに小さな声で答えた。



「どこをカットしたんだ!」私はびっくり、計画した見学箇所のひとつひとつをカットしたのだと思った。ところが、意外な言葉が返ってきた。

「昼食をカットしました」私は、とっさに学年主任に指を丸めて○のサインを出し、許してやるよう目で合図をした。

今回の修学旅行は、始めの二日間は雨にたたられ、みんな雨を恨んでいたようだった。しかし、雨だったからこ

そ発見できなかったともあった。

二年生の諸君は、奈良のTホテルに泊まった翌日、びしょ濡れだった靴や傘が見事に乾いていたのに気づいただろうか。あれは、朝までに自然に乾いたのではない。従業員の方々が諸君の濡れた靴や傘を、ひとつひとつ丁寧にタオルで拭いてくれたのである。先生方が夜、打合せのためロビーに降りたとき、偶然目撃したのだそう。諸君のお母さんかおばあちゃんくらいの方々が、一本ずつ、一足ずつ、心を込めて拭いてくれたのだ。私たちの学校が、毎年、このTホテルを利用させていただいている理由のひとつがわかった気がした。

私にもあった。昨年、「どうしても大和柿が食べたいんですが、近くに売っている店はありませんか」とホテルの人に尋ね、百メートルも下の店で買いに行った。



今年、私が部屋に入ると、テーブルの上に柿とナイフが揃えて置いてあるではないか。それこそ毎日、全国から修学旅行生が入れ代わり立ち代わり来るホテルである。一年前の私が柿が好きだなんてことを、普通なら覚えてはさすがない。この心づかいの細やかさに、Tホテルの経営の原点を見た。諸君はTホテルという、「義経鍋がおいしかった」というかも知れない。確かに義経鍋はおいしかった。でも、私は生徒諸君には、鍋よりももっともっと心の中まで温かくしてくれた、従業員の皆さんの心づかいをいつまでも忘れないでほしいと願っている。

「雨には、花を散らす雨と花を咲かせる雨がある」
今度の修学旅行で私は、「花を咲かせる雨」に出会えたと思っている。

聞く・聴く

相手に自分の思いがうまく伝わらずに苦労したという経験は、誰もがあろう。一方、私たちは相手の話をするのと同じように聞き、相手の気持ちや意図を汲み取っているでしょうか。今号では、「ニューモラル」第52号(モラル研究所)を参考に、相手の話を「聴く」ということについて考えます。

自分から一方的に話したことに対して、相手が表示して反発しなかったとしても、心の中で納得していないこともあります。その会話の目的が、互いの思いを理解し合ったり、情報を共有することにあるならば、私たちはもっと「聴く」ということに注目する必要があるのではないのでしょうか。

「耳は二つ、口は一つ。だから、自分が話す二倍は相手の話を聴きなさい」ともいわれています。これは、よい人間関係を築くためには、話すことよりも聴くことが大切であることを示したものです。それでは、私たちは相手の話を聴く際に、どのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。例えば、次のようなことが挙げられます。

相手としっかり向き合う
相手の目をじっと見て聴く
うなずきながら聴く
相づちを打ちながら聴く



「傾聴」という言葉があるように、相手の話を熱心に聞こうとするときは、相手のほうに目や体を傾けるものでしょう。また、「うなずき」や「相づち」は、話し手に対する「あなたの話をしっかりと聞いていますよ」というメッセージになります。相手が自分のほうに体を向けて、

じっと目を見て聴いてくれたら、「ああ、この人は私の話を一所懸命に聴いてくれている」と思うことでしょう。反対に、何か特別なことをしながら、体をよそに向けて、キョロキョロしながら聞いていけば、話している人に「この人は私の話を聞く気がない」という印象を与えるでしょう。

「聞く」とは、耳で音や声を感じ取ることで、聞こえるという意味です。一方、「聴く」は、注意して耳を傾けることで、「受け入れる」「ゆるす」「したがう」という意味もあります。相手が何を言おうとしているのか、その心に寄り添って聴くことは、相手を許し、受け入れることにつながるでしょう。

相手を受け入れるためには、まずこちらの心が開かれていなければなりません。(中略)こちらが心を開いて「何を話しても大丈夫ですよ」という態度を相手に示すことができたとき、初めて相手の言うことを受け入れる準備が整ったといえるのではないのでしょうか。また、心にゆとりを持って聴くことは、相手に対する寛容さや優しさの表れであるといえます。

時を守り 礼を正す



今年の上半期が終わろうとしています。また、1学期もまどめの時期を迎えました。そこで、もう一度襟を正して気を引き締め、「時を守り」「心を込めて掃除に取り組む」「あいさつ・礼儀を大切にすること」など、当たり前のことを見直してみましよう。

次号は、7月1日に発行します。主な内容は「あきどめ強い強さ」などです。

少年の夢をとめらの希望

あきらめない強さ

「行列のできる法律相談所」や「情報ライヴ ミヤネ屋」などのテレビ番組に出演している弁護士住田裕子さんのインタビュー記事が、『ブレジデントファミリー(特別版)』に掲載されていました。住田さんは東京大学を卒業し、司法試験に合格して長く検事を務め、40代で弁護士に転身するなど、華々しく活躍されています。しかし、決して順風満帆の人生ではなく、「私の今は、たくさん挫折と失敗の上にある」とおっしゃっています。そこで、「挫折を克服できたのは真摯に自分と向き合ったからだ」と語る住田弁護士の言葉を紹介します。

★壁に突き当たっても「あきらめない強さ」が大切。
★自分はいこうなりたい、こうでありたいと一途に思っても、それが必ずしも叶うとは限りません。
しかし、あきらめてしまえば、道が拓ける余地はゼロ。今はうまくできなかったとしても、あきらめなければ可能性は残ります。

「あきらめない強さ」が、今の若い世代に欠けている、加えて恥をかくのを嫌がる若い人が多いのが気になる」と言います。
「失敗をしたくない、みっともない姿は他人に見せられない。若い世代の人には、何でもそつなくスマートにこなすことが大事だ」という意識が強い

すね、特に高学歴の優等生タイプに、その傾向が強く見られます」

この「そつなくスマート派」の人たちは、社会性がなく、対人関係能力、つまり他人と折り合いをつけながら物事を進めていく力が低く、ストレスに弱い、その理由は人に揉まれる経験が少ないからではないかと、住田さんは分析しています。

さらに、「対人関係能力の低い人は、共感性が低いと言われます。共感性とは、他者の心の痛みや喜びを、わがことのように思える感性、相手の気持ちを感じてやる力です。私は、この共感性が生きるうえでとても大切だと思っています」と述べています。

挫折を味わったことがなく、順風満帆で生きてきた人は、他者の心の痛みがわかりません。
★例えば同じようなネガティブな体験をした人同士は、互いの心の痛みを理解できますね。それは、自分の弱さを知っているからわかるんです。

自分の弱さを認められない人は、他者の弱さ、心の痛みに対しても鈍感です。しかし、自分が挫折しているとき、気持ちが落ち込んだ状態にあるときは、他者の痛みはわかりません。自分のことで精一杯で、人の気持ちにまで思いが及ばないからです。

自分の弱さを自覚して、それを何とか乗り越えようと一歩を踏み出したときには、心にゆとりができ、他者の痛みと共に共感を寄せられるようになるのです。住田さんは、続けてこう語ります。

★苦しいのは私だけじゃない。皆で支え合っ
てこれを克服しよう。「二人で」ではなく「一緒に」考えよう、助け合おうとする前向きな姿勢が社会性です。つまり、失敗や挫折は、社会性を育む糧なんです。

7月の生活目標 お互いを磨き合ひ、高め合ひ、沼中力を発揮しよう

若い頃の失敗は財産です。住田さん自身も若いころに味わった挫折感を振り返り、「あの経験があったから、今の自分がある」と思えた瞬間があったそうです。だから「失敗を恐れないで」と訴えるのかもしれない。

★自分の弱さを知る人のほうが、他人に対して優しくなれます。それは社会で生きていくうえで大きな力になります。

また、詩人であり書家でもある相田みつをさんは、『にんげんだもの』(文化出版局)の中で、次のように述べています。
★現代っ子にとって一番弱いところはどこか？ 負けに耐える心、恥に堪える心、カッコ悪さに堪える心です。

さらに、次のような考えもまとめています。
★ラクしてカッコいいこと、つまり、勝つことばかり考えて、過保護に育てられた子供は、その分だけ「いのちの根」が浅く、親亡き後の本人の負担が大きいことを知るべきです。

中体連総体が近づいてきました。勝負の夏です。苦しいのは自分だけではありません。失敗を恐れず、あきらめずに、みんなを支え合い、助け合っ
て、みんなが支え合ひ、助け合っ
て、困難を乗り越えましょう。今こそ「沼中力」を集結するときだと考えます。
人生におけるどんな波風、どんな屈辱にも堪えて、真っ直ぐに自分の道を歩いていけるような、しっかりした心を磨きましよう。そして、たくましく、粘り強く、人生を生き抜いていく力と知恵を育てていってください。

元氣と希望がわいてくる 魂の力とは

市中体連総体を目前に控えるみなさんに、『心に響く100の言葉』(PHPスペシャル2013年5月号)より、一流アスリートの考えを紹介します。強い身体づくりと同時に、熱く燃える心も鍛えましよう。

泳心 一路 古橋慶之進

戦争が終わって、再び水泳ができるようになった時、「魚になるまで泳ごう」と思った。私の目標は世界一になることだった。だから人の何倍もの練習を苦しいとも思わなかった。

人間というものは、大きな目標をもって一筋に努力し、工夫し、苦しみにも耐えてこそ、大きく成長していきけるものだと思う。私は水泳から多くのことを学んだ。

洗心 長嶋茂雄(野球)

多くの青春時代はユニホームを着て「勝った、負けた」の明け暮れだった。「自分のバットで勝ちたい」という思いを込めるためにはがむしゃらに練習するしかない。

しかし勝負だからわかる結果もある。よく「長嶋は気分転換がうまい」といわれたが、こんなときは夢中でバットを振り、悔しさを吹き飛ばしていたのだ。

勝負に限らず、事に臨むときはフレッシュな気持ちが必要である。



次号は、7月18日に発行します。主な内容は「評価」「夏休みの過ごし方」です。

少年の夢をとめらの希望

桜咲く4月に始まった1学期も、いよいよ明日が最終日です。7日間の学校生活は充実していましたが、「評価」や「反省」という観点から1学期を振り返ってみましょう。

1学期を振り返って①

評価

他人から評価されたり認められたりすると、それが励みとなり、期待に応えようと、よりいっそう懸命に取り組みようになる。人間とはそのようなものである。

だが、時にその評価や期待が大きすぎて、「自分にそんな力はないのに」「買いかぶられても困る」と、負担になることもあるし、自分の思っている以上に低く見られて、不満を感じ、やる気がそがれてしまうこともある。

このようにとかく他人の評価に左右されるのも、お互い人間の一面といえよう。しかし、常に正当な評価が得られるとは限らない。それによって自身の取り組みに躊躇が生じたり、努力をやめてしまったりは結局、自分の損である。

だから、過大な期待を受けても重圧に押しつぶされず、それに添うべく全身全霊を傾ける。また、低い評価を受けても投げやりになるのではなく、やるべきことに真摯に取り組み続ける。そうしてこそ真の実力がつき、周囲の目も変わってくるのである。

過大評価も過小評価も前向きに受けとめ、自らの成長の資としたい。

【P.H.I.D】2013年7月号より



1学期を振り返って②

反省が生み出す明日へのエネルギー

反省とは、後悔のような後ろ向きな心づかいとは異なります。それは私たちの心を明るく希望で満たし、強くて活力のあるものにする、前向きなエネルギーを生み出すものです。

また、反省は、悪いことが起きたときだけにするものではありません。順風満帆なときに自分自身の心づかいを振り返ることも、大切な反省といえるでしょう。

私たちは日々、もっと深く自分の心を見つめる習慣を持ち、一日一日の反省を心に刻んで、明日へのエネルギーを培っていききたいものです。

小中連携 あいさつ運動

よりよい人間関係づくり、いじめ防止、中1ギャップの解消などを目的に、6月末から沼中学校区内の小中学校が連携し、朝のあいさつ運動に取り組んでいます。



毎週月曜日には東小、水曜日には北小へと、生活委員や部活動の有志が出かけて、小学生と明るく、爽やかにあいさつを交わしています。美しい朝の光景です。

夏休みの生活

「保護者の皆様へ～夏休みの生活～」を用いて、夏休み中の生活について確認しました。目標をもって過ごし、きまりやマナーを守って、規則正しく、充実した生活を送りましょう。

●生活習慣の確立

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣化し、健康的な生活を送る。
- ・家庭や地域において、積極的なあいさつを行う。
- ・家庭内での役割について自覚を深め、自己有用感を高めたり、家族とのふれあいを多くとったりする。

●計画的な学習

- ・毎日、時間を決めて勉強する。 ※なるべく涼しい時間が望ましい。
- ・課題は早い時期に仕上げ、不得意教科の復習など自主学習に取り組めるようにする。

●安全な生活

- ・交通ルールを守る(道路の横断、自転車の乗り方に注意する)。
- ・小中学校などの敷地内における花火は禁止する。
- ・外出するときは、《行き先》《目的》《誰と》《帰宅時間》などを、家族に知らせておく。
- ・友人宅への外泊は禁止する。
- ・午後7時には帰宅するよう心がける。沼田祭り期間中は午後9時を原則とする。
※群馬県青少年保護育成条例により、午後10時以降の外泊は補導の対象になる。

●保健衛生

- ・暴飲暴食を避け、寝冷えに注意する。睡眠や水分を適切にとり、暑さに負けない体をつくる。

次号は、7月26日に発行します。主な内容は「熱中症対策」「情報モラル」です。



少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

19日は、利根教育事務所の先生方を講師に迎えて、情報モラル講座を開催しました。パソコンやゲーム機を介したネットトラブルをはじめ、便利さの影に潜むたくさん危険性についてもお話を伺うことができました。

ところで、あるテレビ番組で、全米で話題になっている「スマホ18の約束」というエピソードが紹介されていました。スマホ(Phone)を欲しがるとして、母親がクリスマスプレゼントとして買いつける際の約束だったそうです。以下に全文を紹介いたします。

親子で考える

情報モラル



グレゴリーへ

メリークリスマス！ あなたは今日からPhoneの所有権を持つことができます。やったね！ 責任感のあるお利口な13歳なので、このプレゼントはあなたに相応しい。しかし、このプレゼントを受理すると同時にルールや規則が付いてきます。以下の使用契約をゆくり読んでください。私の親としての仕事もわかってほしい。あなたを健康で豊かな人間性をもった、現代のテクノロジをうまく活用していただける大人に育てなければならぬということ。以下の規則を守ることができなかった場合、あなたのPhone所有権もなくなります。

あなたが大好きでたまりません。あなたと何百万個ものメッセージ交換をするのが楽しみです。



- 1 これはママのスマートフォンです。ママが買って、あなたに貸しているのよ。だからママの言うことをよく聞きなさいね。
- 2 パスワードは必ずママに教えてね。電話が鳴ったら必ず出ること。画面に「ママ」や「パパ」と出ても、絶対に無視しないで、きちんと「ハロー」と応えてね。
- 3 電源を入れるのは朝7時半から。夜は学校がある日は7時半に、週末は9時になったら、電源を切って電話を返してね。
- 4 電源を切つていくのは禁止。学校に持っていくのは禁止。友達とは面と向かつて会話をしなさい。トイレや地面に落として壊したり、電気をなくしてしまつたら、責任をもって自分のお金で修理・弁償すること。お金が必要になるから、草むしりや赤ちゃんのおもちゃをして、お小遣いを貯めておくのよ。
- 5 これで人をだましたり、ばかにしたりするのは禁止。常にいい子で、誰かを傷つけるような会話には入らないこと。面と向かつて言えないことは、これでメールをしてもダメ。
- 6 相手の親に言えないようなことは、メールをしてはダメ。自分自身で厳しくチェックすること。
- 7 ボルノは禁止。インターネットではママと一緒に見られるようなものを見てね。何か知りたいことがあったら、人に聞くこと。できればママかパパに聞いてね。
- 8 公共の場では電源を切るか、マナーモードに。特に、レストランや映画館では。あなたは礼儀正しい子よ。iPhoneを持つことで変わらないでね。



- 9 体の大事なところの写真を送ったり、受け取ったりしてはダメ。笑わないで。もしかしらたらそうしたくなるときが来るかもしれないわ。でもそれは、あなたのこれからの生活を台無しにしてしまう行為なの。ネットの世界は、とても巨大であなたよりも強力な力をもっている。噂や風評でさえ、簡単に消すことができないわ。
- 10 写真やビデオはたくさん撮らないこと。すべてを記録する必要はないの。それよりも経験を大切に。それはあなたの記憶に永遠に残るものなのよ。
- 11 その選択は正しいと自分を信じていいのよ。電話は生き物でもないし、あなたの一部でもない。携帯なしで生活することが大事。なくなるのを恐れないで。最新曲やクラシックなど、たくさん音楽をダウンロードして、同じものをずっと聴くより、さまざまな音楽を聴いて。あなたの世代は歴史上で最も音楽にふれることができる世代。その恩恵を受けて、世界を広げてね。
- 12 ゲームは言葉遊びやパズル、脳トレをやりなさい。
- 13 常に上を向いていること。周りの出来事を目を向けること。窓の外を見ること。鳥の声を聞くこと。外を歩くこと。知らない人とも話をすること。Googleで検索しないで感動できることを探しなさい。
- 14 約束を破つたら携帯電話を取り上げます。そしてそれについて話し合い、一からやり直しましょう。ママはあなたのチームの一員。一緒に学んでいきましょう。



この条件を合意してくれることを願っているよ。ここにリストしてあるほとんどの条件は、人生をうまく生きるための条件にもあてはまるものだから。あなたは常に激変していく世の中で成長しています。とてもエキサイティングで気を引く体験だと思つて。できるだけシンプルに物事を考えていってください。どんな機械やガジェットよりも自分のパワフルな考え方と大きな心を信じてください。あなたが大好きなのよ。あなたのすばらしいPhoneを楽しんでね。

母より

1学期の最終日に「ネット社会の光と陰」「私の宣言書」という資料を配付し、家庭におけるネット環境のルールづくりを呼びかけています。生徒の健全育成大切に考え、ご協力よろしくお願ひします。

夏の暑さを付けさてに

厳しい暑さ、総体前の強化練習などを考慮し、7月上旬から2学期にかけて、次のような対策を行っています。

★体育着下校

期間 7月2日(火)～9月14日(土)

※登校は通学服。

※学校指定のTシャツか、県総体出場者に配付されるTシャツのみ可。

★水筒持参

期間 7月3日(水)～9月30日(月)

※形状は水筒(ペットボトル不可)。

※中身は、「水・お茶・スポーツドリンク」。詰め替え用の粉末は不可。

次号は、8月26日に発行します。主な内容は「いじめ問題対策」などです。

少年の夢 をとめらの希望

生徒指導委員会発行

くんまの学校から 沼中から



今年度、群馬県では、児童生徒の自主的ないじめ防止活動を支援し、いじめのない学校づくりが進められています。一年間の活動の主な流れは、次の通りです。

- 4月 学校ごとに「いじめ防止活動計画」を作成
- 5月 春の「いじめ防止強化月間」いじめについて考える
23万人アンケートの結果をふまえた話し合い
- 7月 利根沼田地区の「いじめ防止フォーラム」に参加
- 8月 「いじめサミット」「いじめ防止宣言」を採択
- 9月 「いじめ防止宣言」の活用
- 12月 冬の「いじめ防止強化月間」
- 2月 沼田市教育委員会主催の「いじめ防止子ども会議」に参加
- 3月 一年間の活動の振り返り

いじめサミット

8月18日(日)、県内の小学生、中学生、高校生の代表12名が、前橋市の群馬会館や群馬県庁に集まって、いじめ根絶に向けた子ども主体の協議(話し合い)を行いました。

沼中からも生活委員長の佐藤愛さん(3年)が出席し、7月に開かれた「いじめ防止フォーラム」や沼中の取組を紹介したり、「いじめをなくすために、わたしたちができることを考えよう」というテーマに基づく話し合いに参加したりしました(利根沼田地区からは、沼中の他に、沼北小、片品小、昭和南小、川場中、水上中、利根商業高校から代表1名が参加)。



なお、39名が集う中学生分科会は、6班に分かれて意見を出し合い、勇気、環境、協力、コミュニケーション、自主、尊重などのキーワードで考えをまとめ、発表し合いました。

この活動は、群馬テレビや複数の新聞でも紹介され、翌日の上毛新聞には、実行委員長(前橋商業高校2年生)による「子どもと大人では視点が違い、いじめについては子どもにしか分からないこともある。それを宣言として示せたのは大きな成果だと思う」といったコメントが掲載されています。下段に全文を紹介いたします。



いじめ防止宣言
わたしたちは、困っている人がいたら、自分のこととして考え、進んで行動します。

いじめ防止宣言

8月の生活目標
クラス一丸となり、運動会に向けて頑張ろう

群馬県人権擁護委員連合会より

【前文】

私たちは、いじめは必ずなくすことができる信じ、いじめの問題から目を背けずに、私たち自身の問題として考えます。

そして、笑顔にあふれた学校生活のために、自分から行動を起こすことを約束し、ここにいじめ防止を宣言します。

【宣言文】

勇気

わたしたちは、困っている人がいたら、自分のこととして考え、進んで行動します。

思いやり

わたしたちは、相手のことを思い、お互いを大切にします。

協力

わたしたちは、周りの人とよい関係をづくり、何事にも全員で取り組めます。



グループの代表として意見を発表する佐藤愛さん



いじめ問題に関するメッセージ

すべての人が幸せな人生を送りたいと望んでいます。ですから、幸せな人生を送るための様々な努力を続けるのです。幸せに生きるための「条件」を積み上げていくといってもいいでしょう。

いじめは、幸せに生きるための条件でしょうか? 間違いない「不幸を作る条件」です。いじめられた人はもちろん、実は、いじめた人も不幸な人生を送ることになるといえることを知ってください。

生徒・保護者の皆さん、「いじめがある」事実はいまでもなく、「いじめがあるかもしれない」という情報を、先生にはもちろん、私たち人権擁護委員にも伝えてください。見て見ぬふりはしないで、迷ったら先ず「子どもの人権110番」に電話してほしいのです。私たちは、いじめを無くすためなら出来る限りのことをする決意をもって活動しています。

生徒の皆さん、いじめは不幸の原因です。絶対にやめましょう。保護者の皆さん、他人事と思わず、子どもたちを幸せにするためにいじめのない社会づくりにご協力頂きたい、お願い申し上げます。

次号は、9月22日に発行します。主な内容は「運動会の取組」などです。

少年の夢をとめらの希望

運動会を前に:

団結とは何か

夏休み明けから、本格的に運動会の練習が始まりました。今年は14日(土)に開催されるため、当日まで約2週間となりました。

既に、クラスや学年で協力的に練習する姿が見られますが、より一層団結して取り組むために、洪川市立洪川中学校の学校文集「大石」(2000年35号)より、生徒が書いた作文の一部を紹介いたします。過去の体育大会で優勝したクラスに所属していた生徒の作文から学びましょう。そして、運動会への参加意欲を高め、沼中力を結集して運動会を成功させましょう。



チームワークは勝利のもと

今日はとても寒い日でした。でも心は熱く燃えています。午前の部は個人の競技でした。一人ひとりを発揮しましたが最下位でした。午後の部に入りましたが、全員リレーになりました。わたしたちのクラスは、こまのお戦法でした。こまのお戦法とは、男女交互に走り、前後に足の速い人を入れるという戦法です。そしてリレーが始まりました。しかし、こまのお戦法は通用せず、最初の方はずっとビリでした。ところが、中間になると他のクラスは女子が集まっていたので、問の男子が



次々と抜かしていき、気が付くと一位になっていました。「あーすごい三組一位だ」とみんな大喜びして、跳びはねていました。そしてそのまま後半の速い人たちになり、余裕でゴールしました。ゴールしたときはすごく感動しました。次の四百mリレーと八百mリレーも、その調子で男女とも断トツで一位でした。そして、結果発表となりました。午後の部でふんばりを見せ、堂々の一位に輝きました。三組ほどのクラスよりもチームワークがあると、体育大会を通して実感できました。最後に全員で、(中略)苦労して作った旗をバックに、写真をとりました。中学校生活最後の体育大会は、思いに残る結果となりました。

WE ARE WINNERS

僕たち三年五組は体育大会で成績を問わず、とにかくがんばりぬこうと思っていました。でも内心「やっぱり優勝は無理だ」と思っていました。しかし、「今からあきらめてはいけない」とも思っていたので、種目練習の際は、みんなががんばり、励まし合いました。そして、本番へ向けて自分たちの実力に関係なくとにかくがんばりぬくこと、本番の結果がどうであれ、満足できるように練習をすることを第一に考えてがんばってきました。そして、当日各種目みんな一杯がんばっていました。それに付られてか、応援にも熱が入っていました。みんながんばりぬいてから数時間、いよいよ発表の時間が来ました。みんな静まりかえり、「優勝三年五組!」と聞いたとき、僕はすこく嬉しかったことを今もよく覚えています。

9月の生活目標

● クラス一丸となり、運動会に向けて頑張ろう
● 「学びの約束」を大切に、読書に親しみ、授業や家庭学習を充実させよう

「絆」を深める言葉

「1月間生徒指導」(2013年9月号)に掲載されていた記事(昭山秀一敬論・北海道千歳市立青葉中学校)によると、絆を深めるためには、「7つの言葉」が有効だそうです。

- ①感謝の気持ち (ありがとう、うれしい)
- ②お詫びの気持ち (すみません、失礼しました)
- ③信頼を伝える言葉 (信じているよ、任せよう)
- ④成長を実感させる言葉 (伸びたね、上進しているよ)
- ⑤貢献を伝える言葉 (助かっているよ、おかげさま)
- ⑥期待を寄せる言葉 (楽しみだね、応援しています)
- ⑦励ましの言葉 (今度頑張ろう、元気を出して)

体育大会を終えて

僕たち三年二組にとって絶対に負けられない体育大会でした。なぜならば体育大会、合唱祭をすべて優勝して二冠をとることがクラスの目標だったからです。そして、いよいよ。午前の部は、みんな一人ひとりの持っている力を十分に発揮し一位でした。午後の部は、三種目とも全てリレーということもあって、今まで以上に応援が盛り上がってきました。その中で全員リレーは、担任の先生が陸上専門ということもあって、順番としてバトンを重点に練習したので自信があります。そして、三種目とも一位をとることができました。全種目が終わったとき、だれもがとても満足した顔をしていました。そして閉会式。一年生...二年生...みんな緊張が高まります。三年生、優勝「三年二組」。みんなのうれしさが爆発しました。中学校生活最後の体育大会を優勝で飾れてとても嬉しかったです。次は合唱祭で優勝して二冠を達成したいです。

「絆」が深まり、メンバーにとってグループやチームが安心できる場になっていくと、お互いの意見に対して真剣に耳を傾け、自由で建設的な意見交換ができるようになっていきます。そうなる、回結力も高まり、さまざまなお互い効果が生まれます。運動会を通して深まる絆を実感してください。

次号は、9月20日に発行します。主な内容は「情報モラル」「規範意識」などです。

少年の夢をとめらの希望

8月27日付の上毛新聞に、次のような記事が掲載されていました。規範意識や情報モラルについて考えられる、よき資料です。学級や家庭で話題に取り上げてみてください。

皆がやっているから

『ことわざの知恵』(岩波書店辞典編集部編)に、「ことわざと呼ぶには少々違和感のある言葉が一つ収録されている。「赤信号皆で渡れば怖くない」。ご存じ、ビートたけしさんの創作である▼疑問に思う読者を予想したので前向きして(ある種の共感やインパクトをもって短い期間にわたって広がるのも、ことわざの一つの在り方)と説明している▼皆がやっているから怖くない!と思ったのかどうか。若者らによる短文投稿サイト「ツイッター」への悪ふざけ画像投稿が止まらない。コンビニや飲食店などで冷凍庫に入ったり、店の食材で遊んだり:▼先日は前橋でも客の専門学科生がスパーのアイスクリーム用冷凍庫に入り、その画像を投稿。店はアイス類を新しい商品と入れ替えた。一連の投稿騒ぎでは閉店、休業した店もあり、冗談では済まされない▼地下鉄駅で線路に下りたり、パトカーの上で遊ぶ画像も投稿された。騒動になっているのに、悪行が繰り返されるのはどういふことだ。パトカーの件は逮捕者も出ている▼投稿者

は皆、分別ある年齢であるように、仲間の遊びとして社会的な影響を考えなかったとしたら、あまりに想像力に欠けていないか。社会規範などという難しい言葉は使えない。赤信号を渡ってはいけないことは、園児でも分かる。

夏休み中も、全国各地でツイッターやLINEなどによるトラブルについて、毎日のように報道されています。技術科や道徳の時間の学び、1学期末の情報モラル講習会、生徒指導通信第10号(7月26日発行)などを参考に、もう一度ネットとの関わり方を考えていきましょう。

●下校時の服装

7月2日から9月14日まで、体育着下校を許可していただきました。おかげさまで運動会も大成功に終わり、秋風を感じる季節になりましたので、予定通り、18日(水)より制服での下校に戻りました。

●水筒持参

熱中症対策としての水筒持参は9月30日(月)まで継続します。
※形状は水筒(ペットボトル不可)。
※中身は、「水・お茶・スポーツドリンク」。詰め替え用の粉末は不可。

●冬に備えて...

★夏服着用期間 9月30日まで
※移行期間 9月24日(火)から10月4日(金)まで
★トレーナー着用期間 10月1日(火)から

※1年生の購入希望者は準備を!

凡事徹底

ほんじつに

今夏の甲子園で優勝した前橋育英高校の横断幕には、「凡事徹底」という言葉が掲げられていました。その後、様々な場面で話題に取り上げられているようです。



「凡事徹底」。夏の甲子園に初出場し、全国制覇した前橋育英の荒井直樹監督の信条だ。実戦でのあらゆる場面を想定し、中身の濃い基本練習を繰り返す。ナインは大舞台で「攻撃的な守備」に象徴される体に染み込んだプレーを随所で発揮、栄冠をつかんだ▼毎朝の野球部寮周辺のごみ拾いも、その精神につながる。「ごみを拾う子は捨てる大人にはならない」。野球に打ち込める期間には短く、その後の長い人生で気配り、目配りのできる社会人に成長できるように人間形成にも重きを置く▼朝のごみ拾いは大阪城に近い宿舍周辺でも実践。吸い殻などが多くて驚いたという。決勝戦の翌日も最後の清掃活動を終えて帰郷した。

上毛新聞「三山春秋」2013.9.5

他にも、上毛新聞では前橋育英高校の「凡事徹底」を紹介しています。

毎朝、野球部寮生はビニール袋を片手に学校周辺に散らばっていく。もちろん、荒井監督も一緒だ。私語は厳禁。黙々と15分間歩く。ごみ拾いは荒井監督が就任した2002年からずっと続けている。

ごみが落ちていくことに気づくことと、投手の投球が微妙に変化している

ことに気づくことは似ていると荒井監督は言う。少しの変化も見逃さない、選手の洞察力はこうしたごみ拾いで養われている。 2013.9.4

1年生は入寮すると、まず基本的な生活習慣の指導を受ける。掃除や洗濯は自分で行う。甲子園の大会期間中も選手は練習着を自分で洗濯していた。投手の喜多川省吾は「寮でいつもやっている事なので、全然大変じゃないです」と笑っていた。

まるで群馬でプレーするように甲子園で伸び伸びと野球を楽しんだ前橋育英ナイン。常総学院戦で九回2死から追い付いた後の延長十回サヨナラ勝ち、決勝で3点を先行されながら逆転勝ちした勝負強さは、大舞台の地でも普段と変わらぬ生活を送った選手たちの平常心が呼び起こしたのだろう。 2013.9.4

また、スポーツ報知(2013.9.2)では、次のような記事が掲載されていました。

地元可愛される前橋育英を目指してきた。地元の自治会と協力し、ボランティア活動に参加。利根川沿いの花壇作りを手伝ったこともあった。毎週月曜日には、清掃活動にも参加。「そういう中で多くの人に応援にも来ていただくことができた。さまざまな力になった」と荒井監督は、群馬・前橋から届く声援を実感している。

前橋育英高校の活動から多くを学び、心を磨く集団に成長していきましょう。

次号は、10月1日に発行します。主な内容は「働くこと」などです。



生徒指導委員会発行

少年の夢をとめらの希望を「働く」ってどういふこと?



2・3日に2年生が職場体験学習を行います。地元の事業所で働く人々とふれあうことで、働くことや学ぶことの意義を理解し、生きることの尊さを実感することとされています。また、夢や将来について考え、進路を選択決定する意欲も高まることとされています。豊かな体験を重ね、社会の中で人の役に立つ人間へと成長していきましょう。

同世代の友人・知人の子どものさんが社会人になる年頃になった。

「働く」とはどういうことなのか、最近ちょっと気になり始めたのが、せっかく就職できたのに最初の職場を2、3年で辞め、とりあえずアルバイトをして働いている子がとても多いということだ。

「仕事が忙し過ぎて休みがない」「職場の人間関係が嫌で」「仕事がつくようになってきて」など、いろいろ理由はあるようだ。

生きるためにがむしやうらに働かなければならなかった祖父の世代や、働くことで豊かな生活を手に入れ、それが家族を守ることだと信じてきた親世代の価値観とは大きく何かが違う。

「しもやん」の愛称で、5000人以上の人たちに「一筆入魂」というメルマガを発信している下川浩二さんは、生活の糧を得るために働くことを「ライスワーク」と呼んでいる。

かつて、ほとんどの日本人の働き方は「ライスワーク」だった。しかし、21世紀になってもまだ「ライスワーク」の考え方で働いていると、前述したような理由で簡単に退職してしまう。

もしかしたら、今の学校教育の中で「働く」とはどういうことなのかという考え方が抜け落ちていないだろうか。

多摩大学教授、田坂広志さんの『仕事の思想』に、こんなエピソードがある。田坂さんには、ジャズをこよなく愛する友人がいた。学生時代は、「ジャズの道で生きていきたい」とまで思っていた。

しかし、卒業と同時に彼は商社に就職した。卒業式の後、彼は田坂さんこう話した。「これからは、会社で働く俺がジャズを愛するもう一人の俺を食わせていくんだ。食うための仕事と、やりがいのある趣味を区別し、仕事は趣味を支えるためがあると、彼は考えていた。

3年後、田坂さんは彼と再会した。ジャズの話と酒の肴に語り合った。別れ際に「仕事の調子はどうか？」と聞いた。彼は言った。「困ったことに仕事が目白になってきてしまった」

それから7年後、2人は再会した。彼は10年選手の商社マンになっていた。彼の口からこんな言葉が出てきた。「最近になってようやく仕事が見えてきた。やりたい仕事ができるようになった。」



あいさつを見直しましょう

- よき
 - ・登校時のあいさつの声が大きくなった。
 - ・生活委員会によるあいさつ運動が活発になった。
 - ・小中連携のあいさつ運動が始まった。

- 課題
 - ・職員室の入退室において、あいさつ(「失礼します」など)が形骸化してきた。
 - ・先輩にはあいさつをするが、来客や教職員にあいさつできない生徒がいる。
 - ・相手を敬う心が薄れた虚礼(形だけの礼儀や作法)になっている。

☆意識
「TPO」を考えた言動
T(Time とぎ)
P(Place ところ)
O(Occasion 場合)
「とき」「ところ」「場」を考えた言動をしっかりと身に付けていきましょう。

ってきた。酒を飲み交わす2人の間にジャズの話は出てこなかった。

さらに5年の歳月が流れた。中堅のビジネスマンになっていた彼が何気なくこう言った。「仕事って心を込めてやれば何でも面白いよ」

それからさらに10年が過ぎた。50の声を聞く年齢になっていた。田坂さんの目には、商社マンという仕事を天職のように思っている、脂の乗り切った旧友の姿が映った。

仕事をすれば必ず「報酬」がある。最初は給料だ。それを生活の糧にしていく。

しかし、「ライスワーク」が目的になっていたら、本当の仕事の喜びは見えない。

田坂さんの友人は「仕事が面白くなってきた」と話していた。下川さんはその段階を「ライクワーク」と呼んでいる。即ち、好きなことを仕事にできればいいが、それができなければ今の仕事を好きになることである。好きなことをやっていくとどんどん力が付いてくる。その時、仕事の報酬は「能力の向上」になる。



下川さん曰く、「ライフワークを極めていくと、多くの人に喜びを与え、社会に光を当てられるようになっていきます。その仕事を『ライフワーク』といいます」

私たちが到達すべき仕事とは、まさに「ライフワーク」なのではないか。田坂さんに言わせると、「その時の仕事の報酬は人間としての成長である」

今、若い子たちが親や祖父母世代とは違う働き方をしようとしている。なのに、「ライスワーク」から脱却する考え方がうまく伝えられていないように思う。

問題は仕事そのものではなく、仕事に対する考え方の違いである。

水谷謹人「みやさき中央新聞」
13年8月19日 219号

お知らせ

衣替え・水筒持参
10月1日(火)から衣替えです。トレーナーの着用と合わせ、身だしなみを意識して整えましょう。熱中症対策の水筒持参は9月末日までです。

次号は、10月16日に発行します。主要内容は「情報モラル」などです。



少年の夢 をとめらの希望

LINEの危険を意識し 情報モラルを向上させよう



若者たちの間で、LINE(ライン)のトラブルが増加しているそうです。各種メディアでも大きく取り上げられるようになり、9月24日(火)の上毛新聞には次のような記事が掲載されました。ちなみに、LINEとは、無料通信アプリのことです。電話一回線につき一つのIDが登録でき、国内で4500万人以上、世界で2億人以上が利用しています。個別にメッセージ交換や通話ができるほか、最大100人が参加できるグループ機能があるそうです。



無料通信アプリ「LINE(ライン)」が広まる中、中学生の間でLINEを使ったトラブルやいじめが目立っている。県総合教育センターのいじめ対策室にも「悪口を書き込まれた」などの相談が増加。7月には、広島県で高等専修学校の女子生徒がLINEのやりとりをきっかけに殺害される事件が発覚した。県教委や県警は講習を通して、児童生徒や教職員に携帯電話やインターネットの危険性を訴えるなどの対策に乗り出している。「クラスメイトからLINEに悪口を書き込まれた」「参加を強く求められた」。同センターの窓口には、中学生の保護者から相談が寄せられている。



仲が良かった友人とのトラブルが目立ち、突然中傷を受けるなど、はつきりしたきっかけが不明な場合も多い。その後に関係が修復できず、一時的に学校を休むケースもあるという。こうした相談は昨年度1件だったが、

本年度は6件と増加。昨年度に過去5年で最多だったいじめ全体の相談が本年度は減少する中、LINEによるトラブルの占める割合が高まっている。

広島県では少女らがLINEでつながり、ささいな悪口や言い合いから集団暴行に発展、女子生徒が殺害、山中に遺棄される事件が発生した。児童買春のきっかけに悪用される問題も起きており、運営会社は18歳未満の利用者のIDを検索できないようにするなど対策を検討している。

県警は学校に出向き、教職員や児童生徒にインターネットのトラブルやサイバー犯罪に関する事例を紹介し、対策について助言している。ネット上では面識のない人が連絡を取り合い、実際に会って犯罪に巻き込まれるケースが多いが、「LINEは顔見知り同士でトラブルが起きている。仲間だから安心とはいえない」と指摘。使い方に気をつけるよう強調している。

県教委も教職員を対象に携帯電話やネットのモラル講習を実施。各教職員が、携帯電話を子どもに持たせる保護者に安全な使い方を促すよう指導している。



県内の小中学校で啓発活動をしている「ぐんま子どもセーフネット活動委員会」の飯塚秀伯さんは、LINEはメッセージを読むと「既読」と相手に表示されたり、グループで行うことも多いため、返信せざるを得ない状況に追い込まれていると指摘。

①時間で特定のアプリを利用できない設定にする②食事中はメールや電話をしないなど親子でルールを決める③などを心掛け、「振り回されない力を子ども自身が持つことが必要だ」とアドバイスしている。

沼田中学校では、技術科の時間の学習に加え、道徳や学級活動での学び、講習会の開催などを通して、ネット世界に潜む危険性や情報モラルの向上を呼びかけています。

つきましては、今月の学年保護者会(1年:16日、2年:17日、3年:18日)、11月の三者面接でも話題に挙げながら、家庭でのルールづくりをお願いしてまいります。詳細は1学期末に配付した資料をご覧ください。

10月の生活目標

文化発表会・合唱コンクールを

一丸となつて成功させよう

次号は、11月1日に発行します。主な内容は「いじめ防止活動」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

6月21日に「いじめ防止対策推進法」が国会で制定され、公布は6月28日、その3カ月後から施行されました。

いじめについては、この法律の中で「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であつて、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。」と、第2条第1項で定められました。

そこで、沼田中学校としての基本方針づくり、道徳教育や体験的活動、啓発活動の充実、いじめ対策の組織づくり等については今後検討していきます。

いじめは昔からあったと言われており、事実、昨年度の道徳通信第2号(4月27日発行)でも紹介しましたが、会津藩校の「仕の掟」の中にも、「人をいじめてはなりません」とあります。

そこで、70年代の後半からは、6〜8年ごとにいじめが社会問題化し、その都度さまざまな取組が行われてきました。しかし、悲劇は繰り返されてきました。だからこそ、生徒が安心して過ごせる学校を目指し、学校、家庭、地域、国などが一体となって、いじめゼロを実現させていきたいと思います。

本校では、「いじめをしない、させない」意識と行動力を培うことを目標に、いじめ防止力の育成に力を注いでいます。その一環として、先月は「いじめ防止標語」を作りました。

左に紹介する「いじめ標語」は、道徳や学級活動の時間に作成したものを、生活委員会で審査し、各学級から優秀作品を1点ずつ、学校代表となる最優秀作品を1点選出しました。

いじめという大地に 勇気という名の花を咲かせよう	1-1 小林 桃花
勇気という種をまき 思いやりという水をあず 協力という肥料をあげれば いじめがなくなる 花が咲く	1-2 松井 美優
未来に届くその言葉 いじめをなくすその気持ち 勇気はきこく届くはず	1-3 金子 慶登
「やめようよ」その一言で 未来は変わる	1-4 平林 史
雨みたい 止まないいじめ いつももある 見えますか 笑顔の裏の 心の涙	2-1 星野 瑞樹
開き出そう その子がしまった 心の声	2-2 富樫 季実
考えて いじめのシステム シャットダウン	2-3 林 佳祐
いじめなし 笑顔あふれる 毎日へ	2-4 角田 俊樹
考えて 今してること いじめだよ	3-1 吉野 聖浩
いじめの時 家族の顔を思い出せ そしたら きつとやめられる	3-2 荒木 有冨
いじめなし あふれる笑顔 見たいから	3-3 角田 博昭
	3-4 小林美緒奈

また、校舎内の掲示板には、下記に紹介するポスターを貼り出しました。NHKからいただいたもので、いじめについて真剣に考え、いじめ防止を訴えるメッセージが込められています。「オール群馬」を合い言葉に盛り上がる活動、本校の取組は、「ぐんま広報」でも紹介される予定です。

いじめ、なにソレ?というほうへ。

NHKでは、この夏から「いじめを考えるキャンペーン」を推進していました。そこで、秋の特別番組の放映に合わせて、若手に人気のデザイナー・森本千絵さんが作成した大きなポスターが配付されました(特別教室等前の廊下に掲示しています)。

斬新なデザインですが、「子どもたちの目を引き、いじめについて立ち止まって考えてもらう」意図があるそうです。さらに、右図の大きな字には、いじめを止めようとする心=「羽」と、誰かをいじめたいと思う心=「どくろ」がのっています。ひとりの心には両方の気持ちが同居しているということを伝えています。左図には袋や仮面をかぶった子どもが描かれ、多くの中高生が教室では「キャラを演じている」「仮面をかぶっている」ことを表しています。



11月の生活目標
●「学びの約束」を大切にし、読書に親しみ、授業や家庭学習をより充実させよう

沼中の文化

沼中三大行事のトリを飾る文化発表会が本日、体育館で行われます。2週間前くらいから、自主的に朝や昼休み、放課後に集まって、一生懸命合唱練習に取り組み、さまざまなおもしろいパフォーマンスが聞かれています。

また、運動会の練習に励んでいた9月のいじめ、沼田東小学校の学習支援ボランティアさんにお世話になって、国語の時間に書き取り組みました。慣れない太筆を持って行書で書いた作品は、いただいたアドバイスのおかげで、今までもりもだいに上達しました。全校生徒の学習の成果をお確かめください。

なお、14日から19日まで、沼田中央公民館において、沼田市小中学校工芸術・書写展が開催されます。多くの生徒の作品が展示されますので、ご覧ください。

書写の指導をお世話になった

大竹 秀子さん

高橋 由美子さん



次号は、11月18日に発行します。主な内容は「進路(キャリア教育)」などです。

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

全国学力・学習状況調査の結果が発表され、新聞やテレビのニュースなどで連日報道されていました。学力向上は永遠のテーマですが、沼田中学校では、11月を「読書・家庭学習推進月間」と位置付け、さまざまな取組を強化しています。

読書・家庭学習推進月間

例えば、今月の特徴として、次のような予定が組まれています。

●三者面接

本人・保護者・担任が、授業や家庭学習に対する改善事項を話し合ったり、卒業後や将来の進路について相談したりしました。

●スペリングコンテスト(英語)

本日の1校時、市内の中学校では一斉に歴史と伝統のある沼田市スペリングコンテストを実施しています。

●期末テスト

月末の27日(水)、28日(木)の二日間、二学期の学習の成果を振り返る定期テストを予定しています。

●読書活動

各教科の学習に関連する図書の紹介、朝読書や学級文庫の充実などに焦点を当てて活発な読書活動を目指しています。

●読書(松下幸之助)

「本というのは人間の心を豊かにするわな。その本を読んで彼らが未来を夢見て、心を踊らせ、『ああ、僕も大きくなったぞ、こうなるぞ、ああなるぞ』と、そう考えさせてくれる」

生き方について考える(キャリア教育)

マナー・アップ

職員室や保健室の入退室について、マナーアップを呼びかけてきたところ、「失礼します」という声や、さりげない会釈が目に見えて向上してきました。左記の資料のように、礼儀やマナーについて意識していると、日常のさまざまな場面で、美しい瞬間に出会えます。社会性を成長させていきましょう。

●でも礼節

サッカーのテレビ中継を観ていると、試合中に交替する選手が、ピッチ(試合場の芝生の部分)にむかって一礼して退場するのに気がつく。

それまで走り回らせてくれた「場」と、ともに闘っていた敵・味方の選手たちに、お礼と敬意を表するためだろう(外国の選手は、芝生に手をふれてから胸で十字を切ったりする)。

デパートの店員さんも、売り場から従業員室に引きこむとき、ていねいにお辞儀をしてドアの中に消える。

そういえば、新幹線などの列車の車掌さんも、社内販売の人もそうだ。

そんな姿を目にするにつけ、いっどこでも礼節をもって行動したいと思う。

「PHP」平成25年11月号より

進路について考える(キャリア教育)

もうひとつの朝日

社会の一員として芽生える時期の中学生が、働くことや職業について考える、体験したりすることはとても価値があります。そこで、次に紹介する文章から、どのように働いているのかを知り、働くことの意義や重要性について考えましょう。

顔

相田みつを

仕事はなんでもいい
一生けんめいに
生きている人の
顔は
みんな美しい
美しい顔に
なりたいたい



だが明るくて素敵な笑顔と声を持っていた。彼女につられて、私も思わず笑顔で挨拶を返していた。

私は席に案内された。禁煙席の広いエリアは彼女の担当らしく、注文伺いから料理のあげさげまで、たった一人でテキパキと仕事をこなしていた。

私は彼女の仕事振りに目をうばわれてしまった。礼儀正しくきはきはとした物言い、笑顔を忘れず、テーブルからテーブルへと

きびきびと動き回り、働く喜びが全身に輝いているようにみえた。無表情にやってきた客たちが彼女に接したとたんに、幸せそうな笑顔をこぼし始める。明るく会話を交わし、楽しそうに注文のやりとりを始める。

そうさせることが彼女の仕事の大事なひとつには違いない。だがそれは演技として作りだされたものとは思えなかった。

仕事に誇りを持ち、店にきた客に気持ちよく朝食をとってもらうのが楽しくて仕方がないという思いが、自然にそうさせているようだった。客たちはそんな彼女に、くつろいで、気持ちよさそうに朝食をとり始める。

食べおわると、入ってきた時とは別人の明るい表情になって帰っていく。長野県茅野市の夢科へと向かう道にその店はある。彼女の胸の名札を見た。

「高畑」とあった。店の中にもうひとつの朝日が輝いていた。

『相田みつを×川上操「日めくり物語 三十の人生の二十の朝日」(小学館)』



次号は、12月2日に発行します。主な内容は「人権」「掃除」などです。

少年の夢をとめらの希望

平成25年12月2日
生徒指導委員会発行

「人権の世紀」といわれる21世紀に入って既に10年以上が経過しました。法務省の人権擁護機関が掲げる今年度の重点目標は、次の通りです。

「みんなで築こう人権の世紀
～考えよう 相手の気持ち
育てよう 思いやりの心～」

一人一人が人権を尊重することの重要性を正しく認識し、他人の人権にも十分配慮した行動をとることが大切です。相手の気持ちを考え、思いやることを心掛け、すべての人々が個人として尊重され、相互に共存し得る平和で豊かな社会を実現させましょう。

今年度の沼田中学校では、群馬県のいじめ防止活動と連動し、いじめ防止をテーマにした人権学習を展開していきます。

●いじめ防止標語の作成

※11月1日号で優秀作品を紹介

●いじめ防止ポスターの制作

※美術部が仕上げた

作品を下段に紹介。

●あいさつ運動の推進

※よりよい人間関係の構築
明るい学校づくり

また、4日の午後は集中的に学習を行い、下記のような学習活動を計画しています。



- 人権作文の発表
- 人権映画の視聴
- いじめ防止活動の紹介
- いじめ防止宣言の唱和
- 感想のまとめ



チューリップのうた

こんのとしひこ

咲いた 咲いた
チューリップの花が
ならんだ ならんだ
あかしろ きいろ
どの花みても きれいだな



大声で うたってみませんか
「どの花みても きれいだな」の一節に
このうたの作者の思いが
こめられています

赤 白 黄色 それぞれの美しさに
作者は 気づいています
考えてみてください

にんげんも ひふや目 髪の毛の色
いろいろですが

みかけのちがいを
のりこえて
同じにんげんとして
みとめあわねばなりません

チューリップのうたは
わたしたちに
こんなことを教えてくれています



『人権読本 じんげんの詩Ⅲ』(明石書店)

たんけん・はっけん・ほっとけん
—探検・発見・放置

こんのとしひこ

わたしたちのみじかに
人をばかにしたり
人を仲間はずれにしたり
人をいじめたりしていることはないか
「たんけん」してみませんか

ありますね

ばかにされ 仲間はずれにされ
いじめられている仲間
はいっていますね

そういうことを「はっけん」しましたね

いいのですか そういう仲間を
ほっといて・・・

いいえ「ほっとけん」ですよ

さあ さべつについて

「たんけん」しましょう

「はっけん」しましょう

きつと みなさんは
さべつを「ほっとけん」ことに
気づきます



『人権読本 じんげんの詩Ⅲ』より、
编者であるこんのとしひこさんの詩を
二編掲載しました。

幼い頃に歌った「チューリップのうた」も改めて読み直してみると、違いを認め、個性を尊重することの大切さを説いているように感じます。また、「たんけん・はっけん・ほっとけん」という詩は、いじめや差別、仲間はずれについて考え、改善を図るヒントを与えてくれています。人権意識を高める心構えとして活用してみてください。

いじめ防止活動



美術部員の共同制作によるポスターは、校内はもちろん、沼田東小や沼田北小にも掲示されています。また、今朝からは保護者も参加するあいさつ運動が始まりました。



次号は、12月24日に発行します。主な内容は「冬休みの過ごし方」などです。

12月の生活目標
●掃除の意義を考え、
効率よくきれいに清掃活動に取り組みよう

少年の夢をとめらの希望

本日、2学期の終業式を終え、明日から1月7日(火)までが冬休みです。冬休みはクリスマスやお正月などで生活のリズムが乱れ、さまざまに学習習慣が崩れがちです。そこで、目標や計画を立て、しっかりと心構えで生活を充実させましょう。

頑張れ 受験生!

塩崎 均
近畿大学学長

何のために勉強するのか?

高校までの私は何事にも消極的。当てられるのが嫌で教室では目立つようなことはしません。先生は「アイツは何を考えているのか分からない」と思っていたことでしょう。

そんな私でしたが、大学に入っていろいろな経験をするうちに前向きな人間に変わりました。

特に、合気道部への入部が大きな転換。それまで剣道を続けていましたが、経験者が多くて、対戦してもなかなか勝てません。そこで競技人口が少ない誰もやったことのないことをしようと思合気道部に入ったのです。向いていたのでしよう。一生懸命に取り組み練習を積み重ねるうちに実力が身に付き、二年生のときには主将を務めました。スポーツは苦手と勝手に決めつけていましたが、こんな可能性があったのかと自分自身驚きました。

「チャンスが無い」と嘆いている人に「人は必ず必要なときに必要なことや必要な人に出会う。出会ったら、必死に取り組み。そうすれば結果が出る。結果が出れば自信が生まれる」と励ましています。人は持って生まれた素質を変えることはできません。しかし、知識を身に付け、経験を積むことで自分を変えることはできるのです。これは勉強にも当てはまります。人は勉強することで、知識を身に付け、その知識によって正解を見つけ出す。正解の積み重ねが自信につながります。また、知識は人の発想、思考を豊富にしてくれます。世の中には簡単に正解を出せないことも多くあります。しかし、そんなときでも様々な知識を持っていれば、それらを総動員して何が正解かを自分なりに導き出すことができるのです。判断するための情報は多ければ多いほどいい。だから、人は勉強し続けなければいけません。

でも、残念なことに勉強を好きな人はそうはいません。どちらかと言えば、勉強には忍耐が必要。ある作家は「学ぶことは勇氣」と話されました。学校へ行きたくないとき、勉強したくないとき、その思いに反して学校へ行くこと、勉強を続けることは「勇氣」のいること。勉強という面白くないことを取って「勇氣」を出してやるのだ、と。

また、勉強はテストで高得点を取るためだけにやるものではありません。人として必要なものを身に付けるためにやるのです。だから、一冊の本、一つの夢を大切に、そこから学びましょう。

勉強には終わりがありません。人は一生学び続けなければならぬのです。特に勉強は若ければ若いほど身に付きます。だから、皆さんは「今」を大切に

「チャンスを無い」と嘆いている人に「人は必ず必要なときに必要なことや必要な人に出会う。出会ったら、必死に取り組み。そうすれば結果が出る。結果が出れば自信が生まれる」と励ましています。

冬休みのせいかつ

- ◆事故や非行から自他を守るよう、節度ある生活をしましょう。
- ◆進級や進路への自覚を深め、学習のまとめをしましょう。
- ◆余暇を利用し、家族とのふれあいの機会を多くもちましょう。

にして、しっかり学んでください。「今が一番若い」、この真理から目を逸らさず悔いを残さないために懸命に取り組みしましょう。

「PHP」14年1月号 通巻788号

冬休みの生活について、次のことに注意しましょう。

- 計画に基づいて学習し、「高い知性」を磨く。
- 計画や社会生活においても「時を守り、場を浄め、礼を正す」行動を心掛け、「美しい心」を磨く。
- 就寝、起床、食事等、規則正しい生活を送り、「強い身体」をつくる。
- 未処置の疾病を治療する。
- 常に安全を考え、正しい歩行、自転車の利用に努める。
- 外出する際は、保護者に「行き先」「用件」「誰と」「帰宅時間」を話し、許可を得る。
- インターネットのゲームサイト及び携帯型ゲーム機、コミュニケーションサイト、ライン等を通じた人間関係に気を付ける。
- 家庭や社会の一員として、人の役に立つ。
- 学校閉鎖期間(12・29～1・3)

朝のあいさつ運動

「冬のいじめ防止強化月間」の取組として、よりよい人間関係の構築、明るくさわやかな学校づくりを目指して、「朝のあいさつ運動」に力を入れてきました。

12月の第1・2週は、生活委員に加えて、PTA本部役員のみなさんを中心とした保護者(延べ人数12名)に参加していただきました。また、専門委員長選挙の立候補者、環境ボランティア委員、美術部員、各学年の職員らも参加し、毎日20人から30人近くの参加者が、玄関前で「おはようございます」とあいさつを交わし、すがすがしい朝になりました。2学年通信によると、新しい生徒会本部役員も「進んであいさつができる学校」「あいさつを充実させ、明るい学校」「はつきりとしたあいさつ」「元気にだれにでもあいさつする」といった考えをもち、朝の風物詩、新しい伝統になる気配を感じます。

寒さ厳しい冬がやってきまして、あいさつ声声で学校を活性化させたり、お互いに心をあたためたりしましょう。



次号は、1月8日に発行します。主な内容は「二年の始まり」「書き初め」等です。

少年の夢 をとめらの希望

新しい一年の幕開けです。そこで、我が国最古の歌集『万葉集』の中から、おめでたい一首を紹介いたします。

新しき年の始めの初春の

初春 今日降る雪のいや重け吉事



この和歌は、『万葉集』の编者とされる大伴家持が、大雪の降った元旦に詠んだと言われています。「新しい年の始めの今日降る雪のように、よいことも次々に積もるとよい」という意味があります。昔、新年に降る雪は縁起がいいとされてきました。そう考えると、今年もなんだかよい一年になりそうな予感がします。



書き初め大会

新校舎での生活により、さまざまな変化が起っています。校内書き初め大会もその一つです。今年も学年ごとに時間をずらしながら、体育館を会場に学年単位で、新春の書をしたためます。きつと雅楽のBGMに包まれながら、雅な雰囲気の中で一体感のある取組になることでしょう。また一つ、沼中の風物詩、伝統が築かれていく瞬間が目に見えるようです。

1月の生活目標

うがい・手洗いを徹底して、

風邪・インフルエンザの予防をしよう

そこで、書写の教科書である「中学書写 一・二・三年」(光村図書)から、詩人の谷川俊太郎さんが書いた「手書きの力」というエッセイを紹介いたします。

自分の書く文字が好きではないので、僕はキーを打って書くほうが多い。でも大事な手紙は手で書く。たとえ下手な字でも、手で書くほうが気持ちが良いと思うから。うちには良寛の書の複製が掛かっているが、見るたびに気持ちが良いかになる。字には書いた人の人となりや自然に表れるものがある。でも例えば詩などの場合、手書き文字で読むと、詩が味付けされてしまったと感じることがある。活字やフォントにもいろいろあるから、純粋に中身だけ読むためには、目で読むだけでなく、心の中でそれを声にしてみるのもいいかもしれない。

パソコンでも携帯電話でもキーを打つだけで、できあがった文字が出てくるが、字はもともと手を使って書いたものだから、出来合いの文字ではない自分の字を使っている。書いていくと、文字の形に潜んでいる歴史や、文字の意味の深さに気づくようになるし、一つ一つの文字の美しさも味わえるようになると思う。

各学年の課題は次の通りです。
1年：清新の気、不言実行
2年：信念を貫く、いつも笑顔
3年：感動を大切に、創造する喜び
金賞の作品を廊下や玄関に掲示します。保護者のみなさんもご覧ください。



学校における 対人関係

文部科学省が平成15年度に実施した「学校教育に関する意識調査」によれば、小学2年生や5年生だけではなく、中学2年生においても、学校生活で楽しいこと、不満なことのどちらの問いにも「友達との関係」が上位を占めていました。このことから、子どもたちの学校生活における「対人関係」の重要性がよくわかります。

そこで、冬休みに行われたある研修会で、文部科学省初等中等教育局視学官の杉田洋先生から、「学校における対人関係」について、すてきなお話を教わりましたので紹介します。

六年生のある教室で、子どもたちの発表による「私の宝物紹介」という学級活動が行われた。輪になって座った子どもたちが、順番に自分が一番大切にしている宝物を手にとり、エピソードを交えて紹介をしていく。六年間使った野球のグローブ、亡くなった祖母から貰ったアクセサリーなど、その子の家庭生活の一端が垣間見え、フライベイトでリアリティーのある話題に子どもたちは興味津々となっていた。そんな中で、ある女の子が何も持たずに立ち上がり、次のように言った。

「私の宝物は、となりに座っているA子さんです。私には、今までなかなか友達ができませんでした。でも、A子さんが友達になってくれました。私の話をよく聞いてくれたり、一緒に遊んでくれたりします。それ以来、友達が増え、勉強も頑張れるようになった。だから私の宝物は、A子さんです」

メッセージ

2学期終業式の後、冬休みの生活について注意点を確認し、大リーグで活躍するイチロー選手のコメントを紹介しました。故郷の愛知県豊山町で行われたイチロー杯争奪学童軟式野球大会の閉会式で語られた一節です。野球に限らず、人生の支えになるメッセージです。

「途中で手を抜くと自分自身で可能性をつぶしてしまおう。だから小さなことを重ねていってほしい」

「いい結果ばかりに目が行きがちだが、倍以上の失敗がある。相手に負けて抱いた悔しい思いが今の僕を支えている」

「強くて、人の心の痛みが分かる優しい大人になってほしい」



お知らせ

Information



銀世界になった翌日の12月17日より、学校指定のウインドブレカールを使用する登下校を許可しました。安全かつ健康に留意した登下校を！

次号は、1月20日に発行します。主な内容は「冬の生活」です。

少年の夢 をとめらの希望

生徒指導委員会発行

私立高校の入学試験や合格発表が始まり、3年生のみならず、学校全体が、さらなる学力向上や風邪・インフルエンザ対策、礼儀やマナーの向上に力を入れている時期です。沼中生としての磨きをかけるため、今号では礼儀やマナーについて考えていきたいと思います。

五輪から学ぶ

冬季オリンピックの開幕が近づいてきました。日本代表選手の活躍はもちろん、一流選手たちがしのぎを削る熱い戦い、工夫を凝らした開会式、選手を支える感動的なエピソードなどは大きな楽しみみです。



ところで、4年前のバンクーバー五輪直前、選手の服装や態度が話題になったことがあります。スノーボード男子ハーフパイプ代表の選手が、選手村の入村式において、公式服のネクタイを緩め、すそ出しのシャツ、ズボンをすり下げてだぶつかせた腰パン、大きめの黒いサングラス、耳と鼻にピアス、ドレッドヘア、鼻の下とあごにひげ、手には複数個の指輪といった服装で現れました。そのうえ、インタビュに答える際も、「別に」「特にない」といったぶっきらぼうな応対で、態度も悪かったのです。すると、現地入り報道を見た人から、スキー連盟やその選手が所属する大学に非難の声が多数寄せられ、一時は出場辞退まで検討されるほどの騒ぎになりました。

一方、サッカーの日本代表は、英国ブランド「ダンヒル」と契約し、移動時にはスーツを着ています。日本サッカー協会は「社会人としての常識を保持しよう」と指示しているそうです。

もちろん、日本オリンピック委員会(JOC)には「国際大会における日本代表選手団公式服装着用規定」があり、その第2条に、「日本選手団に認定されたものは、その自覚と誇りを持って選手団公式服装を着用しなければならぬ」とあります。しかし、この条項に違反しているかどうかは、自覚と誇りがキーワードになります。

群馬県内のある工業高校の先生が、高校生に対する服装指導の考え方として、「相手が不快に感じる服装をしない」と伝えていくと聞いたことがあります。自分の価値観や基準で物事をはかるだけではなく、「相手が何を求めているか」を考えていく力を高めていきたいと思います。



労働の本質は 雪かき

哲学者の内田樹氏が著した『下流思考』(講談社文庫)という本があります。その中で、「労働の本質は雪かきである」という考え方が、次のように説明されていました。

「どういふことかと言うと、まず雪かきをする人は、雪かきをしていくところをたくさんの人から目撃されることはない。人々が仕事に行くときにはもう既に雪かきは終わっている。」



きれいになった道を、みんなが当たり前のよう歩いて、通勤・通学する。「誰かが雪かきをしてくれたんだ」と思いながら急いで歩く人もいるかもしれないが、誰かが雪をかいたのかもわからないので、感謝の気持ちが言葉になることは少ないでしょう。しかし、誰かが雪かきをしなかったら、凍った地面に足を滑らせて転んだり、怪我をしたりするでしょう。

そう考えると、雪かきは誰かを喜ばす行為というより、その道を通る人たちが普通に歩いて行けるように事前に行っておく行動のように感じます。



そして、何事もなく、平常通りに人々が仕事に行ってしまったのを見届けたときに、雪かきをした人はものすごく充実感を感じ、「雪かき」という作業にやりがいを感じるのである。

誰も見ていないし、誰からも賞賛されない地味な作業を、誰かがやらなければならぬし、そういうことをする人がいることで社会はうまく回っているのかもしれない。

しかし、これは仕事に限りません。大人社会で言えば、消防団や民生委員、地区役員、防犯パトロール、家事、育児など、何十年もやっている人たちがたくさんいます。もちろん、学校でも、掃除や係活動、生徒会活動や委員会活動、ゴミ拾い、給食当番などです。

だからこそ、無言の賞賛を感じる感性をもってないと、「どうして自分がやらなくてはいけないのか」「こんなことやっているといられるか」などという気持ちにもなるでしょう。「雪かき」を意識しながら行動を考えましょう。

風邪 インフルエンザ 対策

今月は「風邪・インフルエンザ予防月間」です。そこで、群馬県のHPから予防のヒントを得ました。基本は「手洗い・咳エチケット」だそうです。以下の注意事項も合わせて紹介します。



- ◇ 外出から帰宅したときには、手洗いを行いましょう
- ◇ 咳などの症状がある人は、咳エチケットを守りましょう。
- ◇ 十分な睡眠と栄養をとり、できるだけ人ごみを避けましょう。
- ◇ 感染を広げないために、かかったあとは完全に治るまで外出を自粛しましょう。
- ◇ 咳や発熱などの症状のある方は、医療機関に電話をしてから受診をするようにしてください。
- ◇ その際には、必ずマスクを着用しましょう。
- ◇ マスクをせずに咳やくしゃみをする時、ウイルスが2〜3メートル飛ばすといわれています。そこで必要なのが「咳エチケット」です。
- ◇ 咳やくしゃみをするときには、ティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◇ 使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。
- ◇ 症状のある人は、マスクを正しく着用し感染防止に努めましょう。



次号は、2月3日に発行します。主な内容は「立憲式」「生き方」「個性」などです。

少年の夢をとめらの希望

いじめ防止子ども会議

いじめをなくし笑顔の輪を広げよう

2月12日、沼田中学校区いじめ防止子ども会議を行いました。今年度は群馬県全体でいじめ防止活動が活発化し、そのままとめとして各市町村ごとに会議が開かれることになりました。そこで、学区内の沼田東小、沼田北小の5・6年生が8名ずつ集まり、本校からは生徒会本部役員と生活委員長、1年生の学級委員長が参加して、リーダー研修を兼ねたブレ会議を実施しました。



沼田中学校区いじめ防止子ども会議

放課後のわずかな時間にも関わらず、各学校における取組を発表し合うことで、それぞれの工夫やよさに気付き、今後の活動に向けてたいへん参考になりました。具体的には、あいさつ運動の活性化、各種集会での啓発、交流活動の工夫、仲間同士が支え合うピア・サポート活動の導入などが紹介されました。2年生が堂々と発表したり、司会として進行したりする姿を、小学生は尊敬の眼差しでとらえていたようです。

その中から、生徒会長の内藤篤志くんと、

生活委員長の戸丸愛梨さんが、21日に行われた沼田市いじめ防止子ども会議に参加し、100名を超える参加者の前で、開会行事や班別協議の司会、全体発表などを務め、沼中を含む市内の各小中学校の取組のよさを共有できました。

開会行事では宇敷重信教育長さんから「徳は強ならず、かならずとなりあり(正しい行いをしていれば強立することとはなく、必ず理解してくれる人に恵まれる)」という『論語』の一節を紹介していただいたり、沼田市教育委員会の後藤一将指導主事より、「自分たちでいじめをなくそうという目標をもつてほしい」、「仲間の絆を大切にしたい」、「いじめについて一緒に考えてくれる大人に相談する気持ち大切にしたい」といったメッセージが送られたりするなど、学びの多い活動となりました。

英助

先週は記録的な豪雪の影響で、休校や部活動カットなどの措置が取られました。そんな中、除雪作業を通して、人の温かさを感じる場面が、17日の上毛新聞で報じられました。

▼16日から除雪作業が本格化。新興住宅地の自宅周辺でも、住民が協力して道路に積もった大量の雪かきに汗を流した。「みんなが使う道路」。あいさつ程度だった住民同士の間にも自然と連帯感が芽生えた。そんな光景が、あちこちで見受けられたのではないだろうか▼出勤途中の道路では片側1車線が中央付近しか通れず、互いに譲り合いながら倍以上の時間をかけてたどり着いた▼「英助」。今こそ、その精神で自然がもたらした困難を乗り越えたい。

オリンピックから学ぶ

文武両道人間教育の場

次に紹介するのは、衆議院議員で、日本オリンピック委員会の選手強化本部長であり、ソチ五輪で選手団の団長を務めている橋本聖子さんが、宮崎県で行われた観光従事者研修会で講演したものです。



今、日本オリンピック委員会としても、私個人としても、すごく反省すべき点があります。それは何かと言いますと、「勉強ができないからスポーツをさせる」というイメージが、世間一般にあることです。これは、私たちスポーツ界の責任です。

しかし、アスリートを育て上げる際に確実に言えることは、勉強ができればメダリストには絶対になれない、ということ。そこで、1996年のアトランタオリンピックでの失敗を踏まえて、ゴールドプラン委員会というものを立ち上げました。金メダルを目指す委員会ですが、この本当の意味は、「人生をゴールドにする人づくり」です。こういう姿勢でアスリートを育てています。

私は、アトランタオリンピックのときは、選手であり、国会議員でした。オリンピック会場に向かう選手団を乗せた飛行機から降りる時、私は一番最後に降りたのですが、嘩然としました。スリッパや新聞や紙コップが散乱し、毛布も畳まれていなかったからです。

「これが本当に日本を代表する選手たちか」と目を疑いました。案の定、いい結果ではありませんでした。その反省を受けて、「人間力なくして、競技力向上なし」ということをテーマに掲げ、選手強化をやるようになりました。

日本を代表する選手というのは、血税を使つての代表選手です。いかに「公人」ということに耐えられるかということも、競技力の一つになります。実際、選手村を去る際、私はすべての選手の部屋をチェックしています。お世話になった物に対して、感謝の気持ちを込めて後始末ができていないかをチェックしているのです。

そうすると、物に感謝できるかどうか、競技力に結びついていることがわかります。競技成績のよい選手たちは、人の見ていないところでも物に感謝することができています。

そのような心があってこそ、精神の鍛錬ができるのです。そして、その日々の感謝の積み重ねが、いざとなったときに、体格では劣る日本選手が勝つ、大きな要素になるのです。

このことを示していくためにも、私は今、オリンピックを教育の場にしたという思いで、人づくりに励んでいます。「みやまき中央新聞」平成第1月20日 2538号

日本選手団が活躍したソチ五輪でも、数々の競技でたくさんの感動秘話が聞かえてきました。「人間力なくして競技力向上なし」を実感します。

次号は、3月3日に発行します。主な内容は「卒業」「言葉の力」などです。

少年の夢をとめらの希望



あなたはこの学校に
どんな伝説を残して
卒業していきますか

13日の卒業証書授与式まであとわずかになりました。この時期は公立高校後期選抜や卒業式練習など、中学校生活3年間の集大成と言えます。

そんな時、教育関係のサイト(TOSSランド)で興味深い取組を見つけました。「利他」を言い続けてこられた先生が、卒業式までの10日間を充実させた実話の概要を紹介します。

卒業式まで残り10日となったとき、鈴木恒太先生は次のように問いました。

- ・ 利他を掲げたこのクラスで、残り10日、何をするか?
- ・ この学校にどんな伝説を残して卒業していきますか?

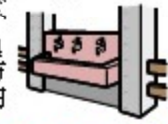
- 「利他」とは、「他人の利益となるように回ること」「自分のことよりも他人の幸福を願うこと」といった意味をもっています。この質問を受け、子どもたちは次のように回答したそうです。
- ・ 畑の整備
 - ・ 靴をそろえる
 - ・ あいさつをする
 - ・ ゴミを拾う
 - ・ 笑顔で過ごす
 - ・ 次の学年のため
 - ・ 教室をきれいにする
 - ・ 人の話を聞く
 - ・ 人を助ける
 - ・ 黒板を綺麗にする
 - ・ 本をそろえる



卒業式までの姿

自分で設定した「10の利他」は、学級通信に名前入りで掲載し、全体で共有したそうです。また、各自チェックシートを用いて、机の中に常備し、取り組んだ日付を記入していきまし。実際にやったのは次のような活動です。

- デイケアサービスでのコンサート
- 畑の整備
- 玄関の靴や、パソコン教室のスリッパの整理
- 図書室や学級文庫の整理
- 東日本大震災の募金活動



日頃から「格好いいことをする必要はない。当たり前のことを、当たり前にしていくのが一番格好いいんだ」と言い続けられていたせいか、等身大の「利他」が多かったようです。

卒業式当日の姿

当時は、東日本大震災直後の卒業式だったこともあって、社会全体に自粛ムードが広がっていたためか、鈴木先生は「卒業式には、派手な演出も、偽善的な涙もいらない」と指導しました。子どもたちは期待に応え、「淡々とした中の美」「普段通りの姿を小学校生活最後に示す美」を立派にやり遂げたそうです。

しかし、その後、「今から、教室に戻りたい」と申し出る子どもがいました。理由を尋ねると、「教室に戻って、いつもの掃除をしてから下校したい」と話しました。「立つ鳥跡を濁さず」の言葉通り、卒業式を終えても、教室をきれいにし去ろうと考えた子どもたちの心の成長は見事なものです。

自分が「誰か」になる

職場でも家庭でも、掃除やゴミ出し等、必ず誰かがやらなければならないことがあります。それらは一見、面倒にも思われます。しかし、誰かがやらなければならないハカハなら、自分がその「誰か」になる……このように考えると、前向きに取り組むことができるのではないのでしょうか。

言葉は力である

2学期の後半から、インターネット上のコミュニケーションにおいて、複数のトラブルがありました。そこで、学年ごとに生徒対象の講習会を実施したり、学年保護者会で家庭との連携を求めたりしてきました。ネットの扱い方を改善するだけでなく、言葉の使い方やコミュニケーション力を高めていきましょう。



「水点」「塩狩峠」など、多くの小説を著した三浦綾子さんは、次のように述べています。「言葉は力である、と私は思う。一言がその命を奪うこともある。舌先三寸で人を殺す」という言葉を、幼い頃からよく聞いたものだ。言葉というものは理不尽なほどに人間を動揺させ墮落させ、非情に走らせるかと思ふと、奇跡のように甦らせ、向上させ、

意欲を与えるものである」(『小さな一歩から』講談社文庫)

私たちが発する言葉が大きな力を持つことは、古今東西で、多くの先人たちが述べてきました。道元禅師の「愛語、よく回天の力あり」(心のこもった温かい言葉には、世の中を変えるほどの大きな力がある)、「正法眼蔵」なども、その一つです。

近年は携帯電話やインターネットをはじめとする通信技術の発達により、多種多様なコミュニケーションの手段が生まれました。離れた場所にいる人に対して、手軽に言葉を伝えることができるようになり、格段に便利になっています。それだけに、一方では顔と顔を合わせて言葉を交わすときと同様に、「伝える言葉に真心を込めること」「発せられた言葉から相手の心情を推し量ろうとすること」の大切さは、変わらず心に留めておかなければなりません。

また、「言葉は身の丈」といいます。言葉とは、発する人の人間性を表すものであるということです。私たちは自分自身の心を磨き、日々、よりよい言葉を発していきたいものです。その言葉によって周りにいる人に喜びを与え、温かく親密な人間関係の輪が広がっていけば、その輪の中にいる自分自身にも大きな喜びがもたらされるでしょう。何気ないひと言が、人の心に火を灯すことがあります。また、何げないひと言が、人の心を傷つけることもあります。



次号(最終号)は、3月12日に発行します。主な内容は「嘘(はなむけ)の言葉」です。

「ニューモラル」第五三四号 (平成26年2月1日発行)

少年の夢をとめらの希望

生徒指導委員会発行

卒業・進級の暁(はなむけ)に…

来る13日(木)、67回目となる卒業証書授与式が挙行されます。本校は1945(昭和20)年に開校し、全校の生徒が1839人を数えた1962(昭和37)年をはじめとするマンモス校時代を経て、合計2万人以上もの卒業生を輩出している歴史ある伝統校です。ちなみに、今年度の全校生徒は387名、そのうち125名の卒業生がこの学舎から巣立っていきます。

そこで、この春に卒業、進級する沼中生に向けて、はなむけの言葉を贈ります。



★人のためならず

前回、「他人の利益となるように回ること」「自分のことよりも他人の幸福を願うこと」といった意味をもつ「利他」について紹介しました。似たような言葉は他にもあり、日本は我が国はもろろん、海外でも尊重される考え方のようです。



例えば、「情けは人のためならず」という言葉を、みなさんはどのような意味で受け取っていますか。「情けをかける、人に優しく接することは、その人を甘やかすことになり、その人を成長させるためにならない。その人のことを本気で思うなら、厳しく接しなければならぬ」という意味で使っている人は少なくないようです。

しかし「情けは人のためならず」の意味は、「人に情けをかける」と、その行為はめぐりめぐって自分の利益になって返ってくる。人に優しくすることは、人のためではなくて、自分のためになる」というもので、すべてのものは開わり合い支え合っているという仏教の教えがもとになっているそうです。

これは日本独特の考え方ではなく、同じようなものが海外でも見受けられます。

それは、アメリカの先住民族であるアメリカインディアンの方々の考え方です(参考文献は『月に映すあなたの一日』)。彼らの社会では含蓄深い言葉がいくつも言い伝えられていることが知られていますが、その一つ、「与えれば与えるほど、良きことがあなたに訪れる」とは、まさに「情けは人のためならず」と同じ意味です。また、「人生はあげること、もらうことの両方である」という言葉もあります。すべてのものはお互いに支え合っているという考え方に立ち、いかに人の役に立てるかを大切にしたい生き方を模索して欲しいと思います。



★一生懸命に生きる

坂村貞民が書いた「一本道を」という詩があります。

木や草と人間と／どこがちがうのだから／みんな同じなのだ／いつしうけ／ときに生かされ／人間よりも偉い／ときにはかかれ／かれらは時がくれば／花を咲かせ／実をみのらせ／自分を完成させる／それにくらべて人間は／何一つしないで終わるものもある／木に学べ／草に習えと／わたしは自分に言い聞かせ／今日も一本の道を行く

一生懸命に生きるとはどういうことなのか、折にふれ考えていきましょう。名もない植物も、時が来ればちゃんと花を咲かせ、実をみのらせ、自分自身を完成させていきます。

樹齢15年の若木も、スパッと切ったら、中には15本の年輪が刻まれています。では、あなたはどうか。中学校生活で、どのように自身を充実させ、成長させてもらったでしょうか。

★花友(かゆう)

豪雪の影響でまだ残雪が消えませんが、花咲く春も近づいてきています。

みなさんは桜が咲くと、「わあーきれいな花を愛でます。しかし、花が散ってしまうと、人は見向きもしません。そういう人間を「花友」というそうです。人が順調なときには近寄ってくるけれど、調子が悪くなると、見向きもしない友だちのことです。これは本当の友だちではありません。中学校生活の大きな財産は、「友だち」「友情」と答える人も多くいるでしょう。その証拠に、毎日の生活は実に多くの友情に支えられていました。植物にとっても、一番大切なのは「花」ではないことがわかりましたか。大切なのは、目には見えない「根っこ」です。人間も同じで、一番大切なのは人間の年輪や心なのではないでしょうか。

今、桜の木が一生懸命、開花の準備をしています。みなさんも、一生懸命今を生きたら、それぞれの使命は果たし、成長することが出来ます。

ときに自分を見つめ、何が正しいのか、何が美しいのかを考えてみてください。そして、その際、人のためにも汗を流せ、涙の乾かない人間に成長しているか、確かめてみてください。

連絡 上履き

平成26年度 から

2月13日の新入生説明会終了後、新入生に向けて新しい上履きが販売されました。新校舎での生活に合わせ、体育館シューズと一本化した上履きを導入します。なお、新しい上履きは、新2・3年生でも購入できます。

・価格 3360円

※消費税5%の場合

・サイズ 22.5 30cm

・カラー 新1年 青

新2年 赤

新3年 緑

・販売店 シューマートカナイ(桜町) 様

マルフチ洋品店(上之町) 様

キタノスポーツ(中町) 様



1年間を振り返って

●あいさつ運動

生活委員会を中心に、朝の玄関前に立つ生徒が増え、明るく元気なあいさつがたくさん交わされました。

●いじめ防止活動

「オール群馬」で取り組んだ活動を本校なりに工夫しました。小学校に出かけたり、PTA本部役員の方々が参加したりしたあいさつ運動の実施、サミットやフォーラムへの参加と報告、沼中学区でのいじめ防止子ども会議の開催など、新たな活動も始まりました。

●全体を通して

新しい校舎での生活が始まり、比較的落ち着いた雰囲気の中で、温かい心の交流が図れたように感じます。

昨年度に引き続き、一年間の愛読書があり、文責：林